

大熊町 住民意向調査 報告書

令和8年3月

復興庁
福島県
大熊町

大熊町 住民意向調査 報告書

目次

I 調査の概要	1
1-1 調査目的	3
1-2 調査内容	3
1-3 調査設計	3
1-4 回収結果	3
1-5 報告書の見方	3
II 調査結果（主要項目）	5
2-1 世帯の属性・状況	7
2-1-1 現在の職業（就業形態）（問3（1））	7
2-1-2 世帯人数（問6・問10）	7
2-1-3 現在の居住自治体（問8）	8
2-1-4 震災発生当時の住居形態（問5）	8
2-1-5 現在の住居形態（問9）	9
2-2 調査結果	10
2-2-1 大熊町への帰町意向（問13）	10
2-2-2 大熊町に戻ること考えた理由（問14-1）	13
2-2-3 大熊町内での今後の生活において必要だと感じていること （問14-2）	14
2-2-4 大熊町へ帰町する場合の家族構成（問15-2）	15
2-2-5 大熊町へ帰町した場合に必要なサービス（問16-2）	16
2-2-6 大熊町へ帰町した場合に希望する住居形態〔戻りたいと 考えている方〕（問16-3）	17
2-2-7 大熊町への帰町を判断するために必要なこと （問17-1）	18
2-2-8 大熊町に戻らないと決めている理由（問19-1）	19
III 調査結果（全項目）	21
3-1 回答者の属性	23
3-1-1 性別	23
3-1-2 年齢	23
3-1-3 現在の職業（就業形態）	24

3-1-4	現在の業種	25
3-2	東日本大震災発生時の状況	26
3-2-1	震災発生当時の住まいの区域	26
3-2-2	震災発生当時の住まいの行政区	26
3-2-3	震災発生当時の住居形態	27
3-2-4	震災発生当時の世帯構成・人数	28
3-3	現在の状況	29
3-3-1	現在住民票をおいている自治体	29
3-3-2	現在の居住自治体	29
3-3-3	現在の住居形態	30
3-3-4	現在の世帯構成・人数	31
3-4	この1年の大熊町内の活動	32
3-4-1	利用した町内の施設・サービス	32
3-4-2	参加した町内開催のイベント	34
3-5	将来の意向	36
3-5-1	大熊町への帰町意向	36
3-5-2	大熊町に戻ること考えた理由	40
3-5-3	大熊町での今後の生活において必要だと感じていること	42
3-5-4	大熊町への帰町時期	45
3-5-5	大熊町へ帰町する場合の家族構成	47
3-5-6	大熊町へ帰町した場合の世帯構成・人数	49
3-5-7	大熊町へ帰町した場合に今後の生活において必要な施設	50
3-5-8	大熊町へ帰町した場合に必要なサービス	51
3-5-9	大熊町へ帰町した場合に希望する住居形態	53
3-5-10	大川原地区内の復興拠点や特定復興再生拠点区域への 居住意向	54
3-5-11	大川原地区内の復興拠点や特定復興再生拠点区域への居住を 判断できない理由	57
3-5-12	大熊町への帰町を判断するために必要なこと	58
3-5-13	大熊町との「つながり」を保ちたいか	60
3-5-14	大熊町を訪れたい頻度	62
3-5-15	現時点で戻らないと決めている理由	64
3-5-16	帰町しない場合に今後の生活において必要な支援	67
3-5-17	帰町しない場合に居住を検討する自治体	68
3-5-18	帰町しない場合に今後の住まいとして希望する住居形態	69

3-6	大熊町内での就労意向	70
3-6-1	大熊町内で働く場が整備された場合の家族の就労意向	70
3-7	不動産の取り扱い意向	72
3-7-1	大熊町内に保有している宅地・建物の利用意向	72
3-7-2	不動産利活用事業への登録	72
3-7-3	不動産利活用事業に登録していない理由	73
3-8	復興公営住宅	74
3-8-1	福島県営の復興公営住宅への入居意向	74
3-8-2	福島県営の復興公営住宅への入居を希望する時期	76
3-8-3	福島県営の復興公営住宅への入居を希望する市町村	76
3-9	情報入手	77
3-9-1	大熊町に関する情報の入手経路	77
3-9-2	大熊町役場からの情報提供の満足度	77
3-9-3	関心のある情報	78
3-10	持続可能なまちづくりへの取り組み	79
3-10-1	「大熊町ゼロカーボンビジョン」の認知度	79
3-10-2	持続可能なまちづくりへの取り組みへの意見	79
3-11	意見・要望	81
3-11-1	意見に係る記入内容の分類結果	82
3-11-2	生活について	83
3-11-3	震災発生前の居住地について	85
3-11-4	賠償について	86
3-11-5	帰還について	87
3-11-6	避難期間中及び将来の住宅について	88
3-11-7	除染について	89
3-11-8	復旧・復興について	90
3-11-9	原発の安全性について	91
3-11-10	原発事故に対する対応について	92
3-11-11	その他	94
IV	参考資料	95
4-1	使用調査票	97

I 調査の概要

1-1 調査目的

本調査は、東京電力福島第一原子力発電所の事故により避難生活を余儀なくされていた大熊町民の「帰町後の生活環境の改善」、「帰町に向けた諸施策の適切な実施に向けた取り組み」を検討するための基礎資料とすることを目的とする。

1-2 調査内容

※4-1 使用調査票を参照のこと

1-3 調査設計

(1) 調査地域	大熊町
(2) 調査対象と標本数	世帯の代表者 5,109 世帯
(3) 調査手法	郵送にて配布・回収（自記式）、及びWEB調査
(4) 調査期間	令和7年11月4日（火）～令和7年11月18日（火）
(5) 調査主体	復興庁、福島県、大熊町
(6) 調査機関	株式会社サーベイリサーチセンター

1-4 回収結果

有効回収数 1,664 世帯（有効回収率 32.6%）

1-5 報告書の見方

- ・調査数（ $n = \text{Number of cases}$ ）とは、回答者総数あるいは分類別の回答者数のことである。
- ・回答の構成比は百分率であらわし、小数点第2位を四捨五入して算出している。従って、回答比率の合計が100%にならない場合がある。
- ・回答者が2つ以上の回答をすることができる多肢選択式の質問においては、全ての選択肢の比率を合計すると100%を超える。
- ・「その他」に内訳を記載している項目に関しては、個別の項目を合算して構成比を改めて算出している。従って、内訳の回答比率の合計が、グラフ記載の「その他」の回答比率と合致しない場合がある。
- ・図表および文章中で、選択肢の語句等を一部簡略化している場合がある。
- ・調査数（ n 値）が少数（概ね30を下回る）のものは、回答構成比の信頼性が低いため、文章中の分析では言及していない。
- ・Ⅱ調査結果（主要項目）の設問ごとのコメントについては、令和7年度について述べている。
（令和6年度の結果は、参考値として掲載）

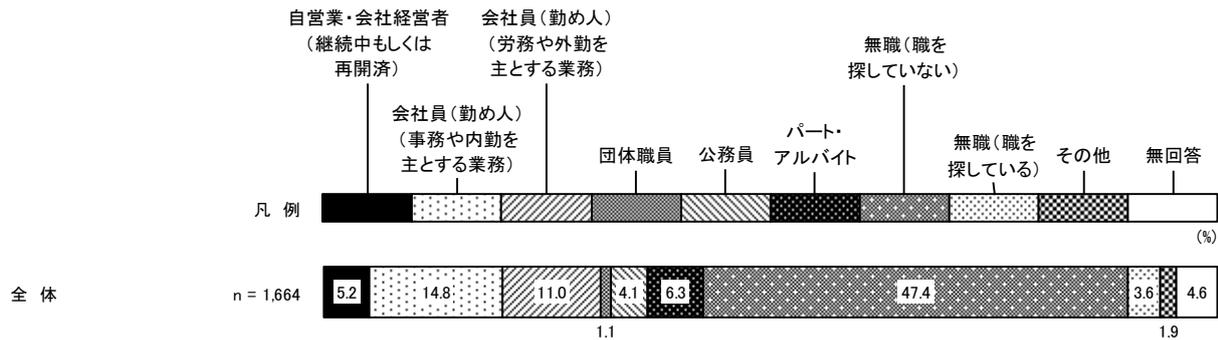
II 調查結果（主要項目）

2-1 世帯の属性・状況

2-1-1 現在の職業（就業形態）（問3（1））

現在の職業（就業形態）については、「無職（職を探していない）」以外では、「会社員（勤め人）（事務や内勤を主とする業務）」が14.8%と最も高く、次いで「会社員（勤め人）（労務や外勤を主とする業務）」が11.0%となっている。

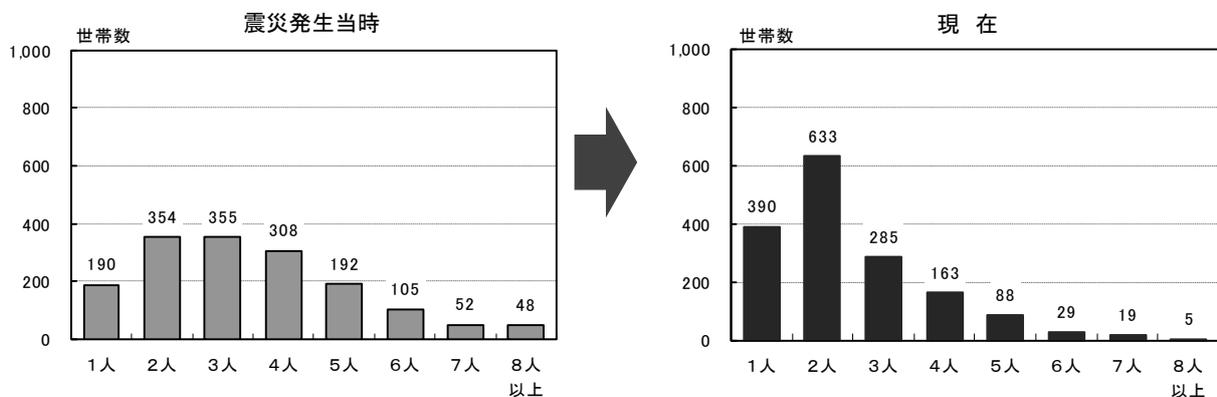
<図表2-1-1 現在の職業（就業形態）>



2-1-2 世帯人数（問6・問10）

世帯人数については、震災発生当時は「3人」が355世帯と最も多く、次いで「2人」が354世帯、「4人」が308世帯となっている。
現在の世帯人数は、「2人」が633世帯と最も多く、次いで「1人」が390世帯、「3人」が285世帯となっている。

<図表2-1-2 世帯人数>

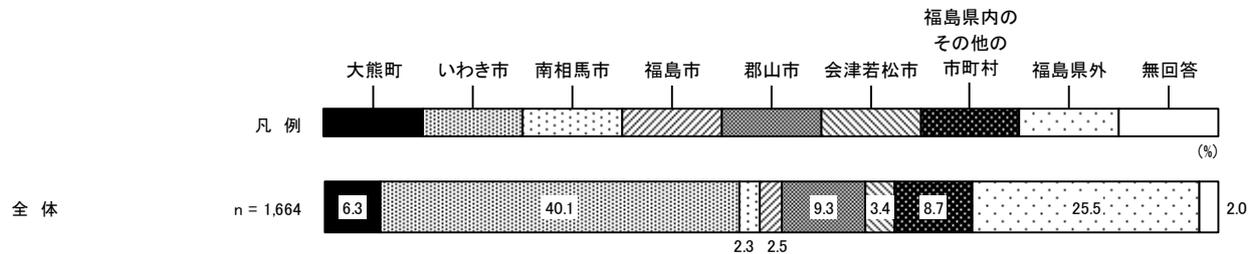


II 調査結果（主要項目）

2-1-3 現在の居住自治体（問8）

現在の居住自治体については、「いわき市」が40.1%と最も高く、次いで「福島県外」が25.5%、「郡山市」が9.3%となっている。

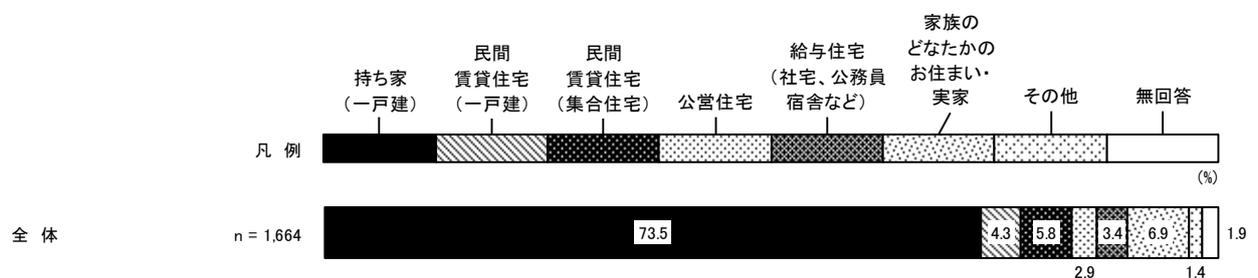
<図表2-1-3 現在の居住自治体>



2-1-4 震災発生当時の住居形態（問5）

震災発生当時の住居形態について、「持ち家（一戸建）」が73.5%と最も高く、次いで「家族のどなたかのお住まい・実家」が6.9%、「民間賃貸住宅（集合住宅）」が5.8%となっている。

<図表2-1-4 震災発生当時の住居形態>

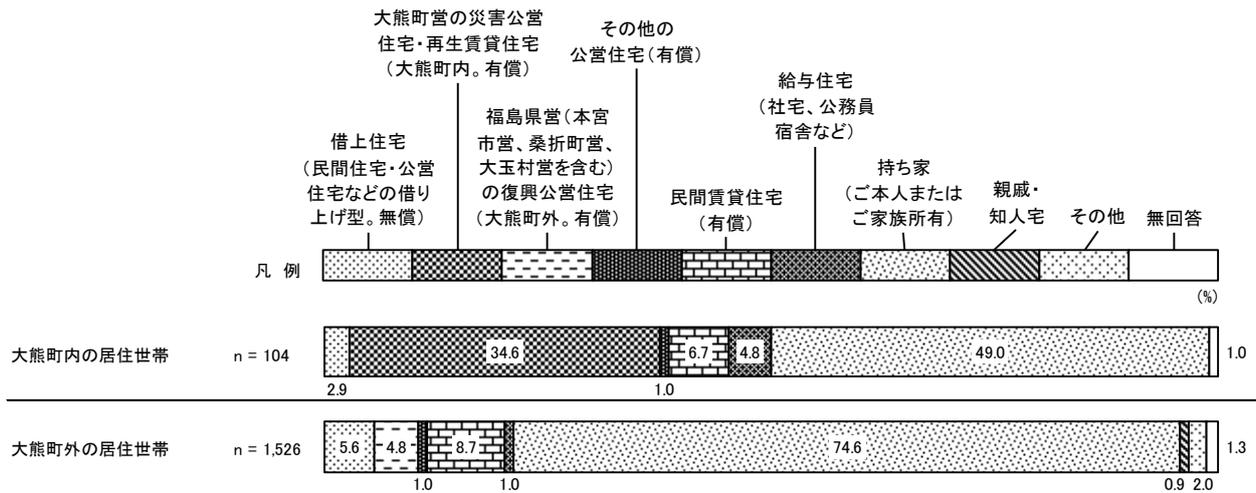


2-1-5 現在の住居形態（問9）

現在の住居形態について、大熊町内の居住世帯では「持ち家（ご本人またはご家族所有）」が49.0%と最も高く、次いで「大熊町営の災害公営住宅・再生賃貸住宅（大熊町内。有償）」が34.6%、「民間賃貸住宅（有償）」が6.7%となっている。

大熊町外の居住世帯では「持ち家（ご本人またはご家族所有）」が74.6%と最も高く、次いで「民間賃貸住宅（有償）」が8.7%、「借上住宅（民間住宅・公営住宅などの借り上げ型。無償）」が5.6%となっている。

<図表2-1-5 現在の住居形態（現在の居住地域別）>



2-2 調査結果

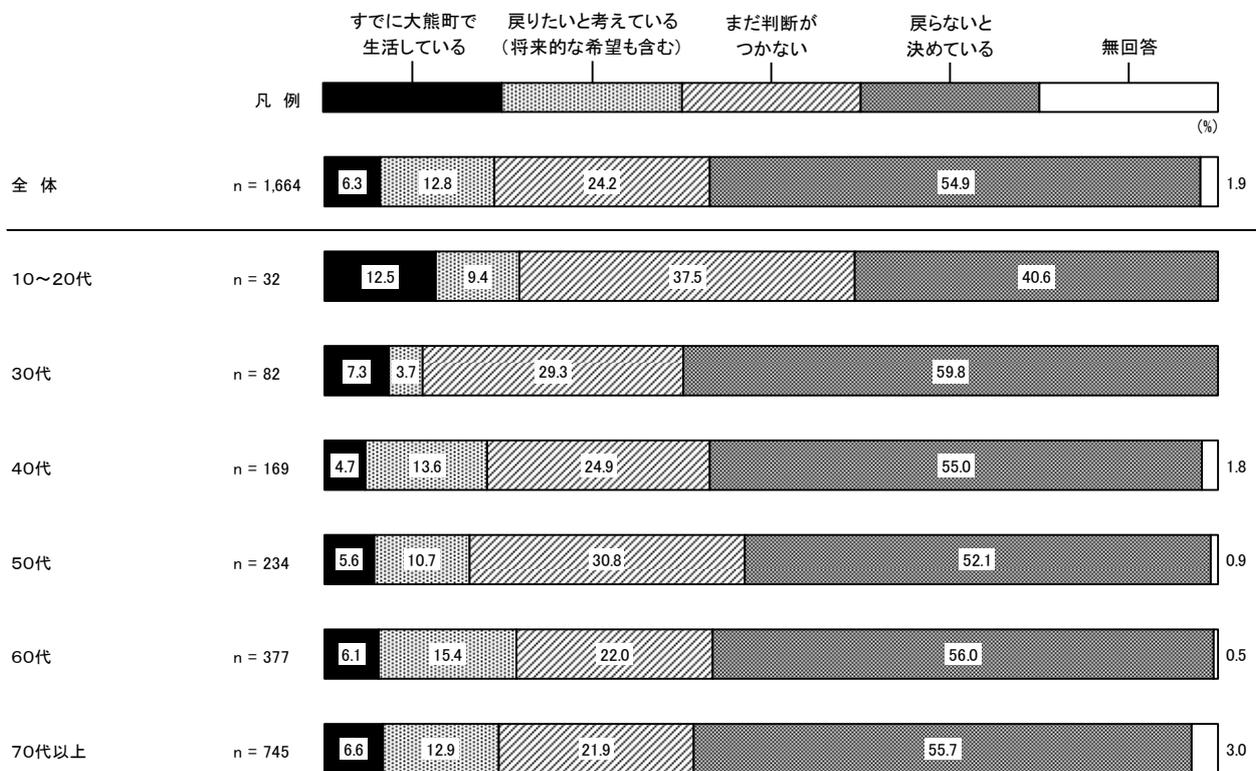
2-2-1 大熊町への帰町意向（問 13）

大熊町への帰町意向については、「すでに大熊町で生活している」（6.3%）、「戻りたいと考えている（将来的な希望も含む）」（12.8%）をあわせると、大熊町への帰町意向のある世帯は 19.1%となっている。

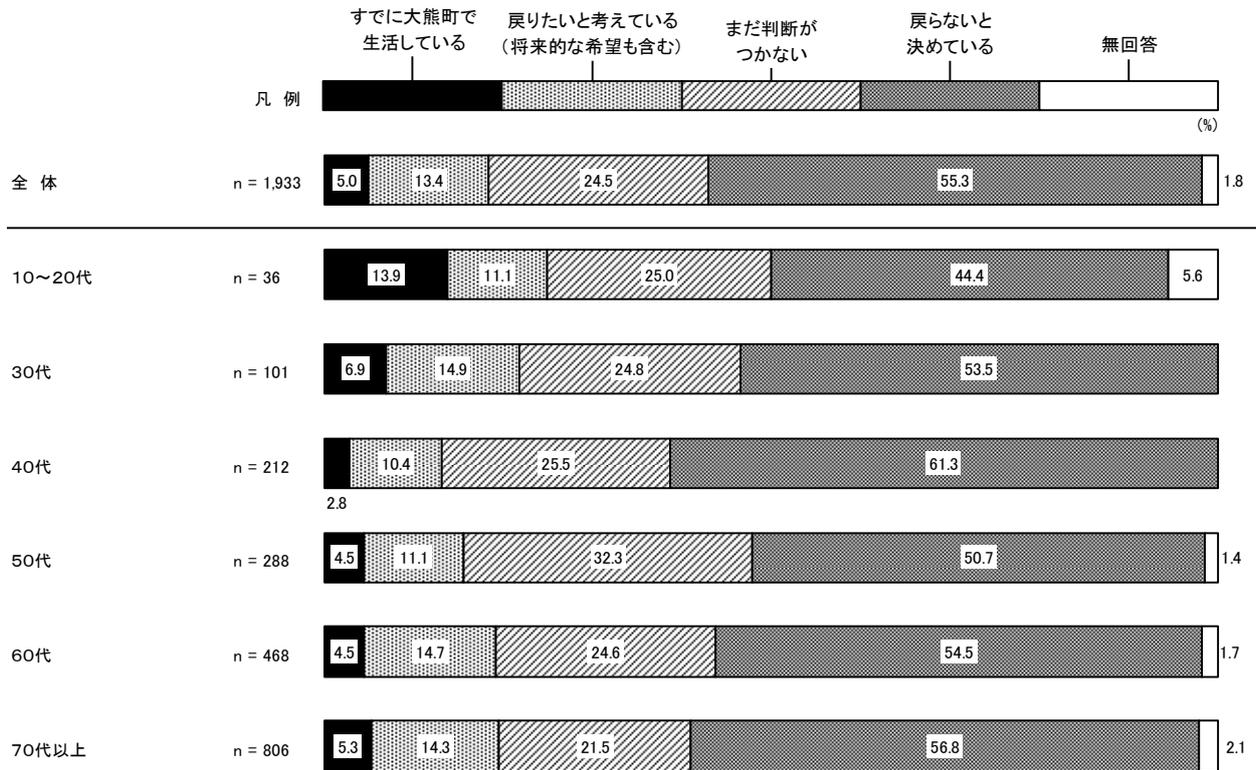
回答者の年齢別にみると、「まだ判断がつかない」は10～20代で37.5%、50代で30.8%、30代で29.3%と高い。「戻らないと決めている」は30代で59.8%と高くなっている。

震災当時の居住地域別にみると、「すでに大熊町で生活している」「戻りたいと考えている（将来的な希望も含む）」をあわせた大熊町への帰町意向のある世帯について、大川原1では「すでに大熊町で生活している」が16.7%と高く、「戻りたいと考えている（将来的な希望も含む）」をあわせた大熊町への帰町意向のある世帯は33.4%となっている。また、野上2、下野上2、夫沢3では、「すでに大熊町で生活している」「戻りたいと考えている（将来的な希望も含む）」をあわせた大熊町への帰町意向が2割台半ばと高くなっている。

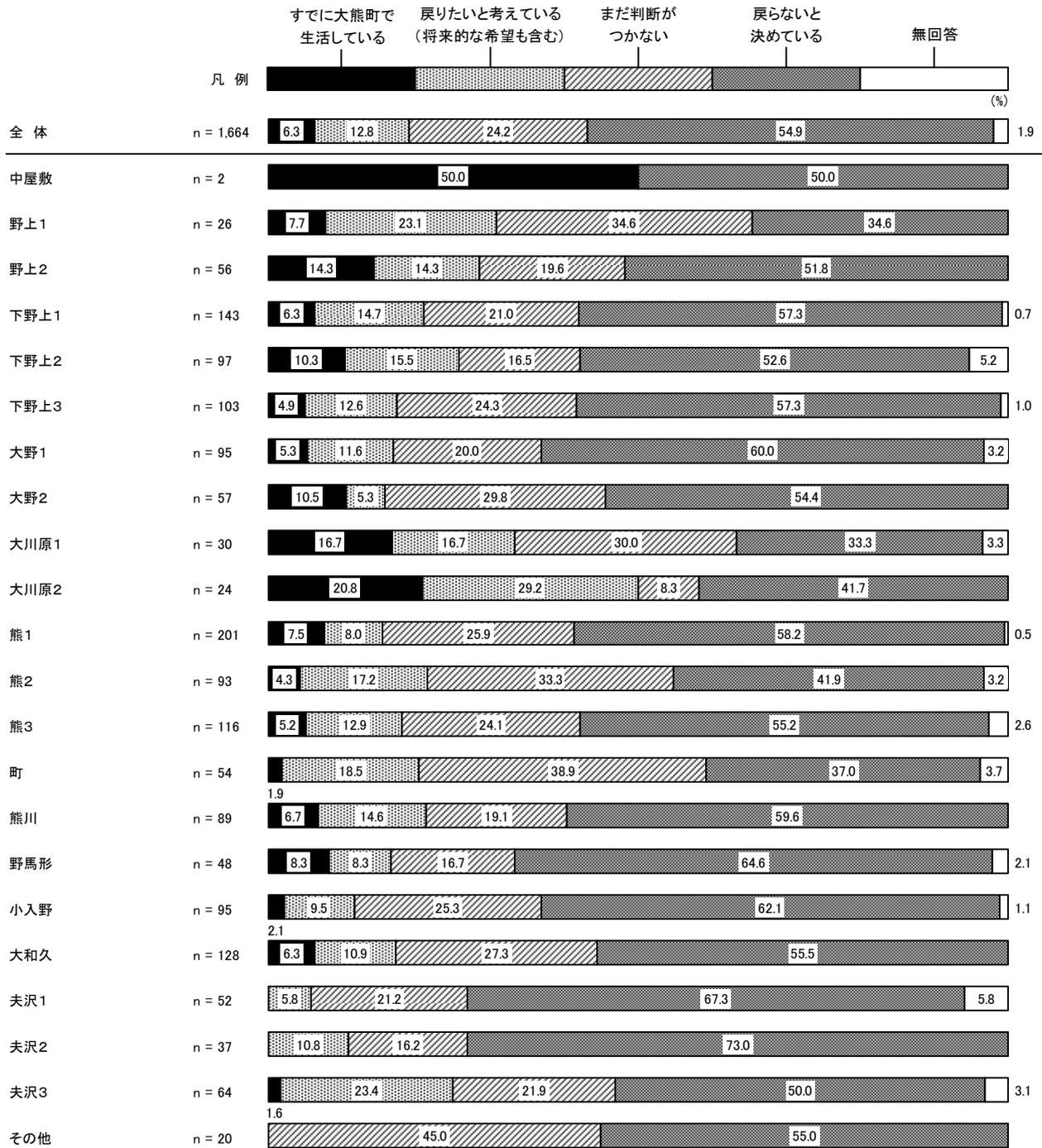
<図表2-2-1-1 大熊町への帰町意向：令和7年度（年齢別）>



<図表2-2-1-2 大熊町への帰町意向：令和6年度（年齢別）>



<図表2-2-1-3 大熊町への帰町意向（震災当時の居住地地域別）>

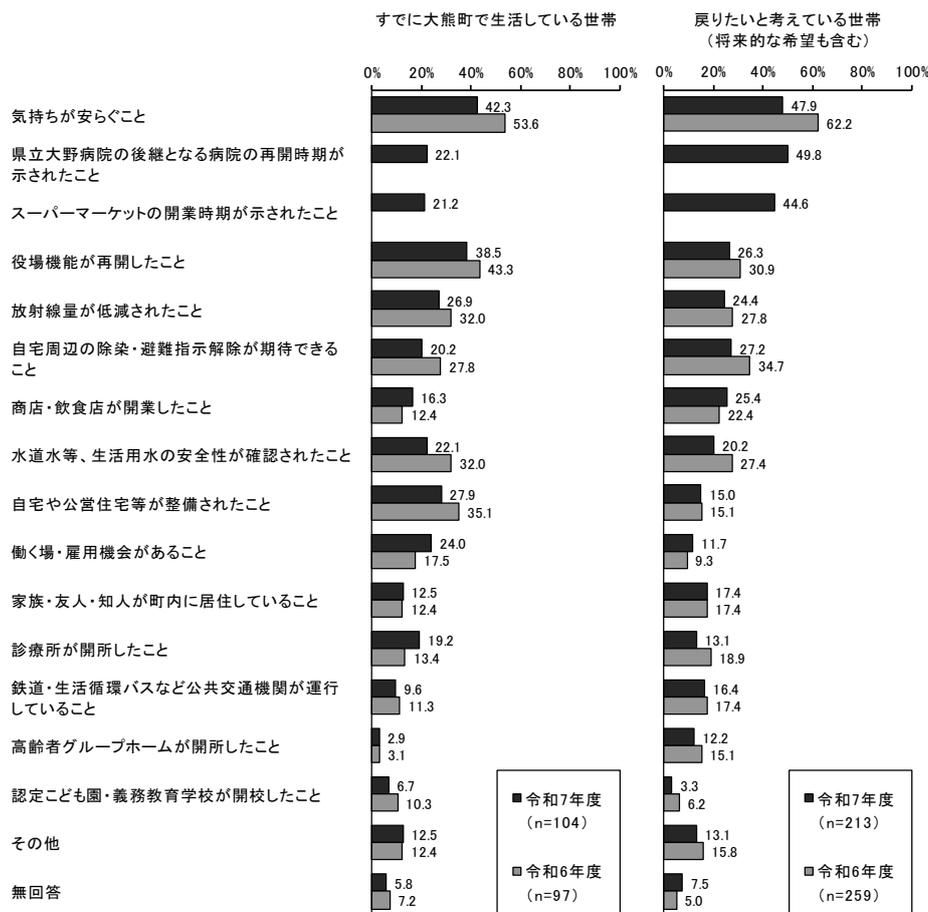


2-2-2 大熊町に戻ることを考えた理由（問 14-1）

大熊町へ戻ることを考えた理由について、帰町意向別にみると、すでに大熊町で生活している世帯では、「気持ちが安らぐこと」が42.3%と最も高く、次いで「役場機能が再開したこと」が38.5%、「自宅や公営住宅等が整備されたこと」が27.9%となっている。

戻りたいと考えている世帯では、「県立大野病院の後継となる病院の再開時期が示されたこと」が49.8%と最も高く、次いで「気持ちが安らぐこと」が47.9%、「スーパーマーケットの開業時期が示されたこと」が44.6%となっている。

<図表2-2-2 大熊町に戻ることを考えた理由（帰町意向別）>



※問 13 で「すでに大熊町で生活している」「戻りたいと考えている（将来的な希望も含む）」と回答した世帯のみ

※複数回答可

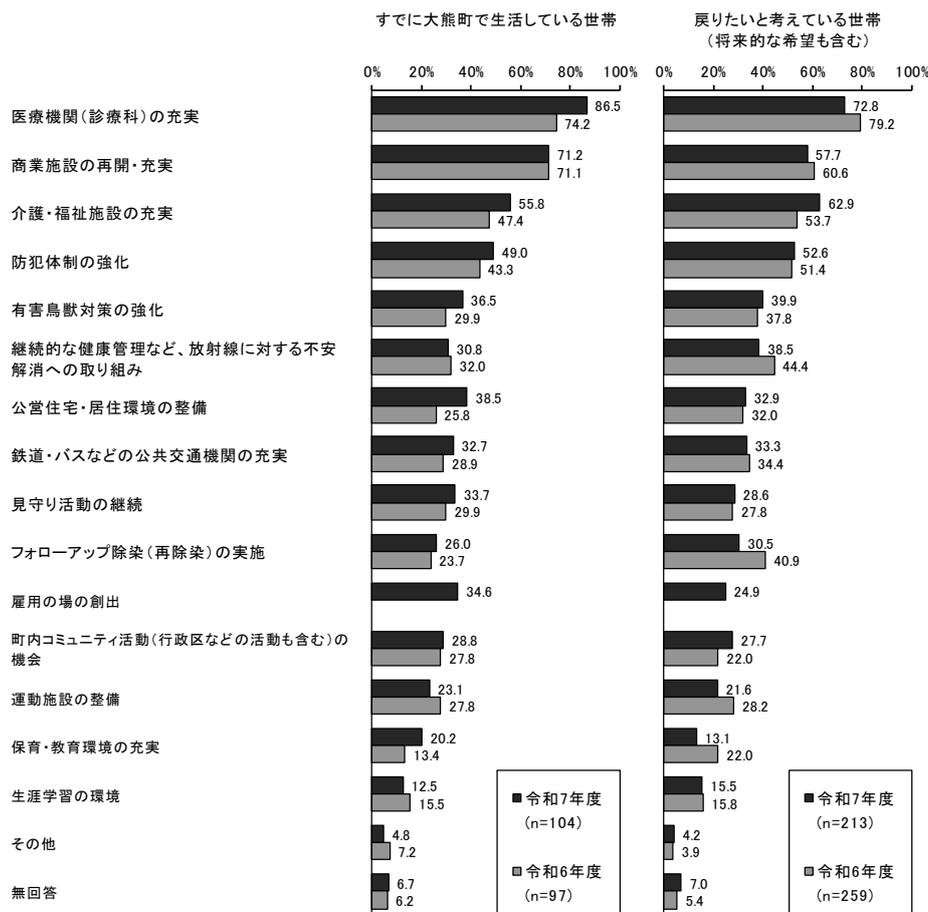
※令和7年度からの新規回答項目については、令和7年度結果のみ掲載

2-2-3 大熊町内での今後の生活において必要だと感じていること（問 14-2）

大熊町内での今後の生活において必要だと感じていることについて、帰町意向別にみると、すでに大熊町で生活している世帯では、「医療機関（診療科）の充実」が86.5%と最も高く、次いで「商業施設の再開・充実」が71.2%、「介護・福祉施設の充実」が55.8%となっている。

戻りたいと考えている世帯では、「医療機関（診療科）の充実」が72.8%と最も高く、次いで「介護・福祉施設の充実」が62.9%、「商業施設の再開・充実」が57.7%となっている。

<図表2-2-3 大熊町内での今後の生活において必要だと感じていること（帰町意向別）>



※問 13 で「すでに大熊町で生活している」「戻りたいと考えている（将来的な希望も含む）」と回答した世帯のみ

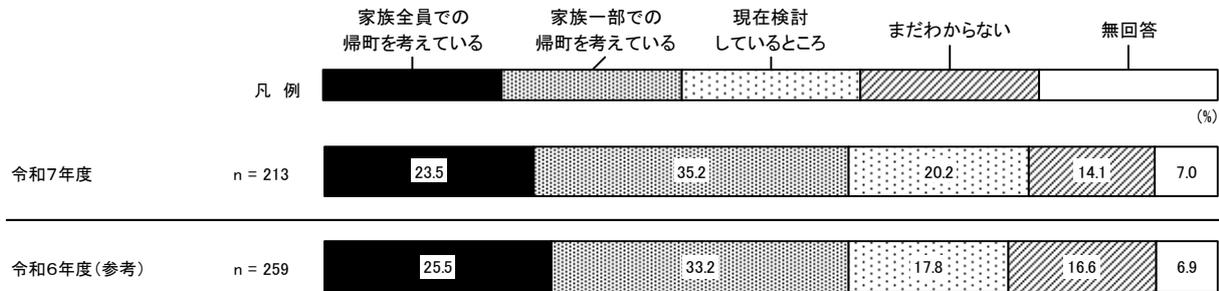
※複数回答可

※令和7年度からの新規回答項目については、令和7年度結果のみ掲載

2-2-4 大熊町へ帰町する場合の家族構成（問 15-2）

大熊町へ帰町する場合の家族構成については、「家族一部での帰町を考えている」が35.2%と最も高く、次いで「家族全員での帰町を考えている」が23.5%となっている。

＜図表2-2-4 大熊町へ帰町する場合の家族構成＞



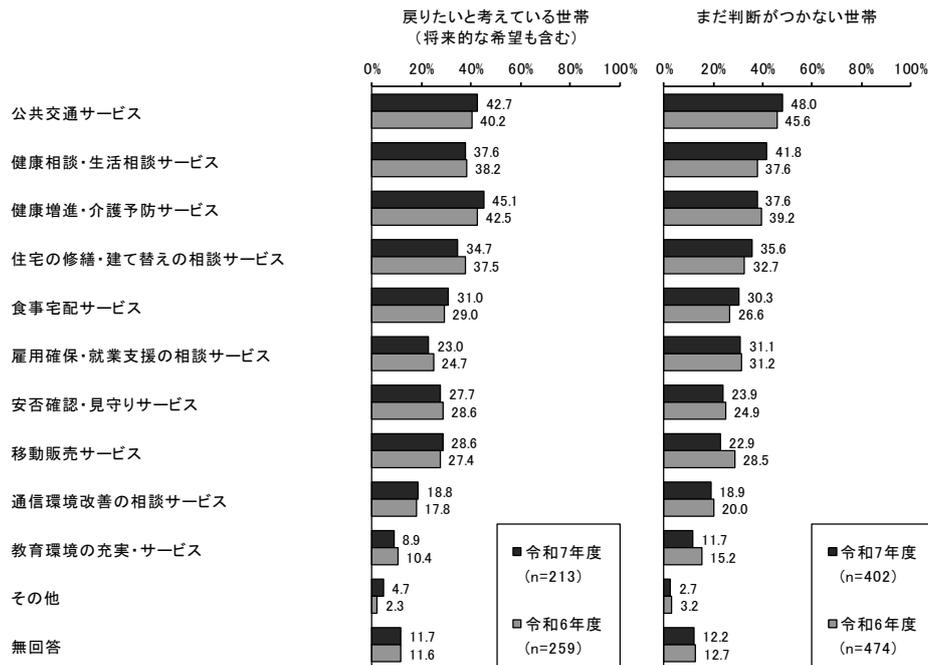
※問 13 で「戻りたいと考えている（将来的な希望も含む）」と回答した世帯のみ

2-2-5 大熊町へ帰町した場合に必要なサービス（問 16-2）

大熊町へ帰町した場合に必要なサービスについては、帰町意向別にみると、戻りたいと考えている世帯では、「健康増進・介護予防サービス」が45.1%と最も高く、次いで「公共交通サービス」が42.7%、「健康相談・生活相談サービス」が37.6%となっている。

まだ判断がつかない世帯では、「公共交通サービス」が48.0%と最も高く、次いで「健康相談・生活相談サービス」が41.8%、「健康増進・介護予防サービス」が37.6%となっている。

<図表 2-2-5 大熊町へ帰町した場合に必要なサービス（帰町意向別）>

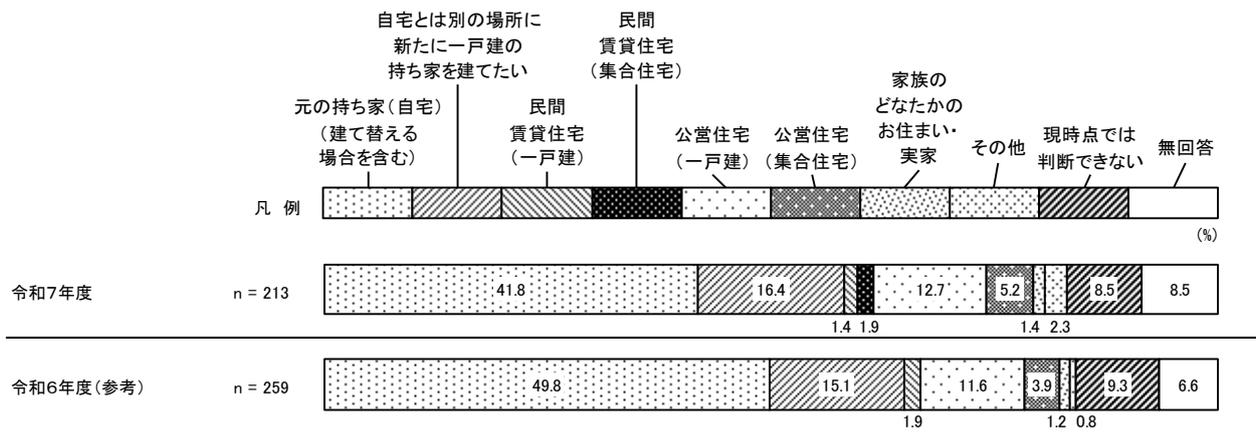


※問 13 で「戻りたいと考えている（将来的な希望も含む）」「まだ判断がつかない」と回答した世帯のみ
※複数回答可

2-2-6 大熊町へ帰町した場合に希望する住居形態〔戻りたいと考えている方〕
 (問 16-3)

大熊町へ帰町した場合に希望する住居形態〔戻りたいと考えている方〕については、「元の持ち家（自宅）（建て替える場合を含む）」が 41.8%と最も高く、次いで「自宅とは別の場所に新たに一戸建の持ち家を建てたい」が 16.4%、「公営住宅（一戸建）」が 12.7%となっている。

<図表2-2-6 大熊町へ帰町した場合に希望する住居形態〔戻りたいと考えている方〕>

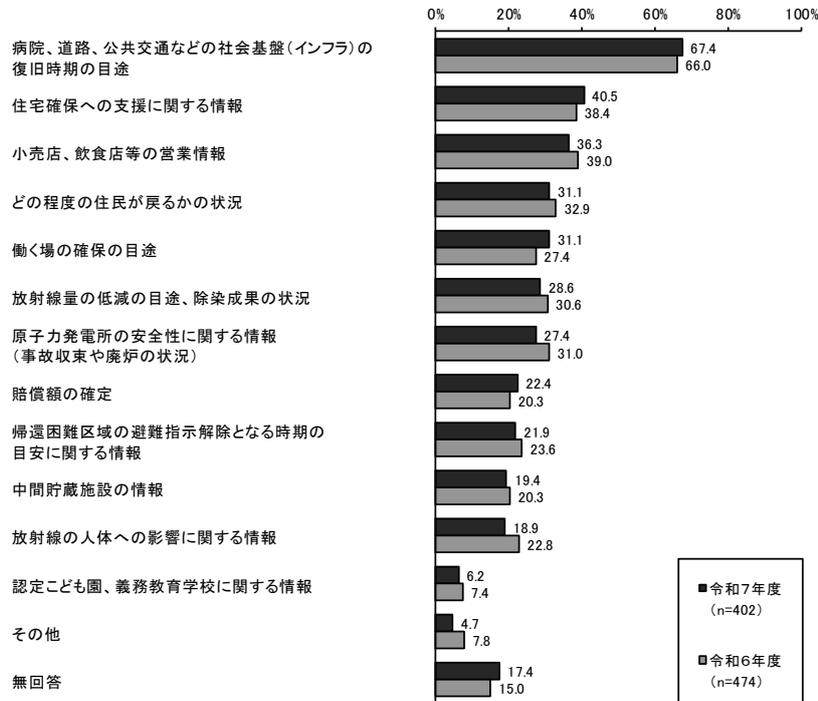


※問 13 で「戻りたいと考えている（将来的な希望も含む）」と回答した世帯のみ

2-2-7 大熊町への帰町を判断するために必要なこと（問 17-1）

大熊町への帰町を判断するために必要なことについては、「病院、道路、公共交通などの社会基盤（インフラ）の復旧時期の目途」が67.4%と最も高く、次いで「住宅確保への支援に関する情報」が40.5%、「小売店、飲食店等の営業情報」が36.3%となっている。

<図表2-2-7 大熊町への帰町を判断するために必要なこと>

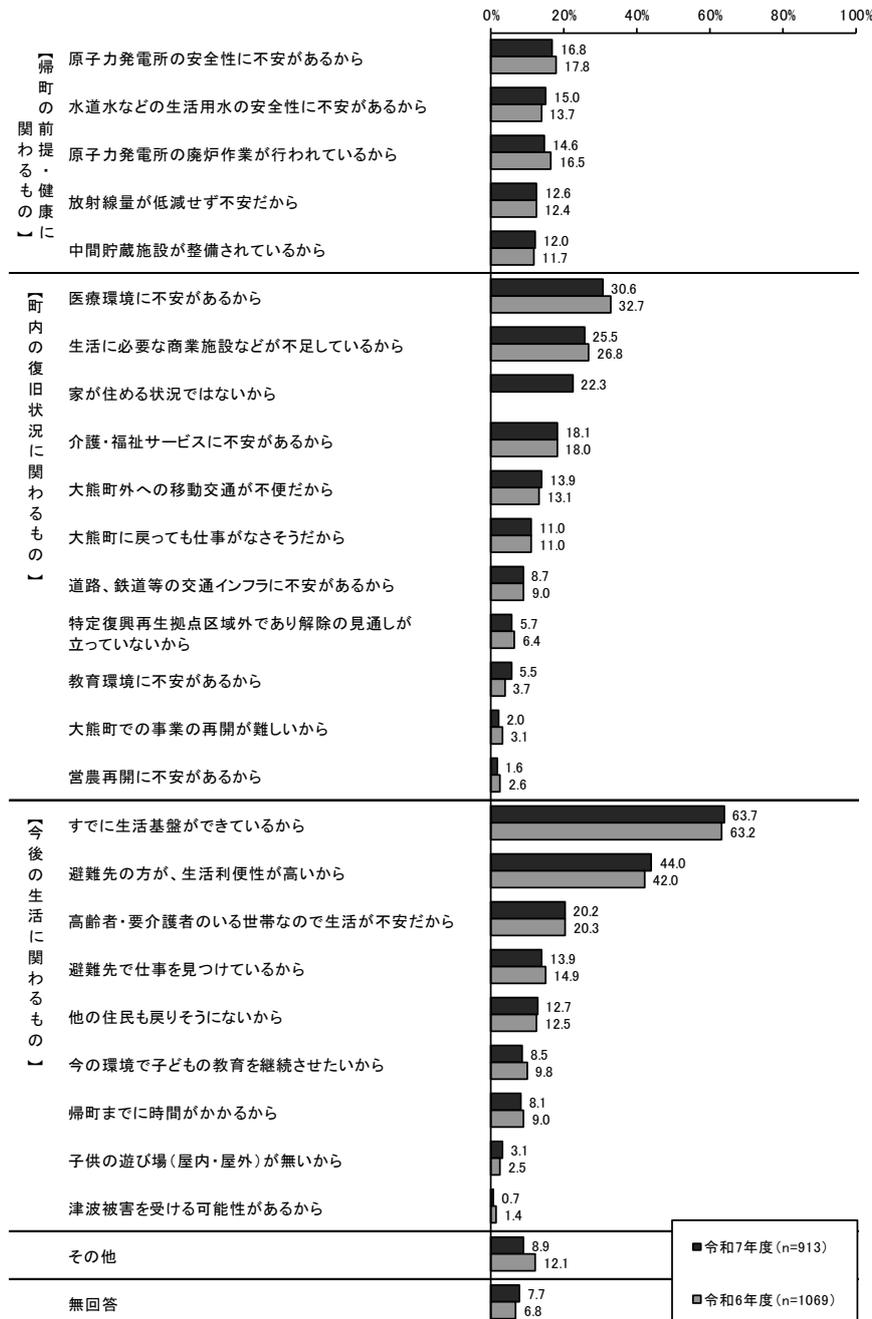


※問 13 で「まだ判断がつかない」と回答した世帯のみ
 ※複数回答可

2-2-8 大熊町に戻らないと決めている理由（問 19-1）

大熊町に戻らないと決めている理由については、「すでに生活基盤ができているから」が63.7%と最も高く、次いで「避難先の方が、生活利便性が高いから」が44.0%、「医療環境に不安があるから」が30.6%となっている。

<図表2-2-8 大熊町に戻らないと決めている理由>



※問 13 で「戻らないと決めている」と回答した世帯のみ
 ※複数選択可
 ※令和7年度からの新規回答項目については、令和7年度結果のみ掲載

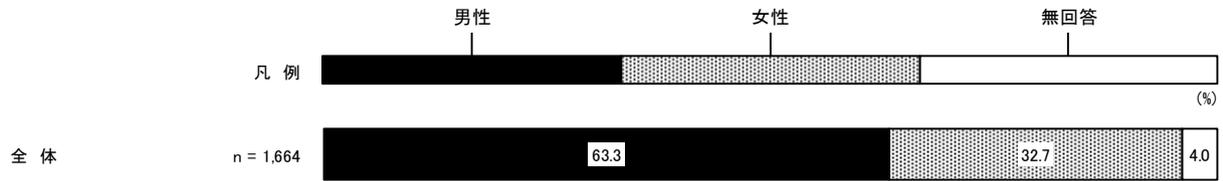
III 調査結果（全項目）

3-1 回答者の属性

3-1-1 性別

問1 ご記入いただくあなたの性別を教えてください。（〇は1つ）

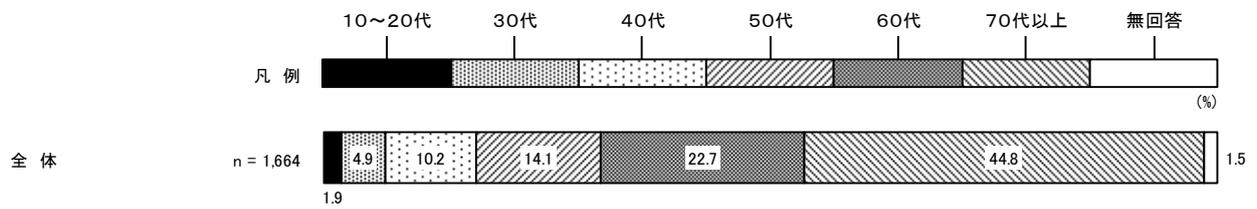
<図表3-1-1 性別>



3-1-2 年齢

問2 ご記入いただくあなたの現在の年齢を教えてください。（〇は1つ）

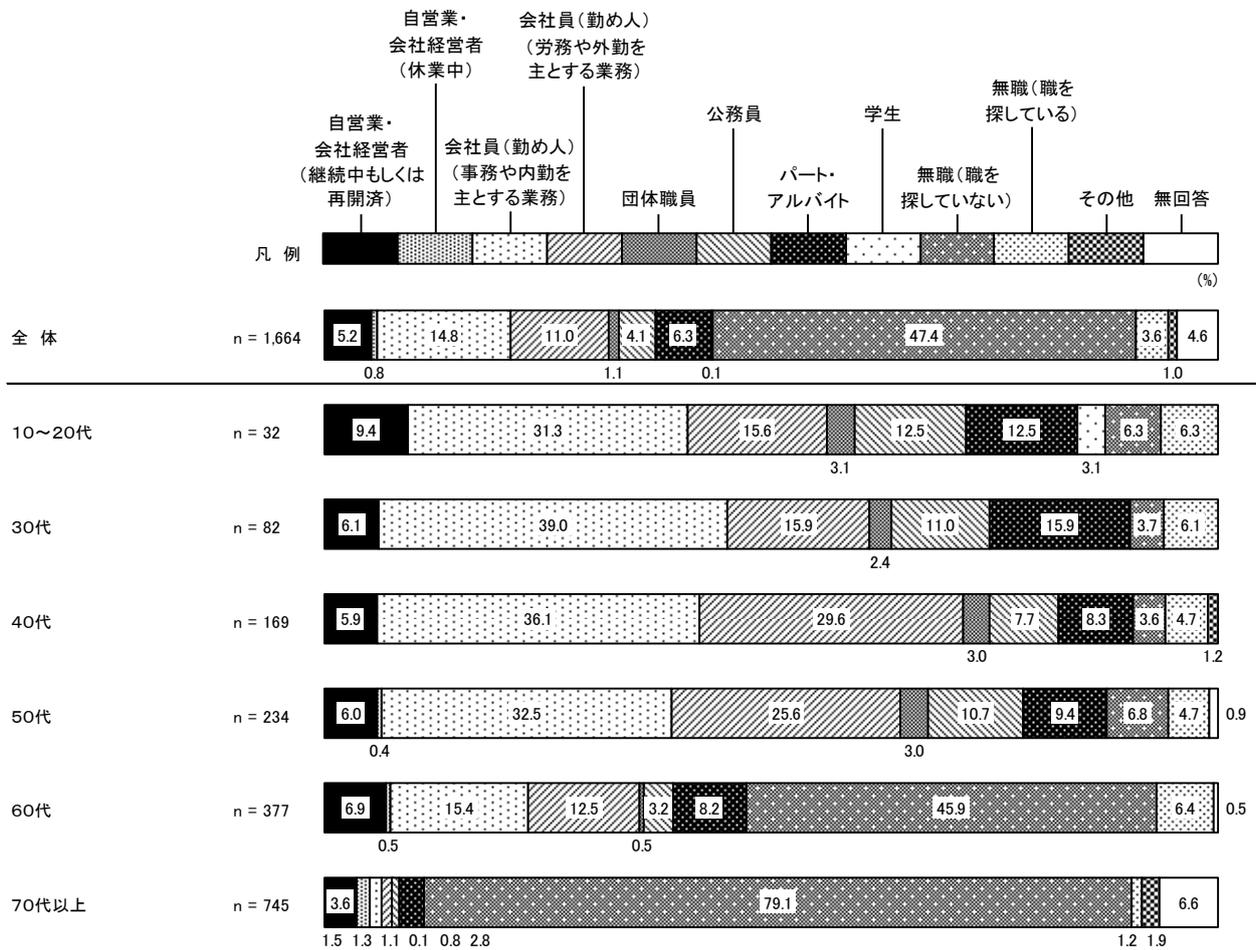
<図表3-1-2 年齢>



3-1-3 現在の職業（就業形態）

問3 現在のあなたの世帯の主な収入源となる方の職業を教えてください。仕事に就いている方は、業種も教えてください。なお、2つ以上の職業を持っている場合は、主な収入源になっている職業を教えてください。
 (1) 職業（就業形態）（○は1つ）

<図表3-1-3 現在の職業（就業形態）（年齢別）>

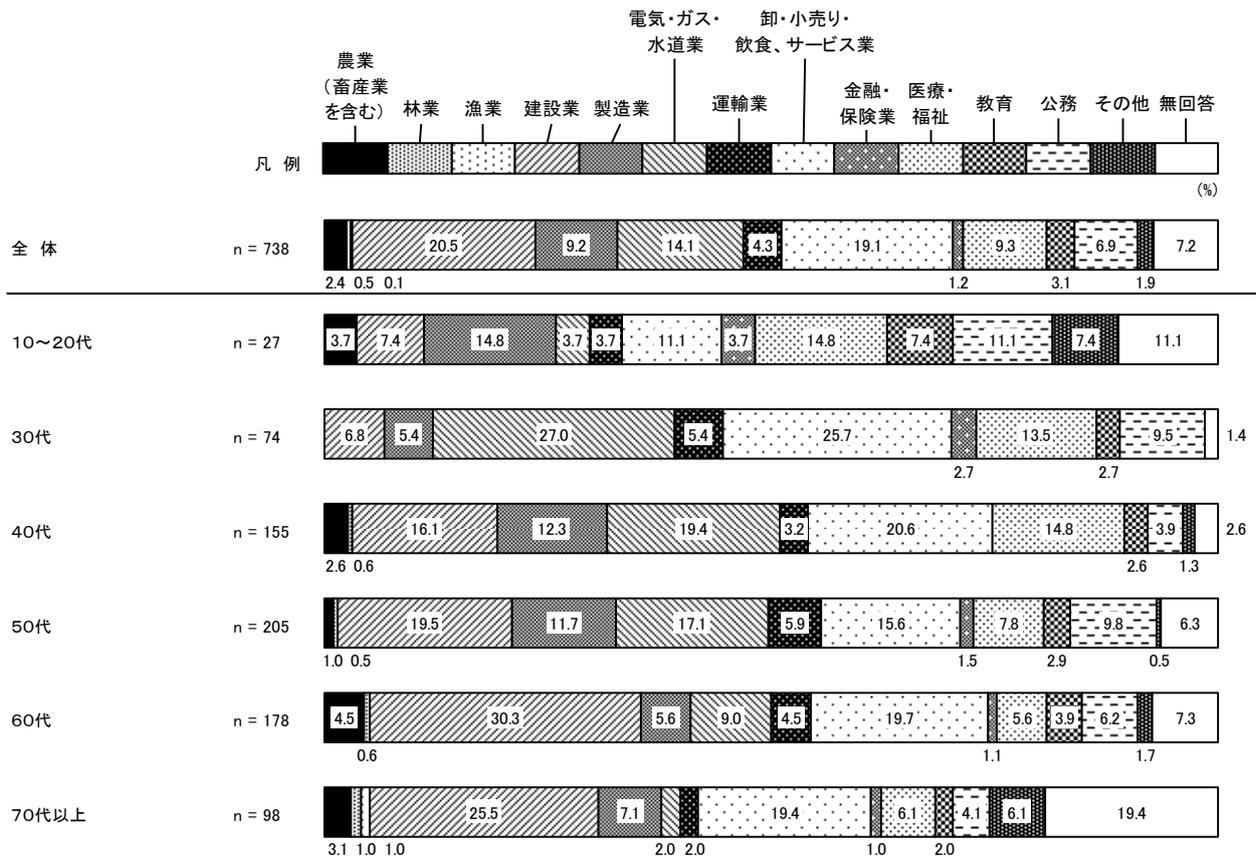


3-1-4 現在の業種

【仕事に就いている方※（問3（1）で「1」から「7」、「11」と回答した方）にうかがいます。】
 問3 現在のあなたの世帯の主な収入源となる方の職業を教えてください。仕事に就いている方は、業種も教えてください。なお、2つ以上の職業を持っている場合は、主な収入源になっている職業を教えてください。
 (2) 業種（〇は1つ）

- *問3（1）：
- | | |
|---------------------------|---------------------------|
| 1. 自営業・会社経営者（継続中もしくは再開済） | 2. 自営業・会社経営者（休業中） |
| 3. 会社員（勤め人）（事務や内勤を主とする業務） | 4. 会社員（勤め人）（労務や外勤を主とする業務） |
| 5. 団体職員 | 6. 公務員 |
| 7. パート・アルバイト | 11. その他 |

<図表3-1-4 現在の業種（年齢別）>

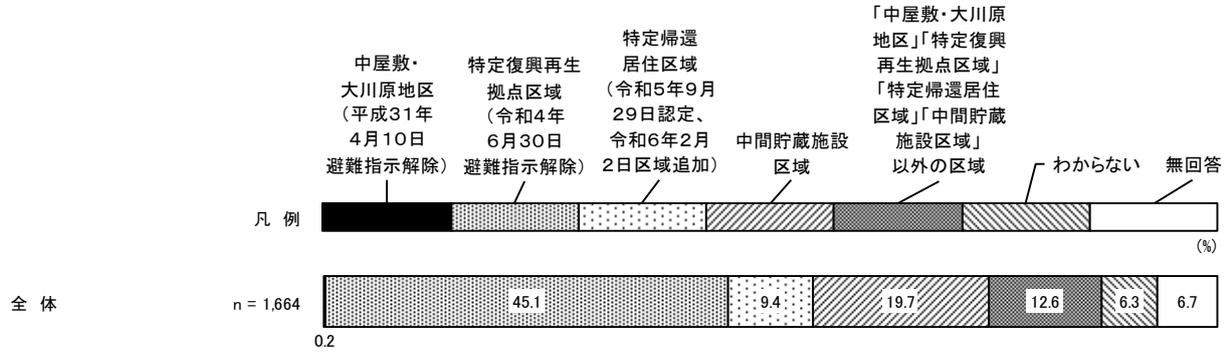


3-2 東日本大震災発生時の状況

3-2-1 震災発生当時の住まいの区域

問4-1 震災発生当時のお住まいが、現在以下の各区域のどこに該当するかを教えてください。（〇は1つ）

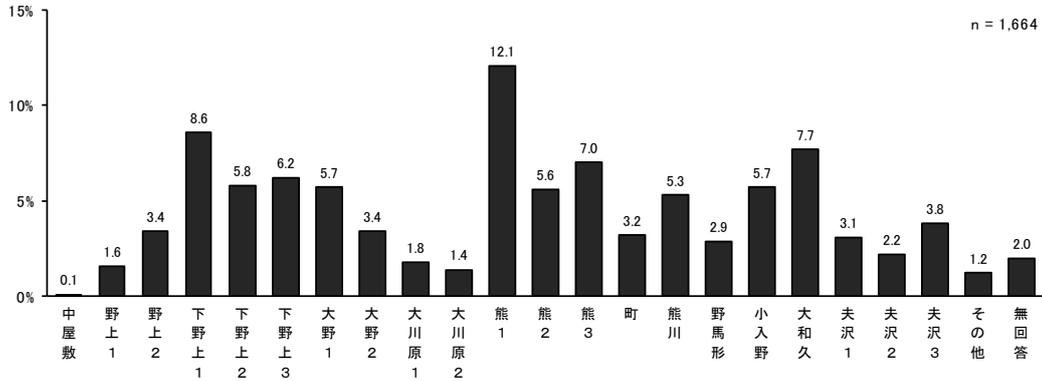
<図表3-2-1 震災発生当時の住まいの区域>



3-2-2 震災発生当時の住まいの行政区

問4-2 震災発生当時にお住まいだった行政区を教えてください。（〇は1つ）

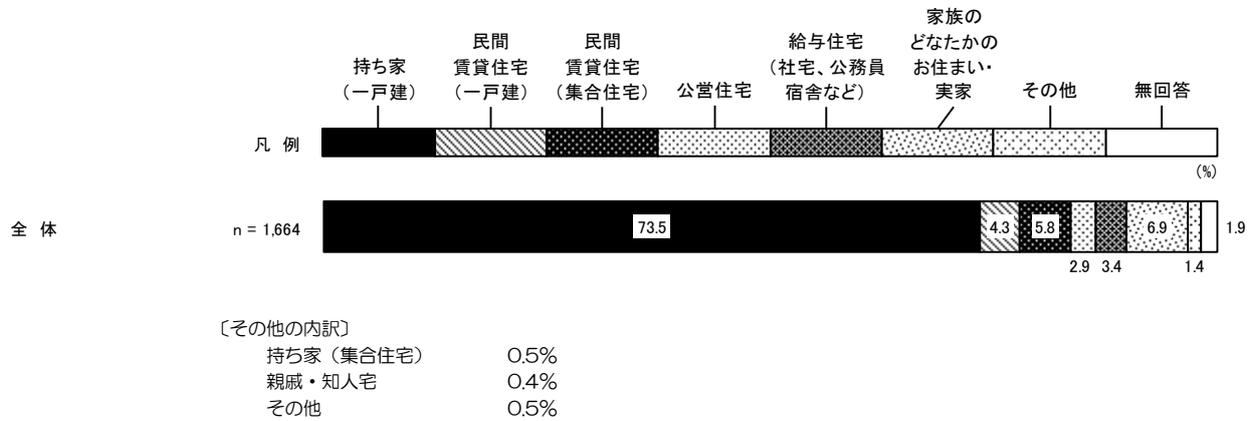
<図表3-2-2 震災発生当時の住まいの行政区>



3-2-3 震災発生当時の住居形態

問5 震災発生当時にお住まいだった住宅は、どのような住居形態でしたか。（○は1つ）

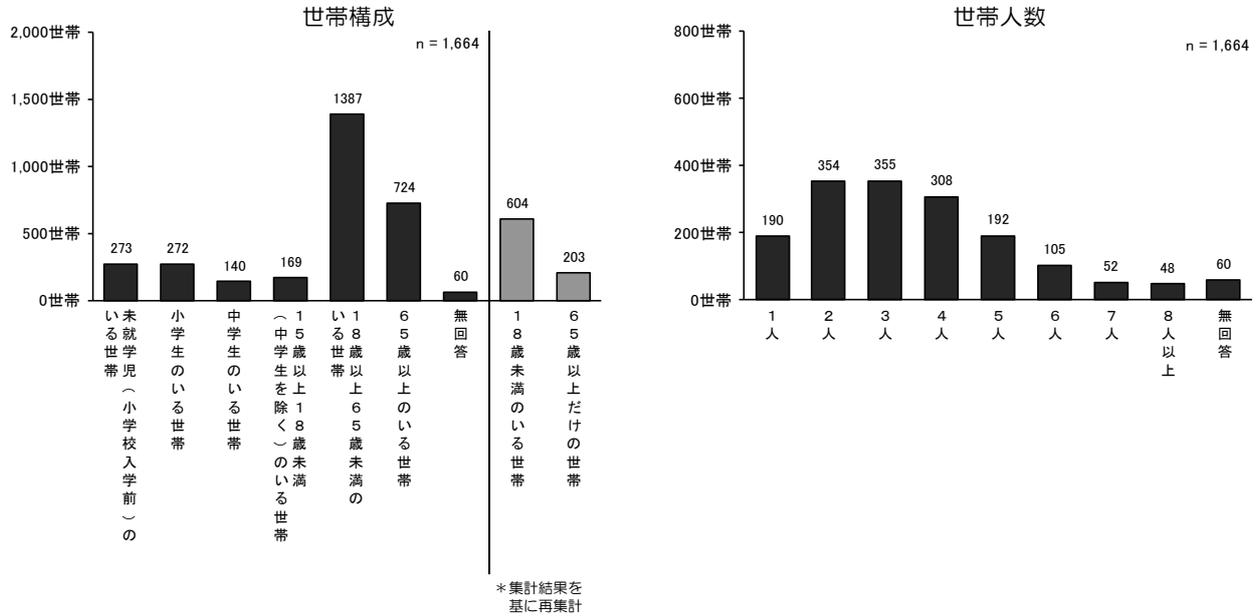
＜図表3-2-3 震災発生当時の住居形態＞



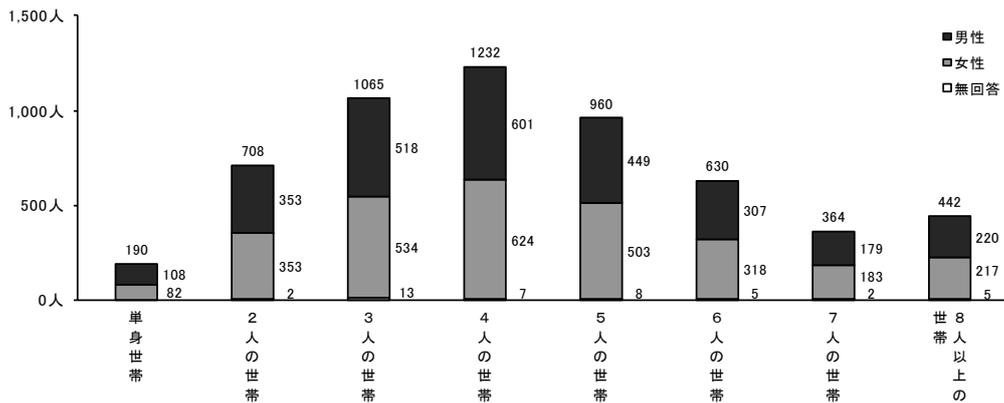
3-2-4 震災発生当時の世帯構成・人数

問6 震災発生当時の世帯構成についてうかがいます。
 震災発生時に、あなたを含めて一緒に住んでいた方の人数を教えてください。あなた自身を含めて、当時の年齢・学齢にあてはまる人数を、性別ごとにご回答ください。（性別ごとに人数で回答）

<図表3-2-4-1 震災発生当時の世帯構成・人数>



<図表3-2-4-2 震災発生当時の世帯人数（性別）>

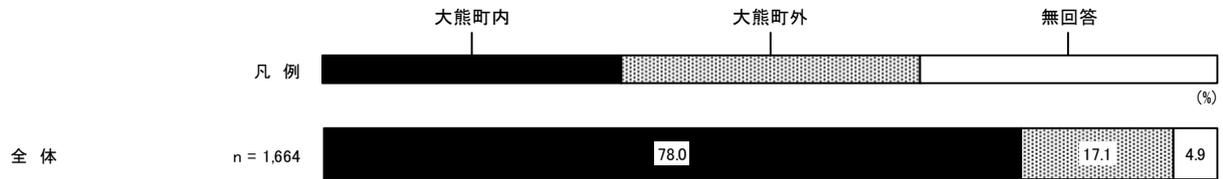


3-3 現在の状況

3-3-1 現在住民票をおいている自治体

問7 現在住民票をどちらにおいているか教えてください。（〇は1つ）

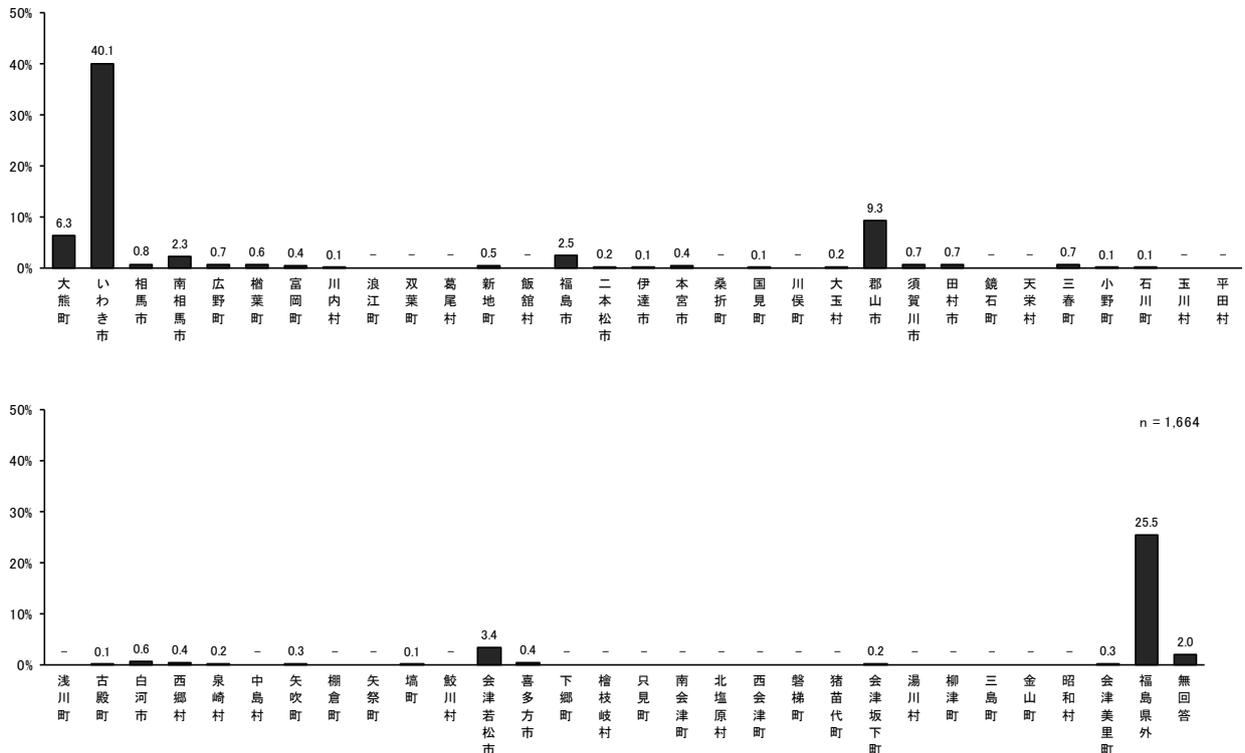
<図3-3-1 現在住民票をおいている自治体>



3-3-2 現在の居住自治体

問8 現在お住まいの自治体を教えてください。（〇は1つ）

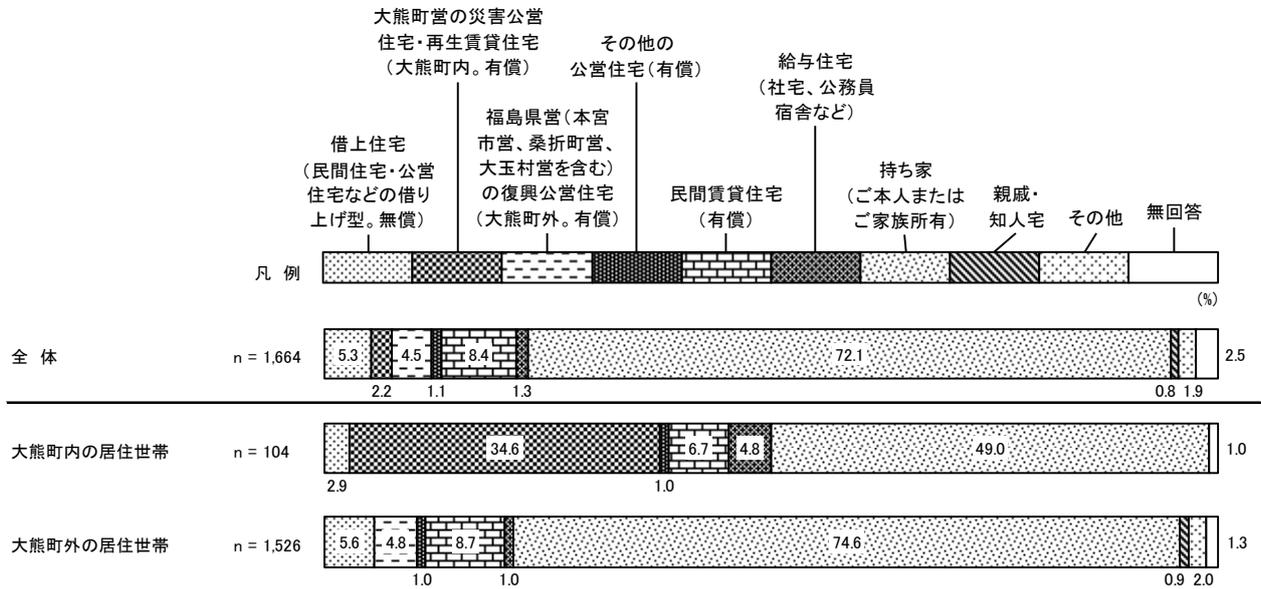
<図3-3-2 現在の居住自治体>



3-3-3 現在の住居形態

問9 現在お住まいになっている住宅は、どのような住居形態ですか。（○は1つ）

<図表3-3-3-1 現在の住居形態>



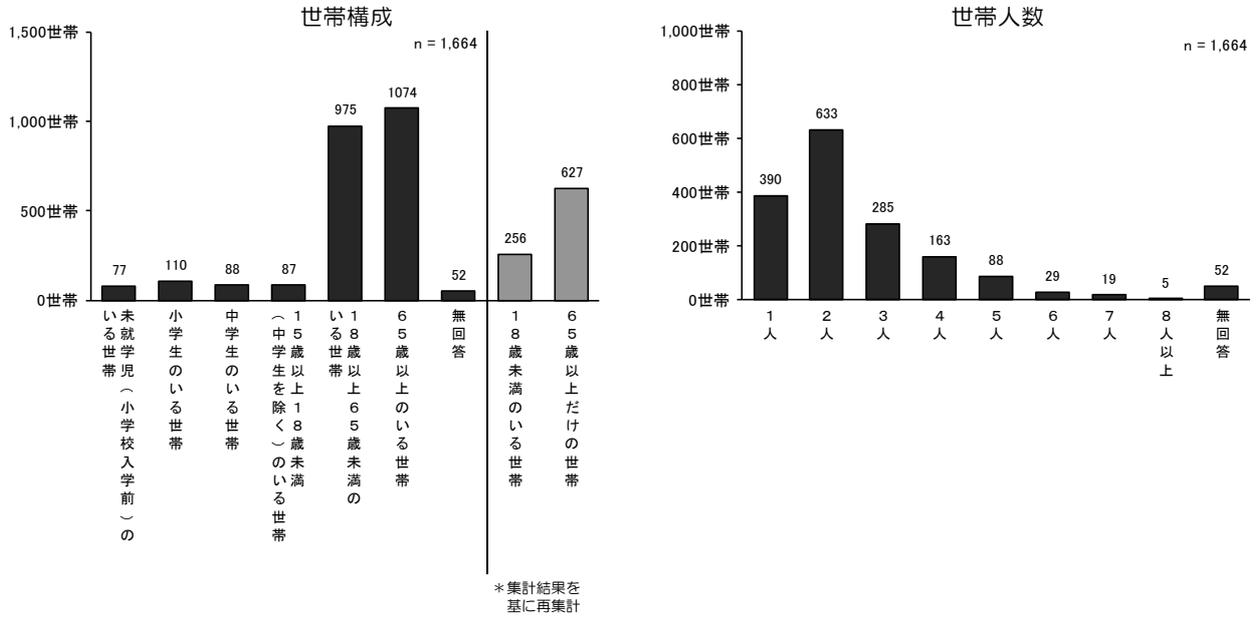
<図表3-3-3-2 現在の住居形態（現在の世帯構成別）>

	調査数	借上住宅 (民間住宅・公営住宅などの借り上げ型。無償)	大熊町営の災害公営住宅・再生賃貸住宅 (大熊町内。有償)	福島県営(本宮市営、桑折町営、大玉村営を含む)の復興公営住宅 (大熊町外。有償)	その他の公営住宅 (有償)	民間賃貸住宅 (有償)	給与住宅 (社宅、公務員宿舎など)	持ち家 (ご本人またはご家族所有)	親戚・知人宅	その他	無回答
全体	1664	89	36	75	18	139	21	1200	13	32	41
	100.0	5.3	2.2	4.5	1.1	8.4	1.3	72.1	0.8	1.9	2.5
単身世帯:計	390	50	22	41	10	66	15	160	3	19	4
	100.0	12.8	5.6	10.5	2.6	16.9	3.8	41.0	0.8	4.9	1.0
15歳以上65歳未満 (中学生を除く)	145	24	7	4	2	52	11	42	-	3	-
	100.0	16.6	4.8	2.8	1.4	35.9	7.6	29.0	-	2.1	-
65歳以上	245	26	15	37	8	14	4	118	3	16	4
	100.0	10.6	6.1	15.1	3.3	5.7	1.6	48.2	1.2	6.5	1.6
女性	199	20	8	27	5	28	3	95	-	11	2
	100.0	10.1	4.0	13.6	2.5	14.1	1.5	47.7	-	5.5	1.0
2人以上の世帯:計	1222	35	14	30	8	68	4	1030	8	8	17
	100.0	2.9	1.1	2.5	0.7	5.6	0.3	84.3	0.7	0.7	1.4
未就学児(小学校入学前)のいる世帯	77	3	-	1	1	17	1	54	-	-	-
	100.0	3.9	-	1.3	1.3	22.1	1.3	70.1	-	-	-
小学生のいる世帯	110	1	-	1	1	11	2	94	-	-	-
	100.0	0.9	-	0.9	0.9	10.0	1.8	85.5	-	-	-
中学生のいる世帯	88	2	-	1	-	9	-	73	2	1	-
	100.0	2.3	-	1.1	-	10.2	-	83.0	2.3	1.1	-
15歳以上18歳未満 (中学生を除く)のいる世帯	87	3	-	2	-	3	-	79	-	-	-
	100.0	3.4	-	2.3	-	3.4	-	90.8	-	-	-
18歳以上65歳未満のいる世帯	830	31	6	17	3	60	4	688	7	4	10
	100.0	3.7	0.7	2.0	0.4	7.2	0.5	82.9	0.8	0.5	1.2
65歳以上のいる世帯	829	16	12	21	7	15	-	729	5	8	16
	100.0	1.9	1.4	2.5	0.8	1.8	-	87.9	0.6	1.0	1.9
女性のいる世帯	1185	30	12	27	7	66	3	1011	8	7	14
	100.0	2.5	1.0	2.3	0.6	5.6	0.3	85.3	0.7	0.6	1.2
65歳以上だけの世帯	382	2	8	12	4	7	-	337	1	4	7
	100.0	0.5	2.1	3.1	1.0	1.8	-	88.2	0.3	1.0	1.8

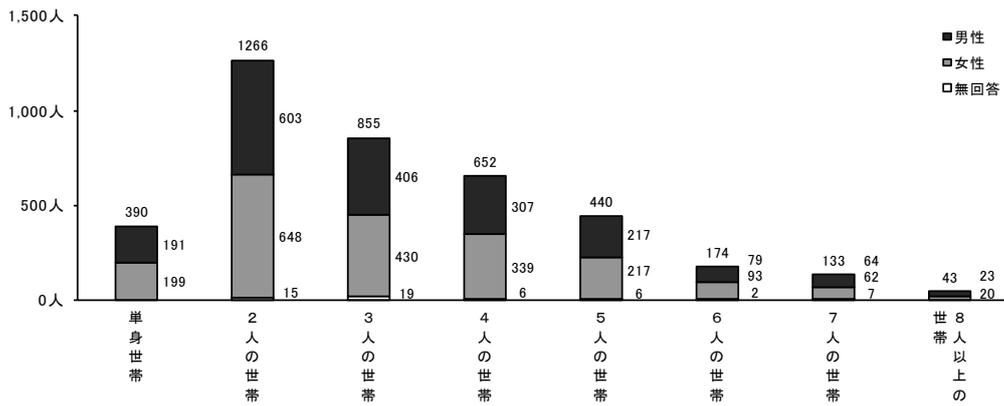
3-3-4 現在の世帯構成・人数

問10 現在の世帯構成についてうかがいます。現在、あなたを含めて一緒に住んでいる方の人数を教えてください。あなた自身を含めて、現在の年齢・学齢にあてはまる人数を、性別ごとにご回答ください。（性別ごとに人数で回答）

<図表3-3-4-1 現在の世帯構成・人数>



<図表3-3-4-2 現在の世帯構成・人数（性別）>

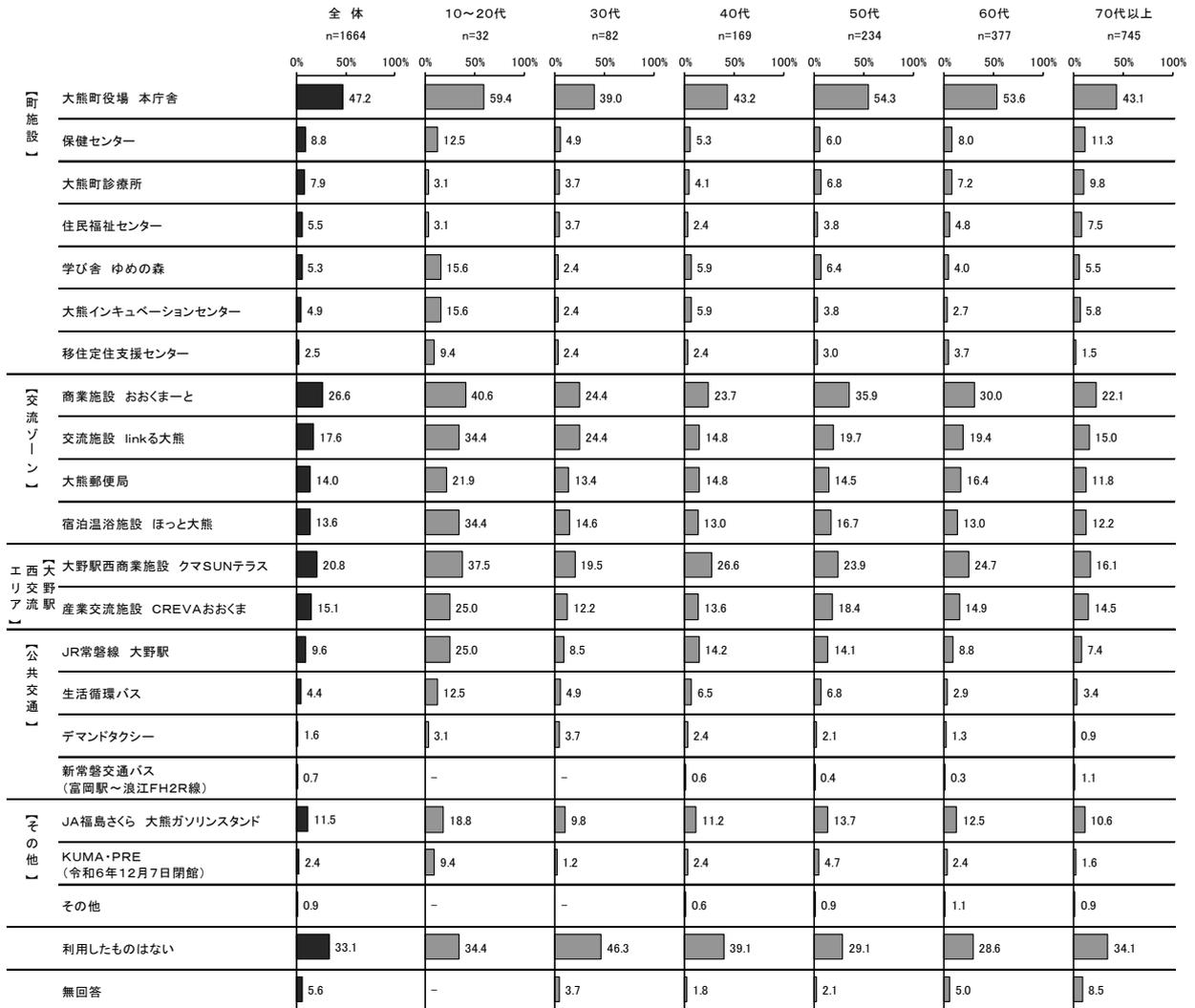


3-4 この1年の大熊町内の活動

3-4-1 利用した町内の施設・サービス

問11 町内の施設、サービス等で利用したものがあれば教えてください。（〇はいくつでも）

<図表3-4-1-1 利用した町内の施設・サービス（年齢別）>



<図表3-4-1-2 利用した町内の施設・サービス（現在の世帯構成別）>

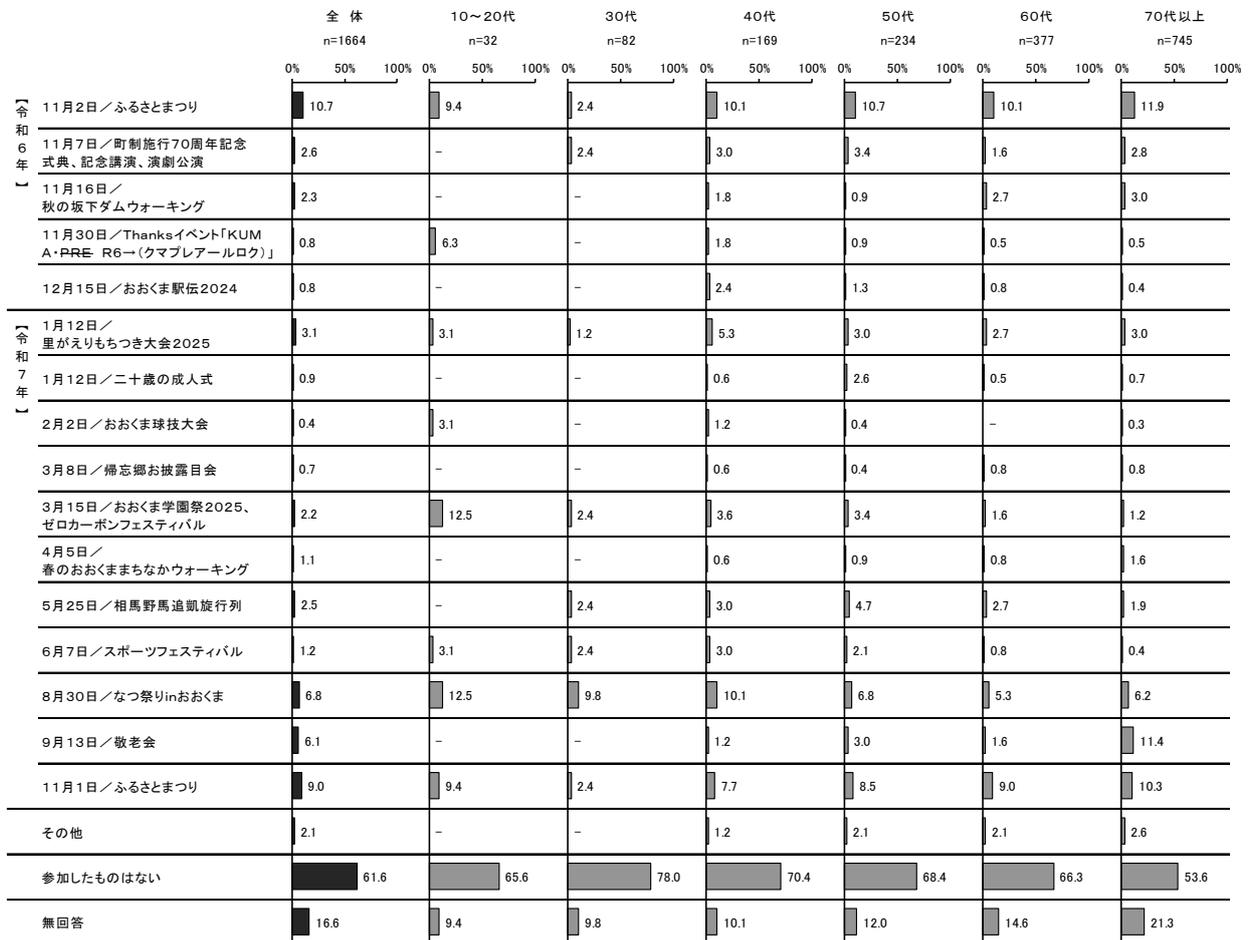
	調査数	【町施設】							【交流ゾーン】				【大野駅西 交流エリア】	
		大野町役場 本庁舎	保健センター	大野町診療所	住民福祉センター	学び舎 ゆめの森	大野イン キューベ ーション	移住定住 支援セン ター	商業施設 おおくま と	交流施設 I i n k る大野	大野郵便 局	宿泊温浴 施設 ほっと大 野	クマサ SUUN テラス	大野駅西 商業施設
全体	1664 100.0	785 47.2	146 8.8	131 7.9	92 5.5	89 5.3	81 4.9	41 2.5	443 26.6	293 17.6	233 14.0	226 13.6	346 20.8	252 15.1
単身世帯:計	390 100.0	147 37.7	32 8.2	39 10.0	19 4.9	19 4.9	23 5.9	17 4.4	82 21.0	54 13.8	58 14.9	52 13.3	63 16.2	48 12.3
15歳以上65歳未満 (中学生を除く)	145 100.0	80 55.2	13 9.0	16 11.0	5 3.4	11 7.6	14 9.7	13 9.0	46 31.7	28 19.3	28 19.3	31 21.4	31 21.4	26 17.9
65歳以上	245 100.0	67 27.3	19 7.8	23 9.4	14 5.7	8 3.3	9 3.7	4 1.6	36 14.7	26 10.6	30 12.2	21 8.6	32 13.1	22 9.0
女性	199 100.0	57 28.6	13 6.5	11 5.5	8 4.0	8 4.0	9 4.5	6 3.0	35 17.6	25 12.6	21 10.6	23 11.6	33 16.6	25 12.6
2人以上の世帯:計	1222 100.0	624 51.1	112 9.2	88 7.2	72 5.9	68 5.6	57 4.7	24 2.0	349 28.6	230 18.8	170 13.9	169 13.8	272 22.3	197 16.1
未就学児(小学校入学前)の いる世帯	77 100.0	39 50.6	6 7.8	2 2.6	2 2.6	4 5.2	4 5.2	3 3.9	21 27.3	21 27.3	8 10.4	12 15.6	23 29.9	14 18.2
小学生のいる世帯	110 100.0	50 45.5	9 8.2	5 4.5	2 1.8	8 7.3	6 5.5	3 2.7	29 26.4	25 22.7	13 11.8	15 13.6	27 24.5	16 14.5
中学生のいる世帯	88 100.0	35 39.8	5 5.7	2 2.3	2 2.3	9 10.2	2 2.3	1 1.1	19 21.6	14 15.9	10 11.4	9 10.2	16 18.2	8 9.1
15歳以上18歳未満 (中学生を除く)のいる世帯	87 100.0	42 48.3	5 5.7	3 3.4	6 6.9	7 8.0	5 5.7	-	25 28.7	14 16.1	14 16.1	15 17.2	24 27.6	12 13.8
18歳以上65歳未満の いる世帯	830 100.0	414 49.9	68 8.2	45 5.4	33 4.0	46 5.5	33 4.0	13 1.6	234 28.2	158 19.0	108 13.0	115 13.9	200 24.1	122 14.7
65歳以上のいる世帯	829 100.0	430 51.9	92 11.1	72 8.7	59 7.1	46 5.5	45 5.4	15 1.8	228 27.5	143 17.2	111 13.4	112 13.5	170 20.5	137 16.5
女性のいる世帯	1185 100.0	606 51.1	107 9.0	81 6.8	71 6.0	67 5.7	57 4.8	22 1.9	342 28.9	225 19.0	164 13.8	166 14.0	266 22.4	191 16.1
65歳以上だけの世帯	382 100.0	206 53.9	42 11.0	41 10.7	38 9.9	21 5.5	23 6.0	11 2.9	112 29.3	70 18.3	61 16.0	52 13.6	71 18.6	73 19.1
	調査数	【公共交通】					【その他】			利用した もの はない	無 回 答			
		J R 常 磐 線 大 野 駅	生 活 循 環 バ ス	デ マ ン ド タ ク シ ー	浪 江 F H 2 通 車 線 (富 岡 駅)	大 野 ガ ソ リ ン ス タ ン ド	J A 福 島 さ くら 大 野 ガ ソ リ ン ス タ ン ド	K U M A ・ P R E (令 和 6 年 1 2 月 7 日 閉 館)	そ の 他					
全体	1664 100.0	160 9.6	73 4.4	26 1.6	12 0.7	192 11.5	40 2.4	15 0.9	551 33.1	94 5.6				
単身世帯:計	390 100.0	43 11.0	30 7.7	10 2.6	3 0.8	52 13.3	10 2.6	5 1.3	170 43.6	21 5.4				
15歳以上65歳未満 (中学生を除く)	145 100.0	27 18.6	19 13.1	6 4.1	2 1.4	28 19.3	7 4.8	2 1.4	52 35.9	2 1.4				
65歳以上	245 100.0	16 6.5	11 4.5	4 1.6	1 0.4	24 9.8	3 1.2	3 1.2	118 48.2	19 7.8				
女性	199 100.0	19 9.5	12 6.0	5 2.5	-	17 8.5	3 1.5	2 1.0	98 49.2	15 7.5				
2人以上の世帯:計	1222 100.0	113 9.2	43 3.5	16 1.3	8 0.7	139 11.4	29 2.4	10 0.8	364 29.8	61 5.0				
未就学児(小学校入学前)の いる世帯	77 100.0	7 9.1	4 5.2	3 3.9	-	9 11.7	4 5.2	-	25 32.5	5 6.5				
小学生のいる世帯	110 100.0	15 13.6	6 5.5	3 2.7	-	14 12.7	2 1.8	-	35 31.8	2 1.8				
中学生のいる世帯	88 100.0	8 9.1	4 4.5	-	-	9 10.2	-	-	39 44.3	2 2.3				
15歳以上18歳未満 (中学生を除く)のいる世帯	87 100.0	9 10.3	2 2.3	-	1 1.1	9 10.3	3 3.4	2 2.3	26 29.9	4 4.6				
18歳以上65歳未満の いる世帯	830 100.0	83 10.0	32 3.9	12 1.4	2 0.2	94 11.3	22 2.7	5 0.6	262 31.6	32 3.9				
65歳以上のいる世帯	829 100.0	67 8.1	22 2.7	5 0.6	7 0.8	92 11.1	16 1.9	8 1.0	234 28.2	51 6.2				
女性のいる世帯	1185 100.0	110 9.3	42 3.5	15 1.3	8 0.7	134 11.3	28 2.4	10 0.8	352 29.7	58 4.9				
65歳以上だけの世帯	382 100.0	28 7.3	11 2.9	4 1.0	5 1.3	43 11.3	6 1.6	4 1.0	100 26.2	28 7.3				

III 調査結果（全項目）

3-4-2 参加した町内開催のイベント

問12 参加した町内開催のイベントがあれば教えてください。（〇はいくつでも）

<図表3-4-2-1 参加した町内開催のイベント（年齢別）>



＜図表3-4-2-2 参加した町内開催のイベント（現在の世帯構成別）＞

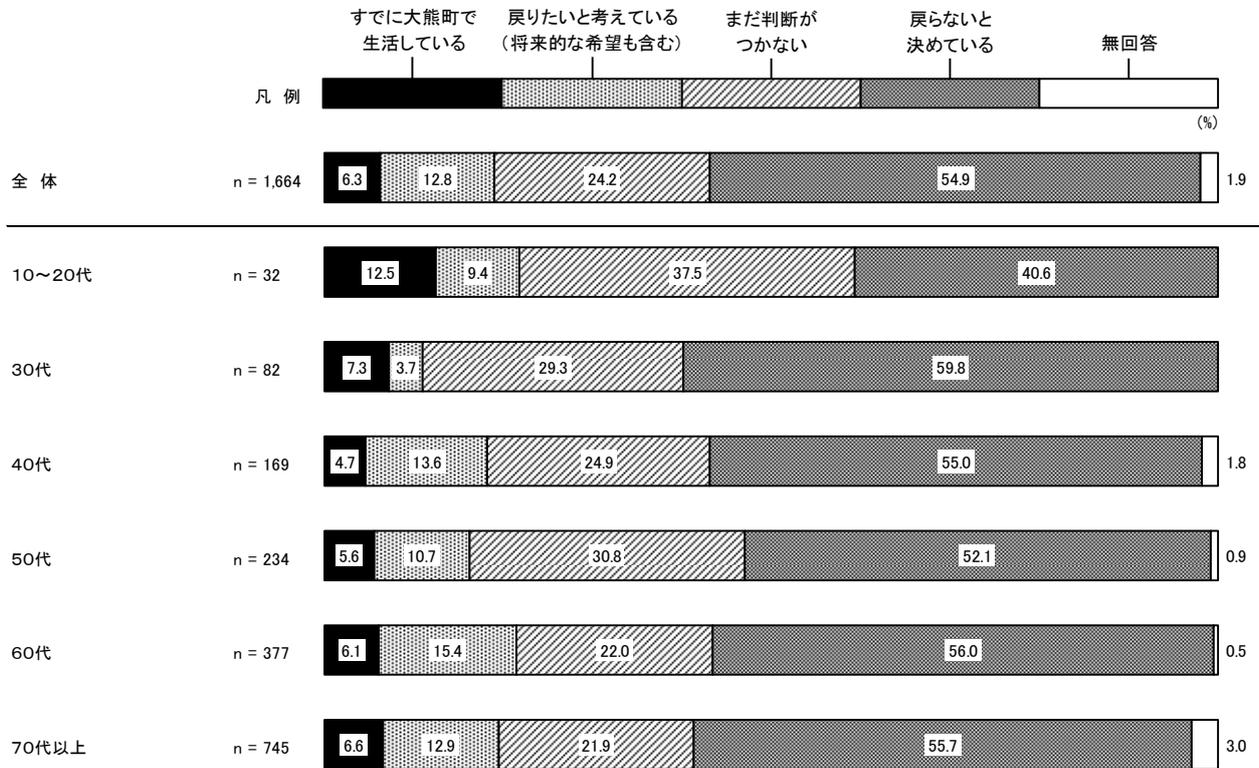
	調査数	【令和6年】										【令和7年】									
		1月1日 ふるさとまつり	1月7日 町制施行70周年 記念講演、演劇公演	1月16日 秋の坂下ダムウォーキング	11月30日 「KUMAKURE」 （クマブレアルロック）	11月30日 Thanksイベント	12月15日 おおくま駅伝2024	1月12日 里がえりもちつき大会	1月12日 20歳の成人式	2月2日 おおくま球技大会	2月2日 おおくま球技大会	3月8日 帰宅郷お披露目会	3月15日 おおくま学園祭2025、 ゼロカーボンフェスティバル	4月5日 春のおおくまちなか ウォーキング	5月25日 相馬野馬追凱旋行列	6月7日 スポーツフェスティバル	8月30日 なつ祭りinおおくま	9月13日 敬老会	1月1日 ふるさとまつり		
全体	1664 100.0	178 10.7	43 2.6	38 2.3	13 0.8	14 0.8	52 3.1	15 0.9	6 0.4	11 0.7	36 2.2	19 1.1	42 2.5	20 1.2	113 6.8	102 6.1	150 9.0				
単身世帯：計	390 100.0	41 10.5	10 2.6	8 2.1	6 1.5	5 1.3	12 3.1	3 0.8	1 0.3	3 0.8	12 3.1	6 1.5	11 2.8	8 2.1	34 8.7	24 6.2	36 9.2				
15歳以上65歳未満 （中学生を除く）	145 100.0	17 11.7	5 3.4	2 1.4	4 2.8	3 2.1	5 3.4	2 1.4	-	1 0.7	8 5.5	1 0.7	6 4.1	7 4.8	17 11.7	3 2.1	12 8.3				
65歳以上	245 100.0	24 9.8	5 2.0	6 2.4	2 0.8	2 0.8	7 2.9	1 0.4	1 0.4	2 0.8	4 1.6	5 2.0	5 2.0	1 0.4	17 6.9	21 8.6	24 9.8				
女性	199 100.0	14 7.0	2 1.0	5 2.5	2 1.0	1 0.5	2 1.0	-	1 0.5	3 1.5	6 3.0	4 2.0	4 2.0	3 1.5	13 6.5	14 7.0	15 7.5				
2人以上の世帯：計	1222 100.0	135 11.0	33 2.7	30 2.5	7 0.6	9 0.7	40 3.3	12 1.0	5 0.4	8 0.7	24 2.0	13 1.1	30 2.5	12 1.0	79 6.5	74 6.1	112 9.2				
未就学児（小学校入学前）の いる世帯	77 100.0	7 9.1	1 1.3	1 1.3	2 2.6	-	4 5.2	-	-	-	3 3.9	1 1.3	4 5.2	2 2.6	10 13.0	-	9 11.7				
小学生のいる世帯	110 100.0	11 10.0	4 3.6	2 1.8	2 1.8	2 1.8	9 8.2	2 1.8	1 0.9	-	5 4.5	-	4 3.6	4 3.6	11 10.0	2 1.8	10 9.1				
中学生のいる世帯	88 100.0	3 3.4	1 1.1	1 1.1	-	-	4 4.5	2 2.3	-	-	1 1.1	-	-	1 1.1	2 2.3	2 2.3	-				
15歳以上18歳未満 （中学生を除く）のいる世帯	87 100.0	11 12.6	2 2.3	2 2.3	-	-	1 1.1	1 1.1	-	-	3 3.4	-	3 3.4	2 2.3	4 4.6	2 2.3	9 10.3				
18歳以上65歳未満の いる世帯	830 100.0	74 8.9	18 2.2	14 1.7	6 0.7	4 0.5	27 3.3	9 1.1	4 0.5	4 0.5	18 2.2	7 0.8	24 2.9	11 1.3	53 6.4	27 3.3	64 7.7				
65歳以上のいる世帯	829 100.0	104 12.5	27 3.3	25 3.0	3 0.4	7 0.8	25 3.0	9 1.1	3 0.4	5 0.6	10 1.2	9 1.1	20 2.4	5 0.6	47 5.7	72 8.7	89 10.7				
女性のいる世帯	1185 100.0	132 11.1	33 2.8	30 2.5	6 0.5	9 0.8	40 3.4	12 1.0	5 0.4	7 0.6	23 1.9	11 0.9	30 2.5	12 1.0	77 6.5	72 6.1	109 9.2				
65歳以上の世帯	382 100.0	59 15.4	15 3.9	15 3.9	1 0.3	5 1.3	12 3.1	3 0.8	1 0.3	4 1.0	5 1.3	6 1.6	6 1.6	1 0.3	25 6.5	47 12.3	47 12.3				
	調査数	その他	参加したものは ない	無回答																	
全体	1664 100.0	35 2.1	1025 61.6	276 16.6																	
単身世帯：計	390 100.0	1 0.3	253 64.9	59 15.1																	
15歳以上65歳未満 （中学生を除く）	145 100.0	-	100 69.0	18 12.4																	
65歳以上	245 100.0	1 0.4	153 62.4	41 16.7																	
女性	199 100.0	-	130 65.3	33 16.6																	
2人以上の世帯：計	1222 100.0	31 2.5	747 61.1	199 16.3																	
未就学児（小学校入学前）の いる世帯	77 100.0	1 1.3	51 66.2	9 11.7																	
小学生のいる世帯	110 100.0	2 1.8	63 57.3	18 16.4																	
中学生のいる世帯	88 100.0	3 3.4	58 65.9	18 20.5																	
15歳以上18歳未満 （中学生を除く）のいる世帯	87 100.0	2 2.3	55 63.2	12 13.8																	
18歳以上65歳未満の いる世帯	830 100.0	21 2.5	537 64.7	127 15.3																	
65歳以上のいる世帯	829 100.0	24 2.9	472 56.9	155 18.7																	
女性のいる世帯	1185 100.0	31 2.6	724 61.1	189 15.9																	
65歳以上の世帯	382 100.0	9 2.4	204 53.4	71 18.6																	

3-5 将来の意向

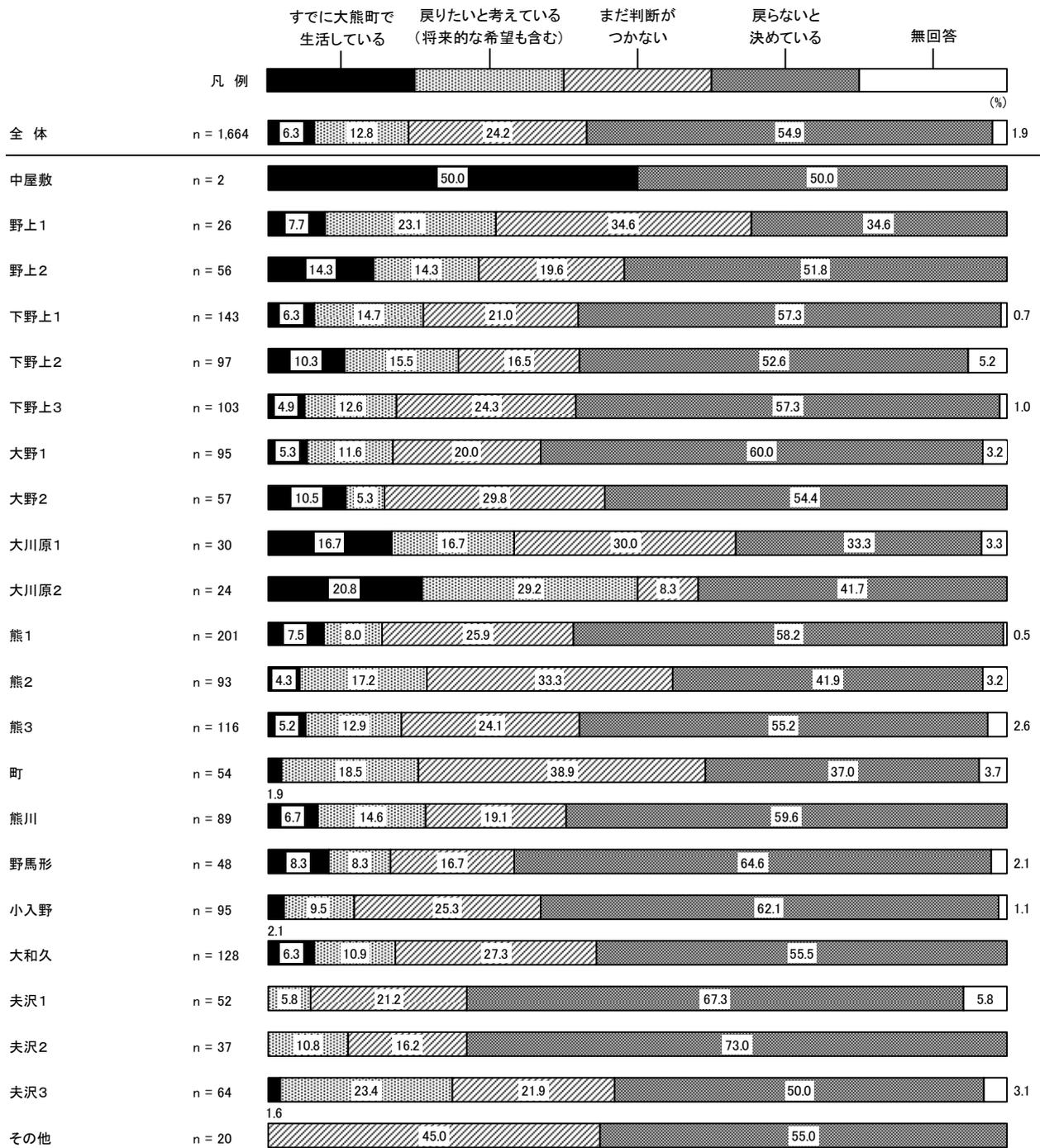
3-5-1 大熊町への帰町意向

問13 今後、大熊町への帰町について、現時点でどのようにお考えですか。（〇は1つ）

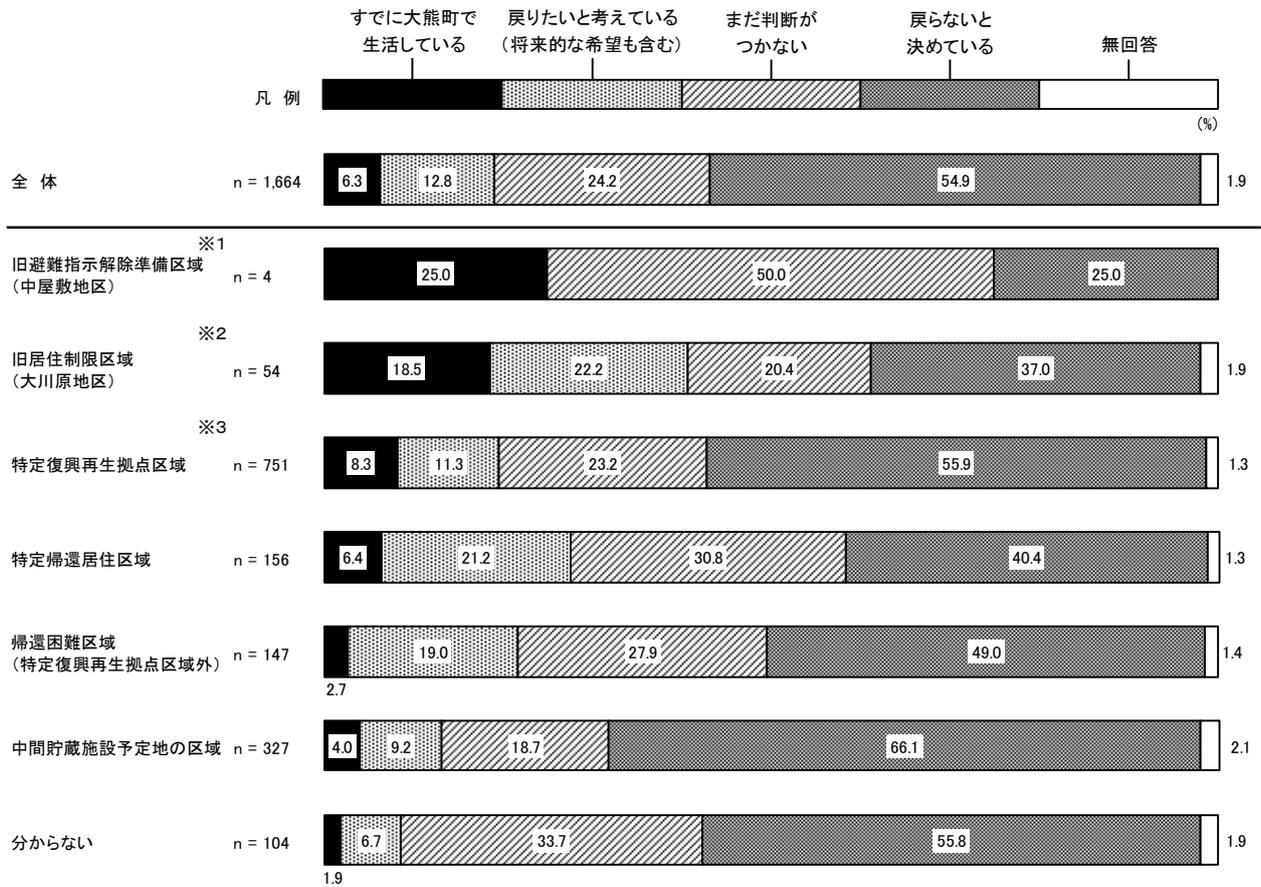
<図表3-5-1-1 大熊町への帰町意向（年齢別）>



<図表3-5-1-2 大熊町への帰町意向（震災発生当時の住まいの行政区別）>



<図表3-5-1-3 大熊町への帰町意向（避難指示区域別）>



※1 平成31年4月10日に避難指示解除済み
 ※2 平成31年4月10日に避難指示解除済み
 ※3 令和4年6月30日に避難指示解除済み

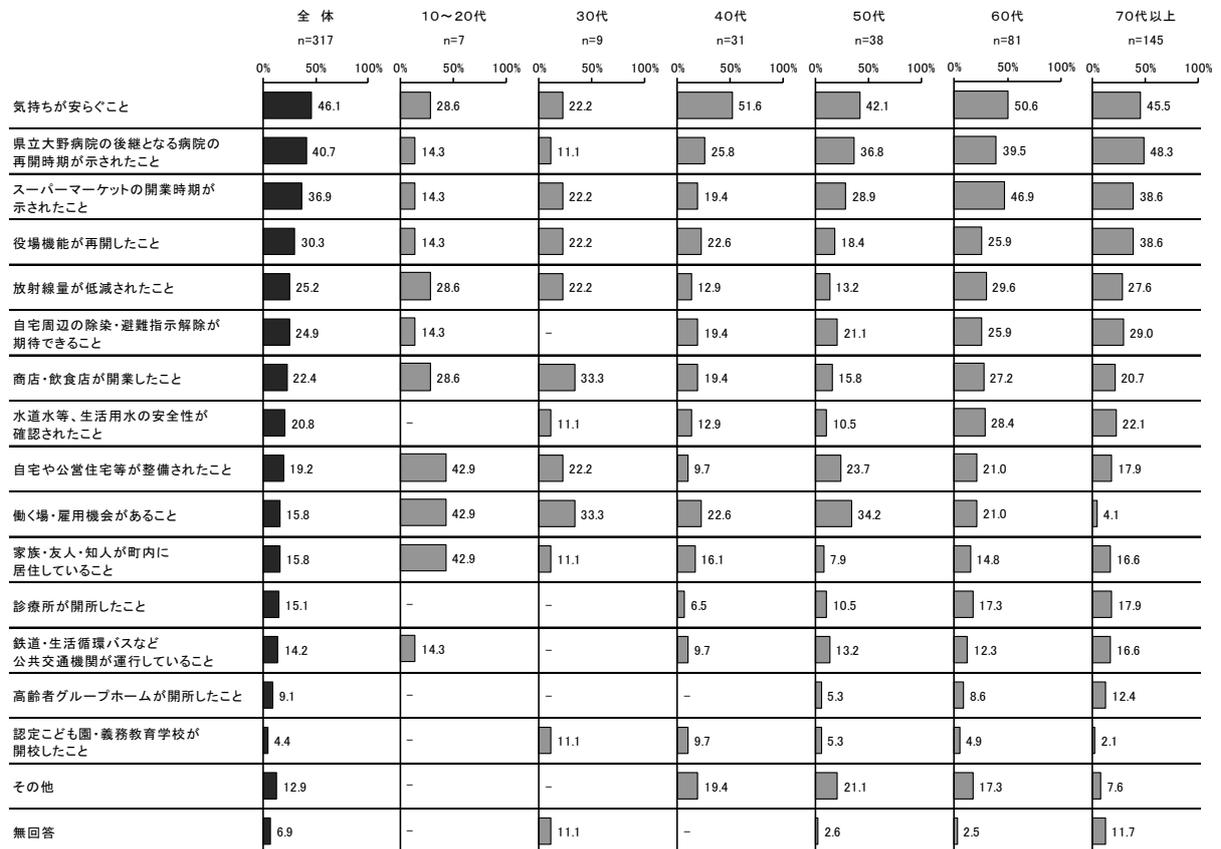
<図表3-5-1-4 大熊町への帰町意向（現在の世帯構成別）>

	調査数	すでに大熊町で生活している	戻りたいと考えている （将来的な希望も含む）	まだ判断がつかない	戻らないと決めている	無回答
全体	1664 100.0	104 6.3	213 12.8	402 24.2	913 54.9	32 1.9
単身世帯：計	390 100.0	49 12.6	37 9.5	83 21.3	213 54.6	8 2.1
15歳以上65歳未満 （中学生を除く）	145 100.0	24 16.6	13 9.0	40 27.6	66 45.5	2 1.4
65歳以上	245 100.0	25 10.2	24 9.8	43 17.6	147 60.0	6 2.4
女性	199 100.0	17 8.5	13 6.5	37 18.6	128 64.3	4 2.0
2人以上の世帯：計	1222 100.0	54 4.4	168 13.7	312 25.5	668 54.7	20 1.6
未就学児（小学校入学前）の いる世帯	77 100.0	2 2.6	8 10.4	18 23.4	47 61.0	2 2.6
小学生のいる世帯	110 100.0	4 3.6	12 10.9	25 22.7	66 60.0	3 2.7
中学生のいる世帯	88 100.0	1 1.1	8 9.1	16 18.2	62 70.5	1 1.1
15歳以上18歳未満 （中学生を除く）のいる世帯	87 100.0	1 1.1	10 11.5	18 20.7	56 64.4	2 2.3
18歳以上65歳未満の いる世帯	830 100.0	29 3.5	101 12.2	221 26.6	467 56.3	12 1.4
65歳以上のいる世帯	829 100.0	39 4.7	121 14.6	207 25.0	446 53.8	16 1.9
女性のいる世帯	1185 100.0	52 4.4	161 13.6	302 25.5	652 55.0	18 1.5
65歳以上だけの世帯	382 100.0	25 6.5	66 17.3	88 23.0	196 51.3	7 1.8

3-5-2 大熊町に戻ることを考えた理由

【問13で「1. すでに大熊町で生活している」「2. 戻りたいと考えている（将来的な希望も含む）」と回答した方に
うかがいます。】
問14-1 大熊町内に戻ることを考えた理由は、どのようなことですか。（〇はいくつでも）

<図表3-5-2-1 大熊町に戻ることを考えた理由（年齢別）>



<図表3-5-2-2 大熊町に戻ることを考えた理由（現在の世帯構成別）>

	調査数	気持ちが安らぐこと	県立大野病院の再開時期が示されたこと	スーパーマーケットの再開時期が示されたこと	役場機能が再開したこと	放射線量が低減されたこと	自宅周辺の除染・避難指示解除が期待できること	商店・飲食店が開業したこと	水道水等、生活用水の安全性が確認されたこと	自宅や公営住宅等が整備されたこと
全体	317 100.0	146 46.1	129 40.7	117 36.9	96 30.3	80 25.2	79 24.9	71 22.4	66 20.8	61 19.2
単身世帯：計	86 100.0	36 41.9	21 24.4	16 18.6	21 24.4	12 14.0	10 11.6	12 14.0	10 11.6	18 20.9
15歳以上65歳未満 （中学生を除く）	37 100.0	15 40.5	7 18.9	4 10.8	9 24.3	3 8.1	3 8.1	4 10.8	2 5.4	8 21.6
65歳以上	49 100.0	21 42.9	14 28.6	12 24.5	12 24.5	9 18.4	7 14.3	8 16.3	8 16.3	10 20.4
女性	30 100.0	10 33.3	9 30.0	7 23.3	8 26.7	4 13.3	2 6.7	4 13.3	4 13.3	8 26.7
2人以上の世帯：計	222 100.0	107 48.2	105 47.3	98 44.1	73 32.9	67 30.2	67 30.2	59 26.6	55 24.8	41 18.5
未就学児（小学校入学前）の いる世帯	10 100.0	5 50.0	6 60.0	7 70.0	4 40.0	4 40.0	2 20.0	4 40.0	3 30.0	3 30.0
小学生のいる世帯	16 100.0	9 56.3	6 37.5	6 37.5	4 25.0	7 43.8	6 37.5	6 37.5	5 31.3	4 25.0
中学生のいる世帯	9 100.0	6 66.7	2 22.2	2 22.2	1 11.1	3 33.3	2 22.2	2 22.2	1 11.1	1 11.1
15歳以上18歳未満 （中学生を除く）のいる世帯	11 100.0	4 36.4	4 36.4	4 36.4	3 27.3	4 36.4	2 18.2	3 27.3	2 18.2	2 18.2
18歳以上65歳未満の いる世帯	130 100.0	65 50.0	56 43.1	53 40.8	33 25.4	34 26.2	35 26.9	33 25.4	27 20.8	26 20.0
65歳以上のいる世帯	160 100.0	78 48.8	82 51.3	79 49.4	64 40.0	52 32.5	53 33.1	43 26.9	43 26.9	29 18.1
女性のいる世帯	213 100.0	103 48.4	100 46.9	94 44.1	69 32.4	64 30.0	66 31.0	56 26.3	53 24.9	38 17.8
65歳以上だけの世帯	91 100.0	42 46.2	48 52.7	44 48.4	40 44.0	33 36.3	32 35.2	26 28.6	28 30.8	15 16.5
	調査数	働く場・雇用機会があること	家族・友人・知人が町内に 居住していること	診療所が開所したこと	交通機・生活循環バスなど公共 機関が開所したこと	高齢者グループホームが 開所したこと	開校したことも園・義務教育学校が	その他	無回答	
全体	317 100.0	50 15.8	50 15.8	48 15.1	45 14.2	29 9.1	14 4.4	41 12.9	22 6.9	
単身世帯：計	86 100.0	17 19.8	9 10.5	10 11.6	10 11.6	6 7.0	1 1.2	12 14.0	8 9.3	
15歳以上65歳未満 （中学生を除く）	37 100.0	14 37.8	3 8.1	4 10.8	3 8.1	-	1 2.7	5 13.5	2 5.4	
65歳以上	49 100.0	3 6.1	6 12.2	6 12.2	7 14.3	6 12.2	-	7 14.3	6 12.2	
女性	30 100.0	6 20.0	6 20.0	4 13.3	5 16.7	4 13.3	-	5 16.7	4 13.3	
2人以上の世帯：計	222 100.0	33 14.9	40 18.0	37 16.7	35 15.8	22 9.9	13 5.9	28 12.6	12 5.4	
未就学児（小学校入学前）の いる世帯	10 100.0	3 30.0	4 40.0	2 20.0	1 10.0	1 10.0	2 20.0	-	-	
小学生のいる世帯	16 100.0	4 25.0	4 25.0	4 25.0	3 18.8	2 12.5	5 31.3	3 18.8	-	
中学生のいる世帯	9 100.0	2 22.2	1 11.1	1 11.1	2 22.2	1 11.1	2 22.2	3 33.3	-	
15歳以上18歳未満 （中学生を除く）のいる世帯	11 100.0	2 18.2	-	-	1 9.1	-	-	3 27.3	-	
18歳以上65歳未満の いる世帯	130 100.0	26 20.0	18 13.8	18 13.8	20 15.4	10 7.7	10 7.7	19 14.6	3 2.3	
65歳以上のいる世帯	160 100.0	16 10.0	33 20.6	32 20.0	29 18.1	21 13.1	8 5.0	19 11.9	12 7.5	
女性のいる世帯	213 100.0	30 14.1	38 17.8	34 16.0	34 16.0	20 9.4	12 5.6	27 12.7	12 5.6	
65歳以上だけの世帯	91 100.0	7 7.7	22 24.2	19 20.9	15 16.5	12 13.2	3 3.3	9 9.9	9 9.9	

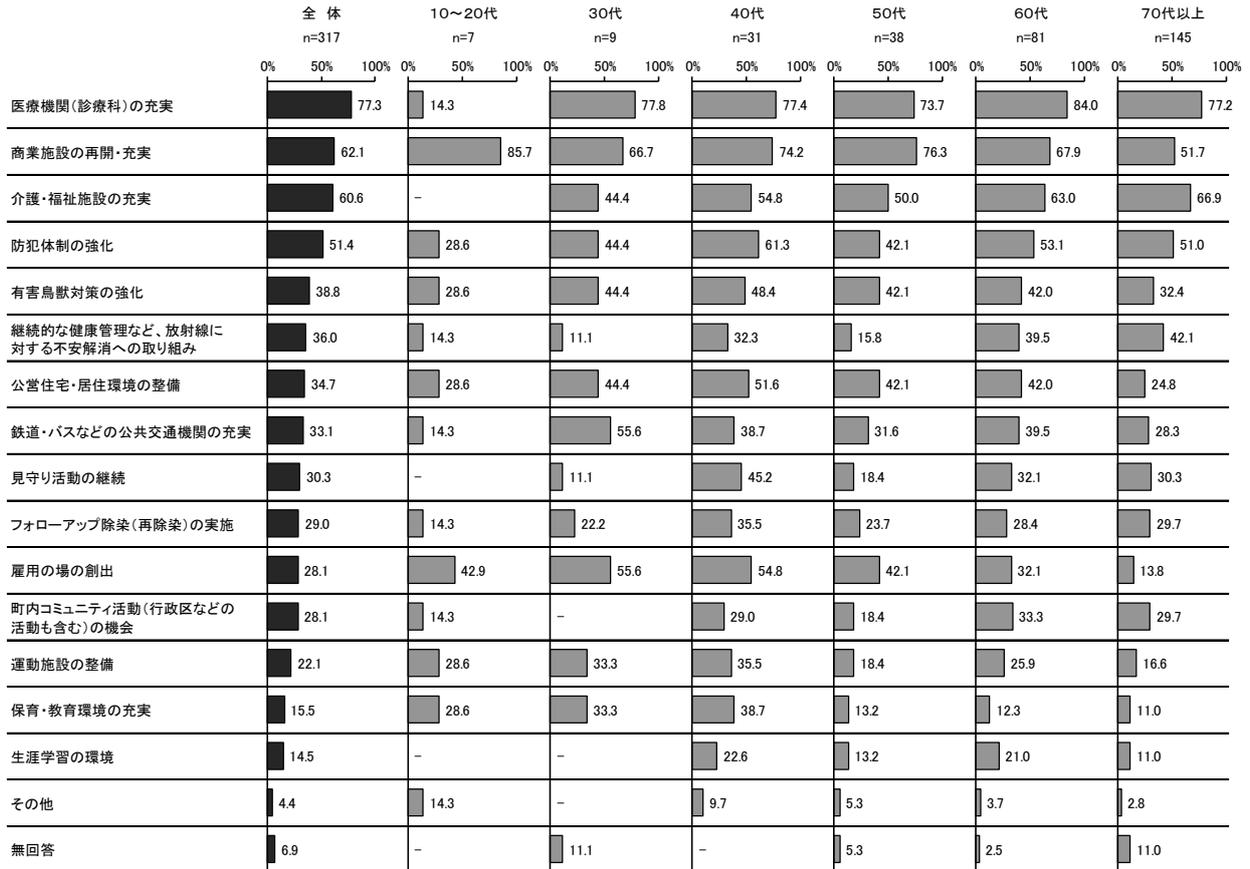
3-5-3 大熊町での今後の生活において必要だと感じていること

【問13で「1. すでに大熊町で生活している」「2. 戻りたいと考えている（将来的な希望も含む）」と回答した方に
 つかがいます。】

問14-2 大熊町内での今後の生活において必要だと感じていることについて教えてください。
 （〇はいくつでも）

問14-3 問14-2で選択した「必要だと感じていること」のうち、特に必要と考えることについて、選択肢番号
 の欄に番号をご記入いただき、具体的なお考えや今後の期待、要望などがあればご自由にお書きくださ
 い。（最大3つまで）

<図表3-5-3-1 大熊町での今後の生活において必要だと感じていること（年齢別）>



<図表3-5-3-2 大熊町での今後の生活において必要だと感じていること（現在の世帯構成別）>

	調査数	医療機関（診療科）の充実	商業施設の再開・充実	介護・福祉施設の充実	防犯体制の強化	有害鳥獣対策の強化	放射線に対する不安解消への取り組み	継続的な健康管理など、	公営住宅・居住環境の整備	の鉄道・バスなどの公共交通機関	見守り活動の継続	フオロアアップ除染（再除染）の実施	雇用の場の創出	町内コミュニティ活動（含む）の機会	運動施設の整備	保育・教育環境の充実	生涯学習の環境	その他	無回答
全体	317 100.0	245 77.3	197 62.1	192 60.6	163 51.4	123 38.8	114 36.0	110 34.7	105 33.1	96 30.3	92 29.0	89 28.1	89 28.1	70 22.1	49 15.5	46 14.5	14 4.4	22 6.9	
単身世帯：計	86 100.0	64 74.4	48 55.8	46 53.5	35 40.7	25 29.1	24 27.9	34 39.5	23 26.7	23 26.7	19 22.1	24 27.9	21 24.4	18 20.9	14 16.3	13 15.1	3 3.5	10 11.6	
15歳以上65歳未満（中学生を除く）	37 100.0	27 73.0	27 73.0	15 40.5	17 45.9	14 37.8	10 27.0	19 51.4	13 35.1	8 21.6	9 24.3	18 48.6	8 21.6	10 27.0	10 27.0	6 16.2	2 5.4	2 5.4	
65歳以上	49 100.0	37 75.5	21 42.9	31 63.3	18 36.7	11 22.4	14 28.6	15 30.6	10 20.4	15 30.6	10 20.4	6 12.2	13 26.5	8 16.3	4 8.2	7 14.3	1 2.0	8 16.3	
女性	30 100.0	19 63.3	16 53.3	16 53.3	11 36.7	7 23.3	9 30.0	13 43.3	8 26.7	10 33.3	4 13.3	6 20.0	10 33.3	3 10.0	4 13.3	7 23.3	2 6.7	6 20.0	
2人以上の世帯：計	222 100.0	177 79.7	146 65.8	141 63.5	124 55.9	95 42.8	89 40.1	74 33.3	82 36.9	71 32.0	71 32.0	62 27.9	65 29.3	51 23.0	34 15.3	31 14.0	11 5.0	9 4.1	
未就学児（小学校入学前）のいる世帯	10 100.0	8 80.0	9 90.0	5 50.0	5 50.0	7 70.0	4 40.0	5 50.0	4 40.0	4 40.0	6 60.0	3 30.0	6 60.0	5 50.0	4 40.0	5 50.0	-	-	
小学生のいる世帯	16 100.0	13 81.3	14 87.5	11 68.8	11 68.8	9 56.3	7 43.8	6 37.5	7 43.8	8 50.0	7 43.8	9 56.3	5 31.3	5 31.3	7 43.8	5 31.3	1 6.3	-	
中学生のいる世帯	9 100.0	6 66.7	7 77.8	5 55.6	5 44.4	5 55.6	3 33.3	3 33.3	5 55.6	4 44.4	3 33.3	7 77.8	3 33.3	4 44.4	4 44.4	3 33.3	2 22.2	-	
15歳以上18歳未満（中学生を除く）のいる世帯	11 100.0	7 63.6	8 72.7	7 63.6	8 72.7	4 36.4	4 36.4	2 18.2	4 36.4	2 18.2	3 27.3	6 54.5	-	2 18.2	3 27.3	1 9.1	-	-	
18歳以上65歳未満のいる世帯	130 100.0	103 79.2	89 68.5	80 61.5	70 53.8	56 43.1	47 36.2	50 38.5	50 38.5	38 29.2	40 30.8	46 35.4	32 24.6	33 25.4	22 16.9	18 13.8	8 6.2	3 2.3	
65歳以上のいる世帯	160 100.0	130 81.3	99 61.9	104 65.0	89 55.6	66 41.3	71 44.4	49 30.6	54 33.8	51 31.9	53 33.1	35 21.9	52 32.5	34 21.3	20 12.5	23 14.4	6 3.8	9 5.6	
女性のいる世帯	213 100.0	170 79.8	139 65.3	135 63.4	121 56.8	93 43.7	88 41.3	71 33.3	80 37.6	69 32.4	69 32.4	59 27.7	64 30.0	50 23.5	34 16.0	30 14.1	10 4.7	9 4.2	
65歳以上だけの世帯	91 100.0	73 80.2	56 61.5	60 65.9	54 59.3	38 41.8	42 46.2	24 26.4	31 34.1	33 36.3	30 33.0	16 17.6	33 36.3	18 19.8	12 13.2	13 14.3	3 3.3	6 6.6	

上位項目についての主な意見は以下の通り。

〔医療機関（診療科）の充実〕

- 子どもがいるが、町外の病院へ行くと大変。（30代・男性）
- 大野病院再開はとてもありがたいです。（40代・男性）
- 現状、住民の数から言えば診療科を増やすのは難しいとは思いますが、何かあれば帰還前の避難先だった郡山の病院まで通っているのでも、緊急性の少ない皮膚科や耳鼻科などは、たまにでもいいので対応できる医師が待機している状態があると助かる。ふたば医療センターを実際利用したが、大変利用しにくい。診療して下さった医師はとても親身になってくれたので悪くは言いたくないが、それもたまたまその医師がただで、診療科も医師も毎日変わりいちいちそれを調べ、診ていただけそうな医師に合わせて受診しなければならず、いわきや郡山まで行けないくらい体調の悪い時にそんな状態だったので、ある程度不便さを想定して帰還したものの、大熊に住むことの大変さを痛感した出来事だった。救急に特化しているが為に日中の外来に重きを置いていないのかもしれないが、それならそれで周知すればいいし、ホームページを見てもそのスタンスがわかりにくい。片手間に外来診療をしている風でとても中途半端だと感じる。救急に特化するならばそれなりの医師を派遣すべきだと思う。（50代・女性）
- 内科、外科、整形外科、眼科医、歯科医。（60代・男性）
- 総合病院が一日も早く完成することを願ってます。今現在無医村に近く、町に戻って来ても、遠くの病院に通院中。高齢になるとかなりしんどく感じる。（70代以上・男性）

Ⅲ 調査結果（全項目）

〔商業施設の再開・充実〕

- ・クマSUNテラスには現在飲食店が充実してきたが、駅周辺以外の場所にも飲食店があるとうれしい。（10～20代・女性）
- ・近隣の市町村で日用品や食料品を買い出しするのではなく、町でお金を使える場が増えると良い。娯楽施設やカフェなど、終業後や休日でも町で楽しめる場所がほしい。（30代・男性）
- ・生活が不便では子育て世代が戻りたくても戻れないから。（40代・女性）
- ・地域経済の活性化、新たな集客拠点の創出。（50代・男性）
- ・今は商業施設が足りない。コンビニ等をふやしてほしい。（60代・女性）

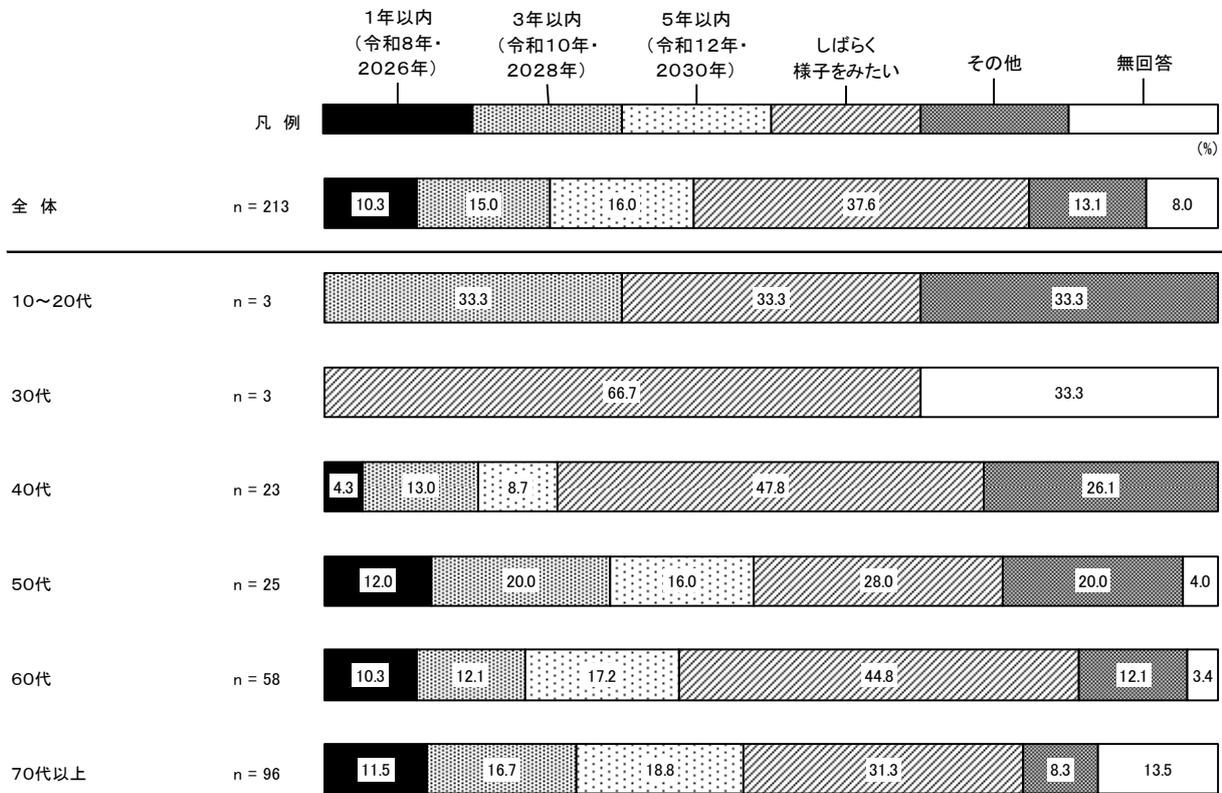
〔介護・福祉施設の充実〕

- ・老人ホームが出来ると両親も連れて帰ってくる際安心。（40代・女性）
- ・これから自分自身がお世話になる可能性があるから。（50代・女性）
- ・介護を必要とする家族がいると、戻りたくても決心がつかない。（60代・女性）
- ・現在ひとり住まいである為認知症や自身で生活困難となった場合どうしても介護等が必要になる。出来るだけ早く特老等を含む介護施設を整備してほしい。（70代以上・男性）
- ・自分が今郡山で受けているデーサービスや訪問介護ができるようにしてほしい。（70代以上・女性）

3-5-4 大熊町への帰町時期

【問13で「2. 戻りたいと考えている（将来的な希望も含む）」と回答した方にうかがいます。
問15-1 今後大熊町へ何年以内に戻りたいと考えていますか。（〇は1つ）

<図表3-5-4-1 大熊町への帰町時期（年齢別）>



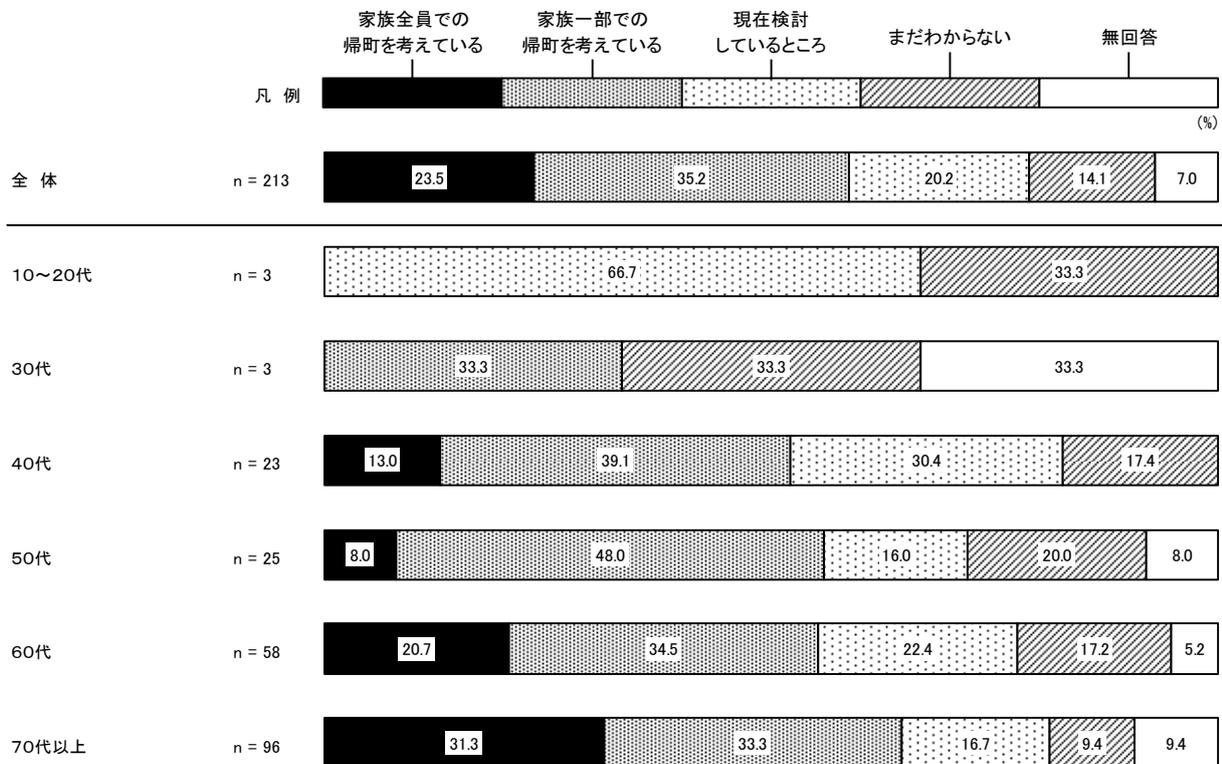
<図表3-5-4-2 大熊町への帰町時期（現在の世帯構成別）>

	調査数	1年以内 (令和8年・2026年)	3年以内 (令和10年・2028年)	5年以内 (令和12年・2030年)	しばらく様子を見たい	その他	無回答
全体	213 100.0	22 10.3	32 15.0	34 16.0	80 37.6	28 13.1	17 8.0
単身世帯:計	37 100.0	6 16.2	9 24.3	5 13.5	11 29.7	2 5.4	4 10.8
15歳以上65歳未満 (中学生を除く)	13 100.0	2 15.4	3 23.1	2 15.4	5 38.5	1 7.7	-
65歳以上	24 100.0	4 16.7	6 25.0	3 12.5	6 25.0	1 4.2	4 16.7
女性	13 100.0	1 7.7	4 30.8	3 23.1	4 30.8	1 7.7	-
2人以上の世帯:計	168 100.0	16 9.5	23 13.7	28 16.7	67 39.9	24 14.3	10 6.0
未就学児(小学校入学前)の いる世帯	8 100.0	1 12.5	1 12.5	1 12.5	5 62.5	-	-
小学生のいる世帯	12 100.0	-	2 16.7	-	7 58.3	2 16.7	1 8.3
中学生のいる世帯	8 100.0	-	2 25.0	-	3 37.5	2 25.0	1 12.5
15歳以上18歳未満 (中学生を除く)のいる世帯	10 100.0	-	2 20.0	1 10.0	4 40.0	3 30.0	-
18歳以上65歳未満の いる世帯	101 100.0	6 5.9	14 13.9	19 18.8	44 43.6	15 14.9	3 3.0
65歳以上のいる世帯	121 100.0	13 10.7	18 14.9	22 18.2	43 35.5	16 13.2	9 7.4
女性のいる世帯	161 100.0	16 9.9	22 13.7	27 16.8	63 39.1	23 14.3	10 6.2
65歳以上だけの世帯	66 100.0	10 15.2	9 13.6	8 12.1	23 34.8	9 13.6	7 10.6

3-5-5 大熊町へ帰町する場合の家族構成

【問13で「2. 戻りたいと考えている（将来的な希望も含む）」と回答した方にかがいます。
問15-2 大熊町へ戻る場合に、家族の全員か一部かについて教えてください。（○は1つ）

<図表3-5-5-1 大熊町へ帰町する場合の家族構成（年齢別）>



<図表3-5-5-2 大熊町へ帰町する場合の家族構成(現在の世帯構成別)>

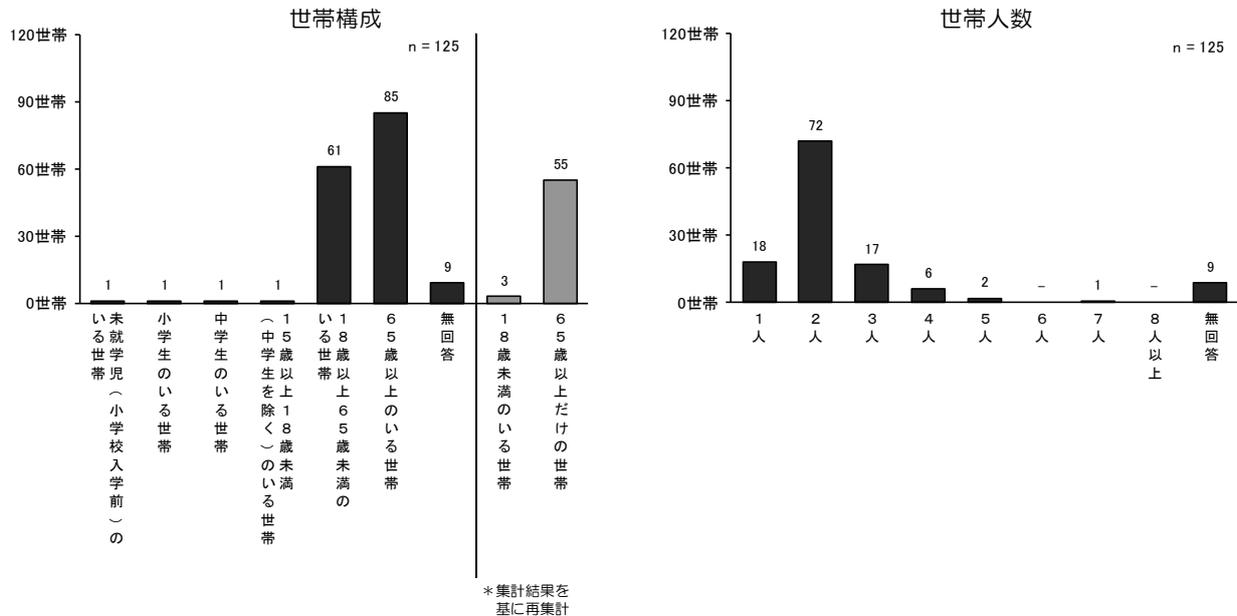
	調査数	家族全員での帰町を考えている	家族一部での帰町を考えている	現在検討しているところ	まだわからない	無回答
全体	213 100.0	50 23.5	75 35.2	43 20.2	30 14.1	15 7.0
単身世帯:計	37 100.0	8 21.6	13 35.1	5 13.5	8 21.6	3 8.1
15歳以上65歳未満 (中学生を除く)	13 100.0	1 7.7	5 38.5	2 15.4	4 30.8	1 7.7
65歳以上	24 100.0	7 29.2	8 33.3	3 12.5	4 16.7	2 8.3
女性	13 100.0	4 30.8	5 38.5	3 23.1	1 7.7	-
2人以上の世帯:計	168 100.0	42 25.0	58 34.5	37 22.0	22 13.1	9 5.4
未就学児(小学校入学前)の いる世帯	8 100.0	-	1 12.5	4 50.0	3 37.5	-
小学生のいる世帯	12 100.0	1 8.3	3 25.0	6 50.0	1 8.3	1 8.3
中学生のいる世帯	8 100.0	1 12.5	3 37.5	2 25.0	1 12.5	1 12.5
15歳以上18歳未満 (中学生を除く)のいる世帯	10 100.0	-	5 50.0	1 10.0	4 40.0	-
18歳以上65歳未満の いる世帯	101 100.0	17 16.8	39 38.6	28 27.7	15 14.9	2 2.0
65歳以上のいる世帯	121 100.0	35 28.9	39 32.2	24 19.8	15 12.4	8 6.6
女性のいる世帯	161 100.0	41 25.5	56 34.8	36 22.4	19 11.8	9 5.6
65歳以上だけの世帯	66 100.0	25 37.9	18 27.3	9 13.6	7 10.6	7 10.6

3-5-6 大熊町へ帰町した場合の世帯構成・人数

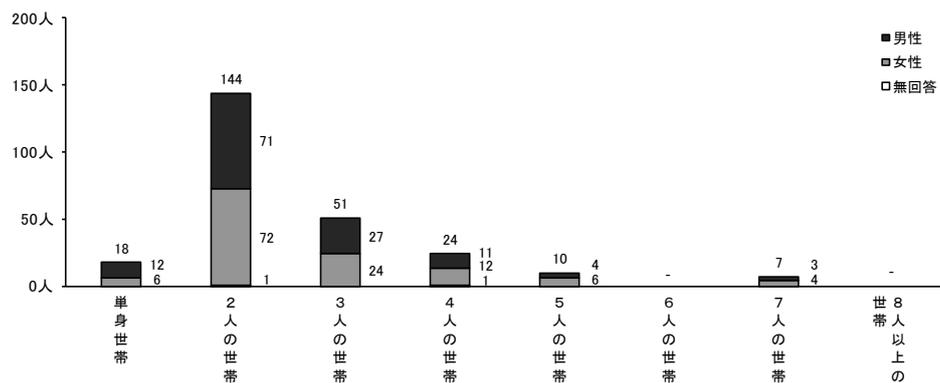
【問15-2で「1. 家族全員での帰町を考えている」「2. 家族一部での帰町を考えている」と回答した方にうかがいます。】

問15-3 帰町した場合にどのような家族構成になると考えていますか。あなた自身を含めて現在の年齢・学齢にあてはまる人数を、性別ごとにご回答ください。（性別ごとに人数で回答）

<図表3-5-6-1 大熊町へ帰町した場合の世帯構成・人数>



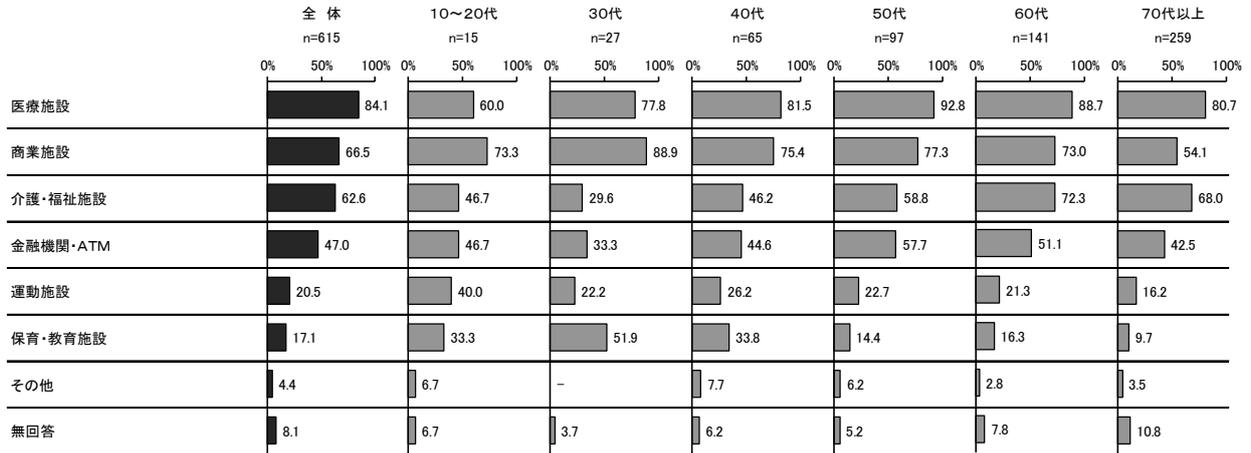
<図表3-5-6-2 大熊町へ帰町した場合の世帯構成・人数（性別）>



3-5-7 大熊町へ帰町した場合に今後の生活において必要な施設

【問13で「2. 戻りたいと考えている（将来的な希望も含む）」「3. まだ判断がつかない」と回答した方にうかがいます。】
 問16-1 大熊町に戻る場合に、今後の生活において特に必要・充実させるべきと考える施設を教えてください。（〇はいくつでも）

<図表3-5-7-1 大熊町へ帰町した場合に今後の生活において必要な施設（年齢別）>



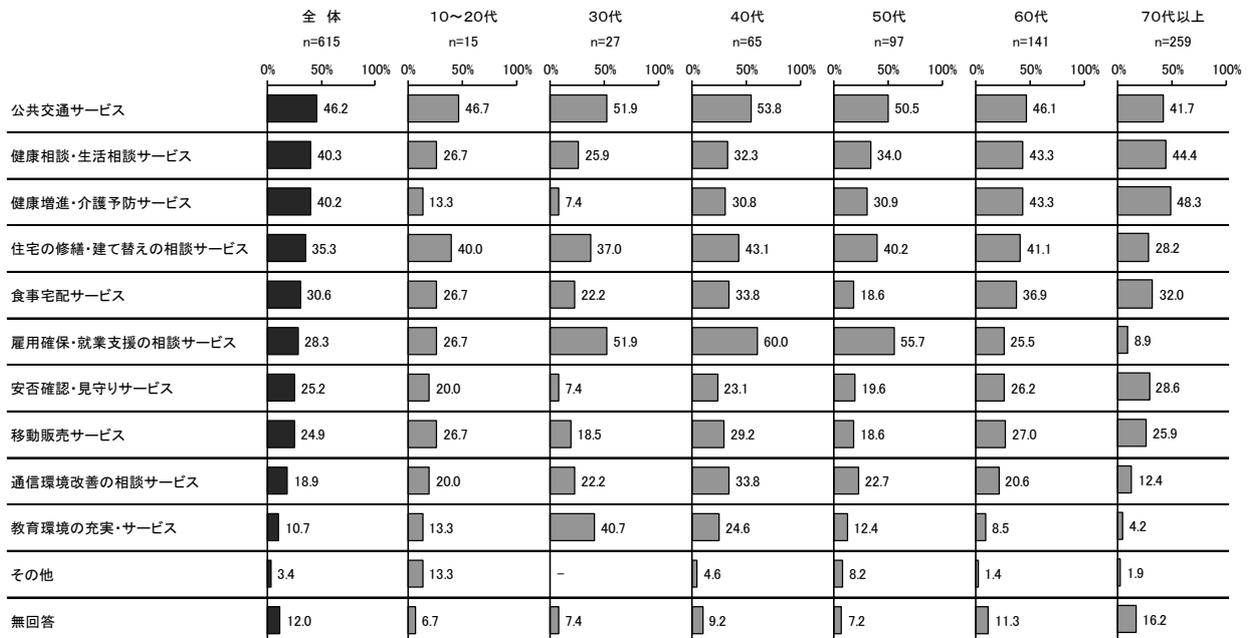
<図表3-5-7-2 大熊町へ帰町した場合に今後の生活において必要な施設（現在の世帯構成別）>

	調査数	医療施設	商業施設	介護・福祉施設	金融機関・ATM	運動施設	保育・教育施設	その他	無回答
全体	615	517	409	385	289	126	105	27	50
	100.0	84.1	66.5	62.6	47.0	20.5	17.1	4.4	8.1
単身世帯：計	120	102	67	70	46	19	10	5	10
	100.0	85.0	55.8	58.3	38.3	15.8	8.3	4.2	8.3
15歳以上65歳未満（中学生を除く）	53	45	35	22	18	8	7	4	2
	100.0	84.9	66.0	41.5	34.0	15.1	13.2	7.5	3.8
65歳以上	67	57	32	48	28	11	3	1	8
	100.0	85.1	47.8	71.6	41.8	16.4	4.5	1.5	11.9
女性	50	41	29	32	14	5	5	3	5
	100.0	82.0	58.0	64.0	28.0	10.0	10.0	6.0	10.0
2人以上の世帯：計	480	405	332	308	236	104	93	22	37
	100.0	84.4	69.2	64.2	49.2	21.7	19.4	4.6	7.7
未就学児（小学校入学前）のいる世帯	26	25	21	17	18	13	14	1	-
	100.0	96.2	80.8	65.4	69.2	50.0	53.8	3.8	-
小学生のいる世帯	37	31	29	21	18	10	16	1	3
	100.0	83.8	78.4	56.8	48.6	27.0	43.2	2.7	8.1
中学生のいる世帯	24	20	20	13	12	8	11	4	1
	100.0	83.3	83.3	54.2	50.0	33.3	45.8	16.7	4.2
15歳以上18歳未満（中学生を除く）のいる世帯	28	24	20	18	14	3	6	1	2
	100.0	85.7	71.4	64.3	50.0	10.7	21.4	3.6	7.1
18歳以上65歳未満のいる世帯	322	277	238	196	162	71	76	13	22
	100.0	86.0	73.9	60.9	50.3	22.0	23.6	4.0	6.8
65歳以上のいる世帯	328	275	209	226	155	65	50	16	30
	100.0	83.8	63.7	68.9	47.3	19.8	15.2	4.9	9.1
女性のいる世帯	463	392	323	296	228	99	91	21	37
	100.0	84.7	69.8	63.9	49.2	21.4	19.7	4.5	8.0
65歳以上だけの世帯	154	124	93	109	73	33	17	9	15
	100.0	80.5	60.4	70.8	47.4	21.4	11.0	5.8	9.7

3-5-8 大熊町へ帰町した場合に必要なサービス

【問13で「2. 戻りたいと考えている（将来的な希望も含む）」「3. まだ判断がつかない」と回答した方にうかがいます。】
 問16-2 大熊町に戻る場合に、今後の生活において特に必要と考えるサービスを教えてください。
 （〇はいくつでも）

<図表3-5-8-1 大熊町へ帰町した場合に必要なサービス（年齢別）>



III 調査結果（全項目）

<図表3-5-8-2 大熊町へ帰町した場合に必要なサービス（現在の世帯構成別）>

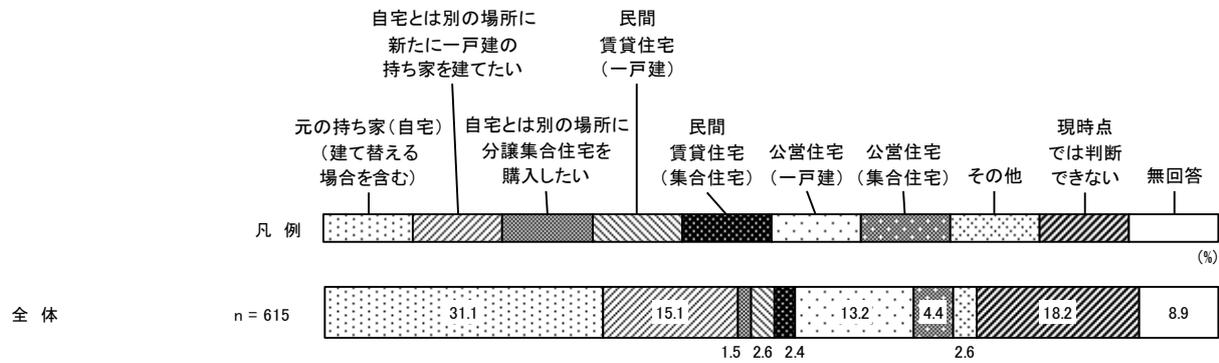
	調査数	公共交通サービス	健康相談・生活相談サービス	健康増進・介護予防サービス	住宅の修繕・建て替えの相談サービス	食事宅配サービス	雇用確保・就業支援の相談サービス	安否確認・見守りサービス	移動販売サービス	通信環境改善の相談サービス	教育環境の充実・サービス	その他	無回答
全体	615 100.0	284 46.2	248 40.3	247 40.2	217 35.3	188 30.6	174 28.3	155 25.2	153 24.9	116 18.9	66 10.7	21 3.4	74 12.0
単身世帯：計	120 100.0	53 44.2	47 39.2	42 35.0	33 27.5	31 25.8	27 22.5	31 25.8	23 19.2	20 16.7	8 6.7	4 3.3	15 12.5
15歳以上65歳未満 （中学生を除く）	53 100.0	24 45.3	19 35.8	11 20.8	18 34.0	9 17.0	23 43.4	11 20.8	11 20.8	11 20.8	7 13.2	4 7.5	3 5.7
65歳以上	67 100.0	29 43.3	28 41.8	31 46.3	15 22.4	22 32.8	4 6.0	20 29.9	12 17.9	9 13.4	1 1.5	-	12 17.9
女性	50 100.0	25 50.0	14 28.0	21 42.0	7 14.0	15 30.0	5 10.0	15 30.0	10 20.0	6 12.0	2 4.0	2 4.0	8 16.0
2人以上の世帯：計	480 100.0	227 47.3	200 41.7	203 42.3	183 38.1	153 31.9	142 29.6	122 25.4	128 26.7	94 19.6	57 11.9	17 3.5	52 10.8
未就学児（小学校入学前）の いる世帯	26 100.0	14 53.8	9 34.6	10 38.5	10 38.5	11 42.3	13 50.0	6 23.1	8 30.8	6 23.1	10 38.5	-	-
小学生のいる世帯	37 100.0	21 56.8	8 21.6	13 35.1	15 40.5	12 32.4	18 48.6	7 18.9	9 24.3	10 27.0	12 32.4	1 2.7	3 8.1
中学生のいる世帯	24 100.0	12 50.0	8 33.3	10 41.7	11 45.8	9 37.5	14 58.3	6 25.0	10 41.7	6 25.0	9 37.5	1 4.2	2 8.3
15歳以上18歳未満 （中学生を除く）のいる世帯	28 100.0	11 39.3	10 35.7	10 35.7	13 46.4	7 25.0	10 35.7	4 14.3	6 21.4	7 25.0	5 17.9	2 7.1	2 7.1
18歳以上65歳未満の いる世帯	322 100.0	160 49.7	126 39.1	119 37.0	130 40.4	101 31.4	131 40.7	73 22.7	78 24.2	71 22.0	48 14.9	12 3.7	29 9.0
65歳以上のいる世帯	328 100.0	149 45.4	150 45.7	161 49.1	117 35.7	115 35.1	62 18.9	90 27.4	91 27.7	47 14.3	26 7.9	9 2.7	42 12.8
女性のいる世帯	463 100.0	220 47.5	192 41.5	198 42.8	179 38.7	144 31.1	136 29.4	117 25.3	123 26.6	89 19.2	56 12.1	16 3.5	52 11.2
65歳以上だけの世帯	154 100.0	66 42.9	74 48.1	80 51.9	52 33.8	51 33.1	11 7.1	49 31.8	48 31.2	23 14.9	9 5.8	5 3.2	23 14.9

3-5-9 大熊町へ帰町した場合に希望する住居形態

【問13で「2. 戻りたいと考えている（将来的な希望も含む）」「3. まだ判断がつかない」と回答した方にうかがいます。】

問16-3 大熊町に戻る場合のお住まいは、どのような形態を希望されますか。（〇は1つ）

<図表3-5-9 大熊町へ帰町した場合に希望する住居形態>



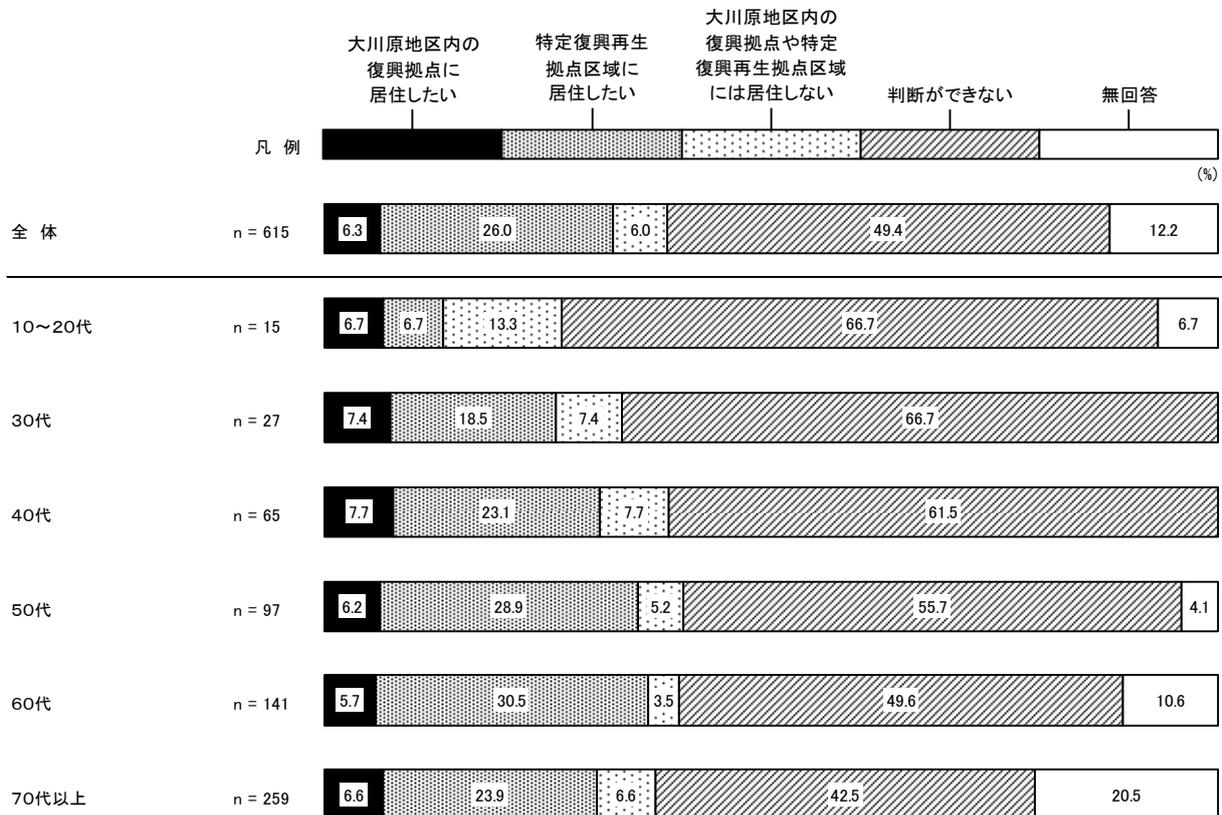
〔その他の内訳〕

給与住宅（社宅など）	0.7%
家族のどなたかのお住まい・実家	0.7%
親戚・知人宅	0.2%
その他	1.1%

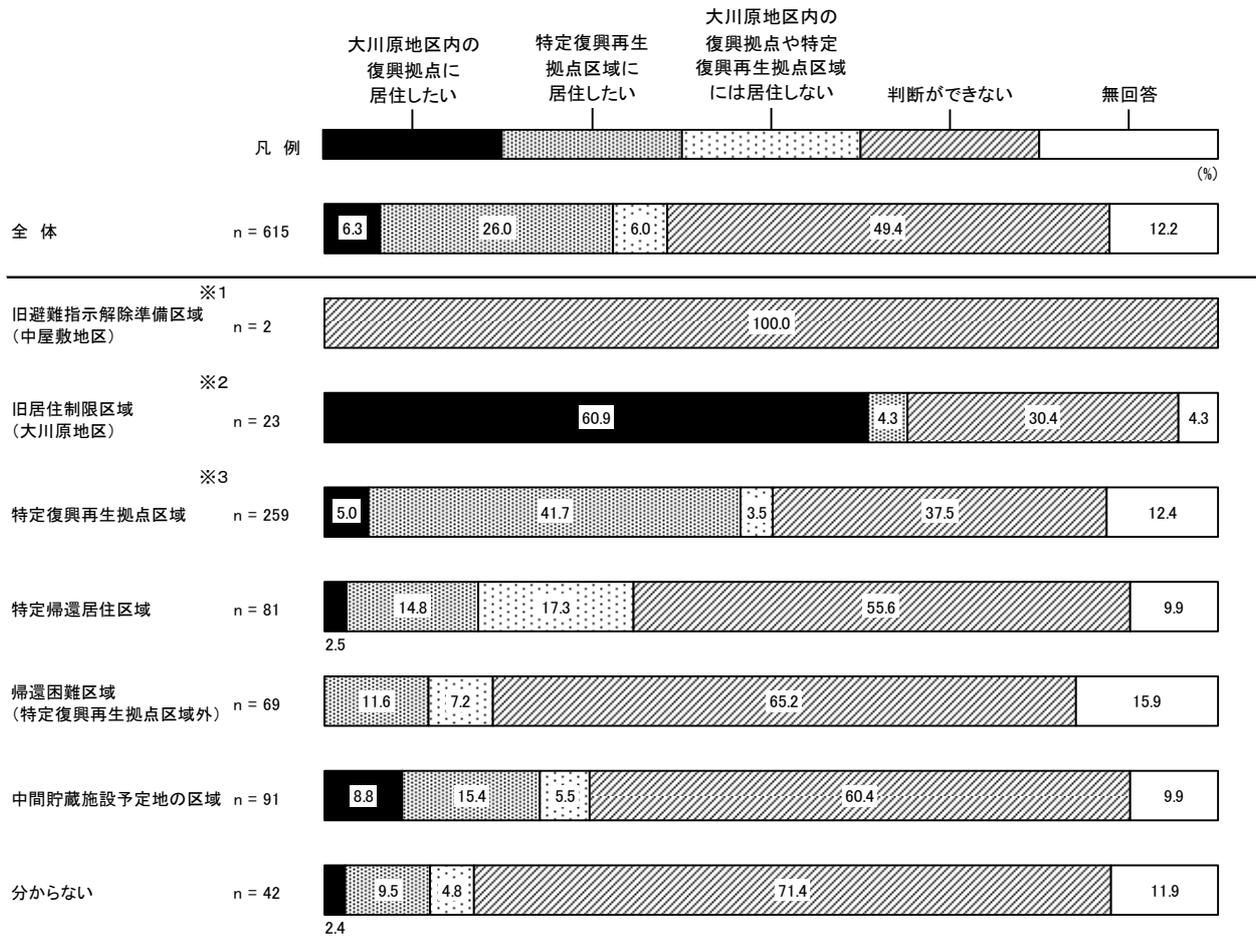
3-5-10 大川原地区内の復興拠点や特定復興再生拠点区域への居住意向

【問13で「2. 戻りたいと考えている（将来的な希望も含む）」「3. まだ判断がつかない」と回答した方にうかがいます。】
 問16-4 大川原地区内の「復興拠点」や、JR大野駅周辺や下野上地区を中心とした「特定復興再生拠点区域」への居住に関する意向について、もっとも近いものはどれですか。（〇は1つ）

<図表3-5-10-1 大川原地区内の復興拠点や特定復興再生拠点区域への居住意向（年齢別）>



<図表3-5-10-2 大川原地区内の復興拠点や特定復興再生拠点区域への居住意向（避難指示区域別）>



※1 平成31年4月10日に避難指示解除済み
 ※2 平成31年4月10日に避難指示解除済み
 ※3 令和4年6月30日に避難指示解除済み

<図表3-5-10-3 大川原地区内の復興拠点や特定復興再生拠点区域への居住意向(現在の世帯構成別)>

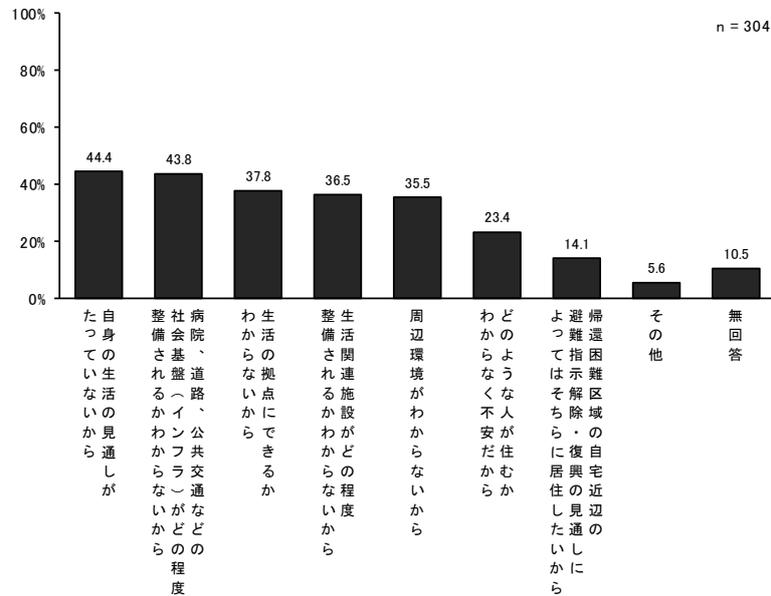
	調査数	大川原地区内の復興拠点に 居住したい	特定復興再生拠点区域に 居住したい	大川原地区内の復興拠点や 特定復興再生拠点区域には 居住しない	判断ができない	無回答
全体	615 100.0	39 6.3	160 26.0	37 6.0	304 49.4	75 12.2
単身世帯:計	120 100.0	5 4.2	24 20.0	9 7.5	64 53.3	18 15.0
15歳以上65歳未満 (中学生を除く)	53 100.0	4 7.5	8 15.1	4 7.5	35 66.0	2 3.8
65歳以上	67 100.0	1 1.5	16 23.9	5 7.5	29 43.3	16 23.9
女性	50 100.0	2 4.0	7 14.0	4 8.0	28 56.0	9 18.0
2人以上の世帯:計	480 100.0	32 6.7	135 28.1	28 5.8	232 48.3	53 11.0
未就学児(小学校入学前)の いる世帯	26 100.0	2 7.7	6 23.1	3 11.5	14 53.8	1 3.8
小学生のいる世帯	37 100.0	3 8.1	11 29.7	4 10.8	17 45.9	2 5.4
中学生のいる世帯	24 100.0	2 8.3	8 33.3	2 8.3	12 50.0	-
15歳以上18歳未満 (中学生を除く)のいる世帯	28 100.0	-	10 35.7	1 3.6	15 53.6	2 7.1
18歳以上65歳未満の いる世帯	322 100.0	22 6.8	89 27.6	16 5.0	170 52.8	25 7.8
65歳以上のいる世帯	328 100.0	23 7.0	89 27.1	20 6.1	147 44.8	49 14.9
女性のいる世帯	463 100.0	31 6.7	131 28.3	27 5.8	221 47.7	53 11.4
65歳以上だけの世帯	154 100.0	10 6.5	46 29.9	11 7.1	60 39.0	27 17.5

3-5-11 大川原地区内の復興拠点や特定復興再生拠点区域への居住を判断できない理由

【問16-4で「4. 判断ができない」と回答した方にうかがいます。】

問16-5 大川原地区内の「復興拠点」や、JR大野駅周辺や下野上地区を中心とした「特定復興再生拠点区域」への居住について、現時点で判断ができない理由はどのようなことですか。（〇はいくつでも）

<図表3-5-11 大川原地区内の復興拠点や特定復興再生拠点区域への居住を判断できない理由>



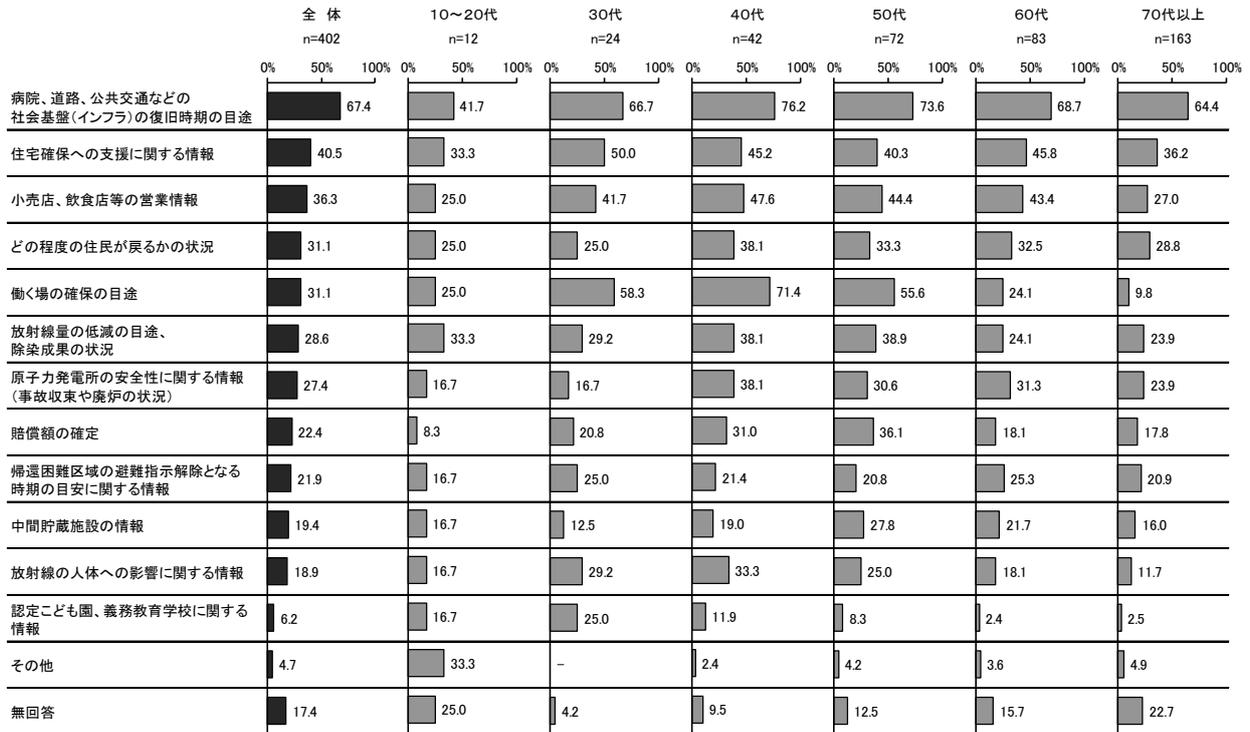
3-5-12 大熊町への帰町を判断するために必要なこと

【問13で「3. まだ判断がつかない」と回答した方にうかがいます。】

問17-1 大熊町へ戻ることが判断するために必要なことを教えてください。（〇はいくつでも）

問17-2 問17-1で選択した「必要なこと」のうち、特に必要と考えることについて選択肢番号の欄に番号をご記入いただき、具体的なお考えや今後の期待、要望などがあればご自由にお書きください。（最大3つまで）

<図表3-5-12-1 大熊町への帰町を判断するために必要なこと（年齢別）>



<図表3-5-12-2 大熊町への帰町を判断するために必要なこと（現在の世帯構成別）>

	調査数	社会基盤（インフラ）の復旧時期の目的	病院、道路、公共交通などの	住宅確保への支援に関する情報	小売店、飲食店等の営業情報	どの程度の住民が戻るかの状況	働く場の確保の目的	放射線量の低減の目的、除染	放射線量の状況	原子力発電所の安全性に関する情報（事故収束や廃炉の状況）	賠償額の確定	と帰還困難区域の避難に関する情報	中間貯蔵施設の情報	放射線の人体への影響に関する情報	認定子ども園、義務教育学校に関する情報	その他	無回答
全体	402 100.0	271 67.4	163 40.5	146 36.3	125 31.1	125 31.1	115 28.6	110 27.4	90 22.4	88 21.9	78 19.4	76 18.9	25 6.2	19 4.7	70 17.4		
単身世帯：計	83 100.0	59 71.1	25 30.1	21 25.3	20 24.1	29 34.9	16 19.3	17 20.5	14 16.9	12 14.5	11 13.3	16 19.3	2 2.4	4 4.8	14 16.9		
15歳以上65歳未満（中学生を除く）	40 100.0	29 72.5	15 37.5	13 32.5	12 30.0	26 65.0	12 30.0	8 20.0	8 20.0	8 20.0	5 12.5	10 25.0	2 5.0	3 7.5	4 10.0		
65歳以上	43 100.0	30 69.8	10 23.3	8 18.6	8 18.6	3 7.0	4 9.3	9 20.9	6 14.0	4 9.3	6 14.0	6 14.0	-	1 2.3	10 23.3		
女性	37 100.0	26 70.3	13 35.1	8 21.6	7 18.9	7 18.9	7 18.9	9 24.3	4 10.8	2 5.4	5 13.5	8 21.6	1 2.7	2 5.4	6 16.2		
2人以上の世帯：計	312 100.0	209 67.0	136 43.6	122 39.1	104 33.3	93 29.8	99 31.7	93 29.8	73 23.4	75 24.0	66 21.2	60 19.2	23 7.4	15 4.8	53 17.0		
未就学児（小学校入学前）のいる世帯	18 100.0	14 77.8	8 44.4	11 61.1	5 27.8	11 61.1	7 38.9	7 38.9	7 38.9	4 22.2	3 16.7	7 38.9	4 44.4	-	3 16.7		
小学生のいる世帯	25 100.0	17 68.0	13 52.0	14 56.0	9 36.0	14 56.0	7 28.0	7 28.0	7 28.0	4 16.0	4 16.0	5 20.0	8 32.0	-	4 16.0		
中学生のいる世帯	16 100.0	11 68.8	6 37.5	7 43.8	8 50.0	6 37.5	4 25.0	7 43.8	3 18.8	5 31.3	4 25.0	3 18.8	4 25.0	1 6.3	3 18.8		
15歳以上18歳未満（中学生を除く）のいる世帯	18 100.0	12 66.7	9 50.0	7 38.9	5 27.8	9 50.0	6 33.3	6 33.3	3 16.7	3 16.7	5 27.8	6 33.3	2 11.1	1 5.6	3 16.7		
18歳以上65歳未満のいる世帯	221 100.0	153 69.2	107 48.4	95 43.0	74 33.5	87 39.4	72 32.6	60 27.1	57 25.8	53 24.0	41 18.6	46 20.8	22 10.0	8 3.6	33 14.9		
65歳以上のいる世帯	207 100.0	136 65.7	86 41.5	74 35.7	72 34.8	40 19.3	57 27.5	58 28.0	46 22.2	50 24.2	39 18.8	28 13.5	7 3.4	12 5.8	40 19.3		
女性のいる世帯	302 100.0	204 67.5	133 44.0	119 39.4	101 33.4	88 29.1	94 31.1	92 30.5	70 23.2	73 24.2	63 20.9	57 18.9	22 7.3	14 4.6	51 16.9		
65歳以上だけの世帯	88 100.0	54 61.4	29 33.0	26 29.5	30 34.1	6 6.8	27 30.7	33 37.5	16 18.2	22 25.0	25 28.4	14 15.9	1 1.1	7 8.0	19 21.6		

上位項目についての主な意見は以下の通り。

〔病院、道路、公共交通などの社会基盤（インフラ）の復旧時期の目的〕

- ・震災前くらいのインフラが復旧しないと、人は集まらないと感じる。（30代・男性）
- ・産婦人科や小児科の病院が必要。（30代・女性）
- ・年をとってからの帰還になるかもしれないので、医療機関が大きいと安心。（40代・女性）
- ・生活するにおいて医療、ライフライン、道路等は必要だと思います。（60代・男性）
- ・自動車の代わりになる乗物として、自動運転車の導入は？（70代以上・男性）

〔住宅確保への支援に関する情報〕

- ・住宅支援がなければ戻りたいと思わないかもです。（10～20代・女性）
- ・賃貸に少しでもいいから補助金ができる事。（30代・男性）
- ・生活する時に家賃を払えるか。（50代・女性）
- ・今家を新しく確保するだけのお金はないので、大熊に帰りたくても無理だと考えています。（60代・女性）
- ・住宅を建てた場の支援の継続を。（70代以上・男性）

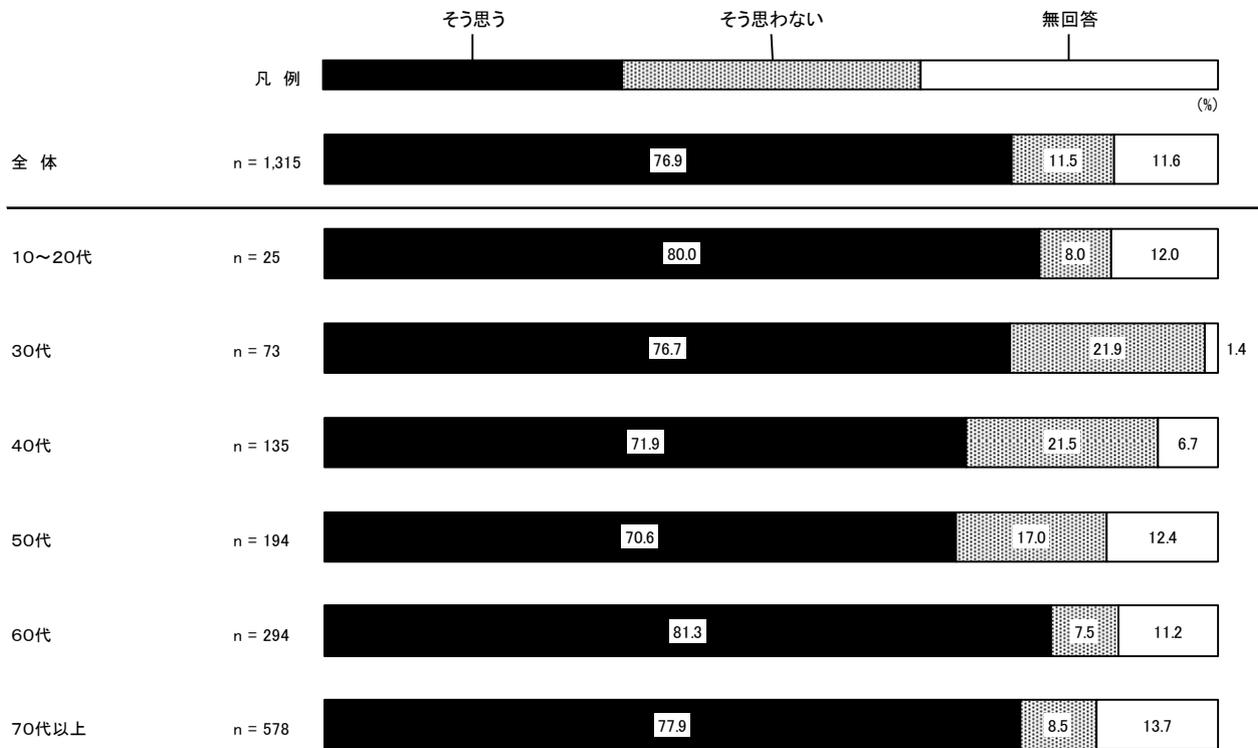
〔小売店、飲食店等の営業情報〕

- ・商業施設が少ない。（30代・無回答）
- ・生活に関係するので。（40代・男性）
- ・飲食、小売店が発達しなければ、物流もない。物流がなければ発展しない（重要）。（60代・男性）
- ・住民が少ないのであれば商売はなりたないのでは？（70代以上・男性）
- ・ホームセンター等日常生活品が買える店があれば良い。（70代以上・男性）

3-5-13 大熊町との「つながり」を保ちたいか

【問13で「3. まだ判断がつかない」「4. 戻らないと決めている」と回答した方にうかがいます。
 問18-1 大熊町との“つながり”を保ちたいと思いますか。（〇は1つ）

<図表3-5-13-1 大熊町との「つながり」を保ちたいか（年齢別）>



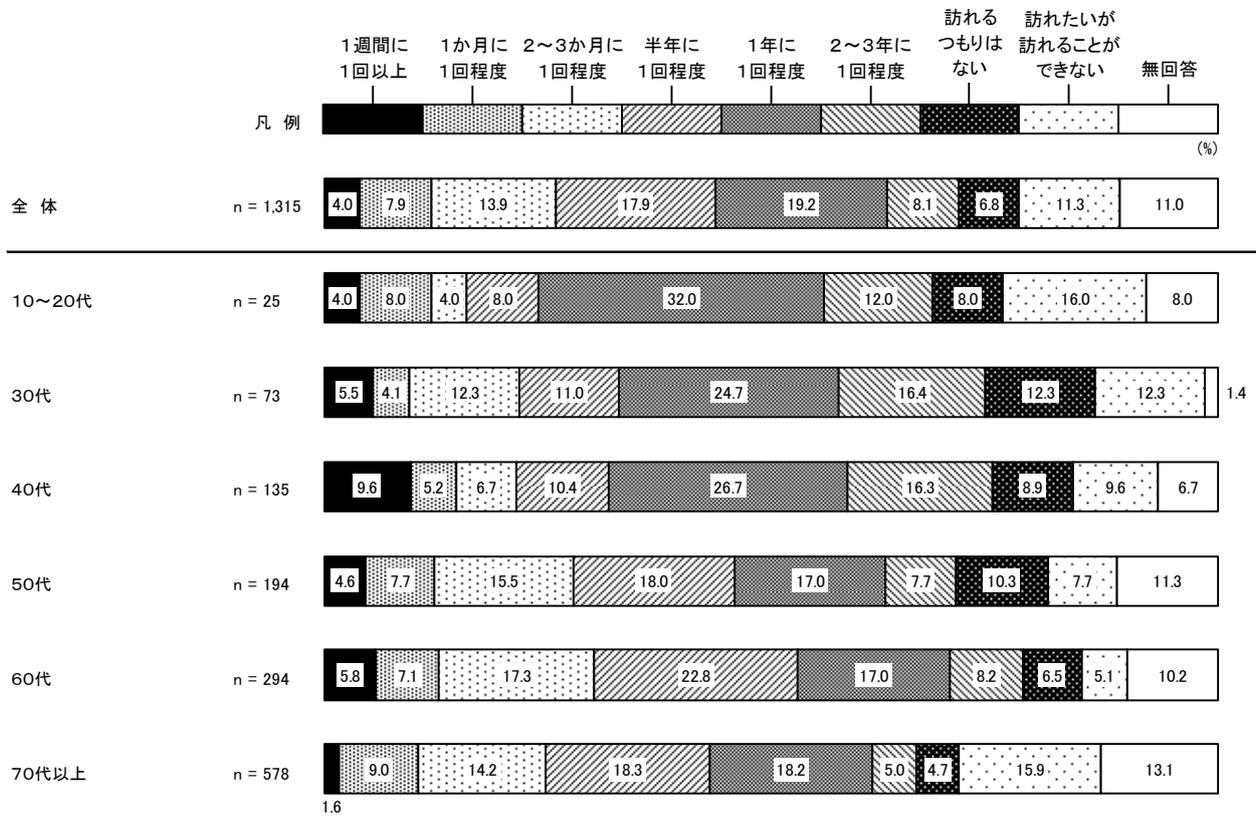
<図表3-5-13-2 大熊町との「つながり」を保ちたいか（現在の世帯構成別）>

	調査数	そう思う	そう思わない	無回答
全体	1315 100.0	1011 76.9	151 11.5	153 11.6
単身世帯:計	296 100.0	221 74.7	38 12.8	37 12.5
15歳以上65歳未満 (中学生を除く)	106 100.0	81 76.4	16 15.1	9 8.5
65歳以上	190 100.0	140 73.7	22 11.6	28 14.7
女性	165 100.0	124 75.2	21 12.7	20 12.1
2人以上の世帯:計	980 100.0	766 78.2	105 10.7	109 11.1
未就学児(小学校入学前)の いる世帯	65 100.0	51 78.5	12 18.5	2 3.1
小学生のいる世帯	91 100.0	71 78.0	11 12.1	9 9.9
中学生のいる世帯	78 100.0	56 71.8	15 19.2	7 9.0
15歳以上18歳未満 (中学生を除く)のいる世帯	74 100.0	53 71.6	13 17.6	8 10.8
18歳以上65歳未満の いる世帯	688 100.0	530 77.0	88 12.8	70 10.2
65歳以上のいる世帯	653 100.0	523 80.1	49 7.5	81 12.4
女性のいる世帯	954 100.0	749 78.5	100 10.5	105 11.0
65歳以上だけの世帯	284 100.0	230 81.0	16 5.6	38 13.4

3-5-14 大熊町を訪れたい頻度

【問13で「3. まだ判断がつかない」「4. 戻らないと決めている」と回答した方にうかがいます。
 問18-2 今後、大熊町にどのぐらいの頻度で訪れたいと思いますか。（〇は1つ）

<図表3-5-14-1 大熊町を訪れたい頻度（年齢別）>



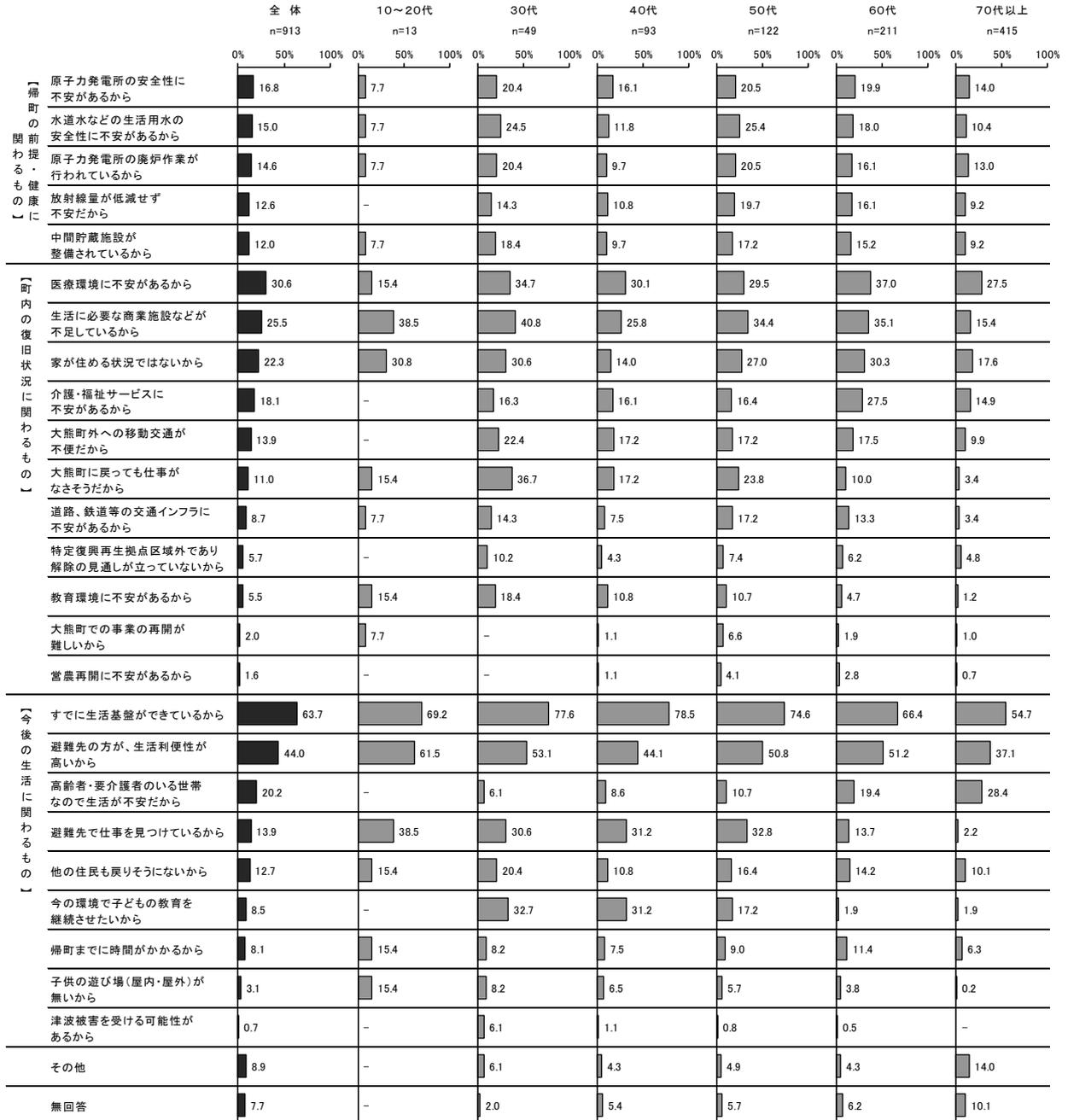
<図表3-5-14-2 大熊町を訪れたい頻度（現在の世帯構成別）>

	調査数	1週間に1回以上	1か月に1回程度	2〜3か月に1回程度	半年に1回程度	1年に1回程度	2〜3年に1回程度	訪れるつもりはない	で訪れたいが訪れることが	無回答
全体	1315 100.0	53 4.0	104 7.9	183 13.9	236 17.9	252 19.2	106 8.1	89 6.8	148 11.3	144 11.0
単身世帯：計	296 100.0	7 2.4	24 8.1	31 10.5	48 16.2	52 17.6	21 7.1	24 8.1	52 17.6	37 12.5
15歳以上65歳未満 （中学生を除く）	106 100.0	6 5.7	8 7.5	10 9.4	19 17.9	22 20.8	14 13.2	10 9.4	8 7.5	9 8.5
65歳以上	190 100.0	1 0.5	16 8.4	21 11.1	29 15.3	30 15.8	7 3.7	14 7.4	44 23.2	28 14.7
女性	165 100.0	2 1.2	10 6.1	19 11.5	30 18.2	29 17.6	7 4.2	11 6.7	38 23.0	19 11.5
2人以上の世帯：計	980 100.0	45 4.6	78 8.0	149 15.2	182 18.6	195 19.9	83 8.5	60 6.1	90 9.2	98 10.0
未就学児（小学校入学前）の いる世帯	65 100.0	9 13.8	4 6.2	5 7.7	6 9.2	15 23.1	9 13.8	8 12.3	7 10.8	2 3.1
小学生のいる世帯	91 100.0	10 11.0	3 3.3	14 15.4	14 15.4	17 18.7	12 13.2	5 5.5	8 8.8	8 8.8
中学生のいる世帯	78 100.0	6 7.7	2 2.6	6 7.7	13 16.7	14 17.9	8 10.3	10 12.8	11 14.1	8 10.3
15歳以上18歳未満 （中学生を除く）のいる世帯	74 100.0	5 6.8	1 1.4	10 13.5	14 18.9	17 23.0	7 9.5	7 9.5	6 8.1	7 9.5
18歳以上65歳未満の いる世帯	688 100.0	39 5.7	51 7.4	103 15.0	115 16.7	142 20.6	64 9.3	50 7.3	62 9.0	62 9.0
65歳以上のいる世帯	653 100.0	22 3.4	61 9.3	108 16.5	134 20.5	118 18.1	43 6.6	33 5.1	62 9.5	72 11.0
女性のいる世帯	954 100.0	44 4.6	76 8.0	147 15.4	181 19.0	192 20.1	78 8.2	55 5.8	86 9.0	95 10.0
65歳以上だけの世帯	284 100.0	5 1.8	27 9.5	45 15.8	67 23.6	51 18.0	18 6.3	9 3.2	27 9.5	35 12.3

3-5-15 現時点で戻らないと決めている理由

【問13で「4. 戻らないと決めている」と回答した方にうかがいます。】
 問19-1 現時点で戻らないと決めている理由はどのようなことですか。（〇はいくつでも）
 問19-2 問19-1で選択した「戻らない理由」のうち、特に重要と考えることについて選択肢番号の欄に番号をご記入いただき、具体的なお考えや今後の要望などがあればご自由にお書きください。（最大3つまで）

<図表3-5-15-1 現時点で戻らないと決めている理由（年齢別）>



<図表3-5-15-2 現時点で戻らないと決めている理由（現在の世帯構成別）>

	調査数	【帰町の前提・健康に関わるもの】							【町内の復旧状況に関わるもの】												
		不安があるから	原子力発電所の安全性に不安があるから	水道水などの生活用水の安全性に不安があるから	行われていないから	原子力発電所の廃炉作業が行われていないから	放射線量が低減せず不安だから	中間貯蔵施設が整備されていないから	医療環境に不安があるから	生活に必要な商業施設などが不足しているから	家が住める状況ではないから	介護・福祉サービスに不安があるから	不便だから	大熊町外への移動交通が	なすさそうだから	大熊町に戻っても仕事が	道路、鉄道等の交通の不安があるから	あり解除の見通しが	特定復興再生拠点区域外で	教育環境に不安があるから	難しいから
全体	913 100.0	153 16.8	137 15.0	133 14.6	115 12.6	110 12.0	279 30.6	233 25.5	204 22.3	165 18.1	127 13.9	100 11.0	79 8.7	52 5.7	50 5.5	18 2.0	15 1.6				
単身世帯:計	213 100.0	33 15.5	29 13.6	27 12.7	21 9.9	19 8.9	59 27.7	44 20.7	45 21.1	28 13.1	26 12.2	19 8.9	15 7.0	12 5.6	5 2.3	5 2.3	2 0.9				
15歳以上65歳未満 (中学生を除く)	66 100.0	14 21.2	12 18.2	12 18.2	9 13.6	7 10.6	23 34.8	27 40.9	19 28.8	8 12.1	10 15.2	15 22.7	10 15.2	4 6.1	3 4.5	3 4.5	2 3.0				
65歳以上	147 100.0	19 12.9	17 11.6	15 10.2	12 8.2	12 8.2	36 24.5	17 11.6	26 17.7	20 13.6	16 10.9	4 2.7	4 3.4	8 5.4	2 1.4	2 1.4	-				
女性	128 100.0	21 16.4	18 14.1	16 12.5	12 9.4	12 9.4	36 28.1	24 18.8	24 18.8	16 12.5	18 14.1	11 8.6	8 6.3	7 5.5	1 0.8	-	-				
2人以上の世帯:計	668 100.0	117 17.5	105 15.7	103 15.4	90 13.5	90 13.5	217 32.5	184 27.5	151 22.6	133 19.9	97 14.5	79 11.8	63 9.4	36 5.4	44 6.6	12 1.8	13 1.9				
未就学児(小学校入学前)の いる世帯	47 100.0	10 21.3	10 21.3	9 19.1	7 14.9	7 14.9	22 46.8	21 44.7	15 31.9	8 17.0	10 21.3	15 31.9	6 12.8	2 4.3	10 21.3	-	-				
小学生のいる世帯	66 100.0	13 19.7	11 16.7	12 18.2	8 12.1	7 10.6	23 34.8	20 30.3	16 24.2	10 15.2	9 13.6	11 16.7	9 13.6	4 6.1	14 21.2	1 1.5	1 1.5				
中学生のいる世帯	62 100.0	14 22.6	8 12.9	10 16.1	8 12.9	12 19.4	23 37.1	16 25.8	10 16.1	13 21.0	9 14.5	12 19.4	8 12.9	5 8.1	13 21.0	2 3.2	2 3.2				
15歳以上18歳未満 (中学生を除く)のいる世帯	56 100.0	7 12.5	10 17.9	9 16.1	7 12.5	8 14.3	17 30.4	15 26.8	8 14.3	8 14.3	8 14.3	10 17.9	7 12.5	3 5.4	5 8.9	2 3.6	2 3.6				
18歳以上65歳未満の いる世帯	467 100.0	84 18.0	82 17.6	75 16.1	68 14.6	69 14.8	154 33.0	141 30.2	116 24.8	94 20.1	77 16.5	74 15.8	53 11.3	25 5.4	41 8.8	10 2.1	10 2.1				
65歳以上のいる世帯	446 100.0	76 17.0	61 13.7	69 15.5	58 13.0	56 12.6	148 33.2	108 24.2	103 23.1	96 21.5	59 13.2	35 7.8	33 7.4	21 4.7	17 3.8	7 1.6	10 2.2				
女性のいる世帯	652 100.0	115 17.6	102 15.6	99 15.2	87 13.3	87 13.3	213 32.7	180 27.6	148 22.7	131 20.1	94 14.4	76 11.7	60 9.2	34 5.2	44 6.7	12 1.8	13 2.0				
65歳以上の世帯	196 100.0	31 15.8	23 11.7	27 13.8	22 11.2	21 10.7	60 30.6	41 20.9	33 16.8	39 19.9	18 9.2	4 2.0	9 4.6	11 5.6	3 1.5	2 1.0	3 1.5				
	調査数	【今後の生活に関わるもの】										その他	無回答								
		ですてに生活基盤が	生活利便性が高いから	避難先の方が高齢者・世帯主の方から不安だから	高齢者・世帯主の方から不安だから	避難先で仕事をみつけているから	他の住民も戻りそうにないから	継続の環境で子どもの教育を	かかると時間がかかると	屋外(子供が遊び場)が無いから	津波被害を受ける可能性があるから										
全体	913 100.0	582 63.7	402 44.0	184 20.2	127 13.9	116 12.7	78 8.5	74 8.1	28 3.1	6 0.7	81 8.9	70 7.7									
単身世帯:計	213 100.0	107 50.2	83 39.0	46 21.6	28 13.1	23 10.8	-	15 7.0	2 0.9	1 0.5	34 16.0	21 9.9									
15歳以上65歳未満 (中学生を除く)	66 100.0	41 62.1	37 56.1	4 6.1	22 33.3	10 15.2	-	5 7.6	2 3.0	1 1.5	6 9.1	2 3.0									
65歳以上	147 100.0	66 44.9	46 31.3	42 28.6	6 4.1	13 8.8	-	10 6.8	-	-	28 19.0	19 12.9									
女性	128 100.0	66 51.6	50 39.1	29 22.7	13 10.2	14 10.9	-	7 5.5	-	1 0.8	19 14.8	14 10.9									
2人以上の世帯:計	668 100.0	461 69.0	310 46.4	134 20.1	98 14.7	87 13.0	78 11.7	55 8.2	26 3.9	5 0.7	41 6.1	41 6.1									
未就学児(小学校入学前)の いる世帯	47 100.0	33 70.2	27 57.4	7 14.9	12 25.5	9 19.1	19 40.4	3 6.4	9 19.1	3 6.4	1 2.1	1 2.1									
小学生のいる世帯	66 100.0	47 71.2	26 39.4	13 19.7	13 19.7	12 18.2	28 42.4	4 6.1	10 15.2	1 1.5	3 4.5	2 3.0									
中学生のいる世帯	62 100.0	49 79.0	29 46.8	14 22.6	13 21.0	6 9.7	29 46.8	2 3.2	2 3.2	-	3 4.8	-									
15歳以上18歳未満 (中学生を除く)のいる世帯	56 100.0	46 82.1	26 46.4	5 8.9	20 35.7	5 8.9	21 37.5	2 3.6	5 8.9	-	4 7.1	1 1.8									
18歳以上65歳未満の いる世帯	467 100.0	335 71.7	227 48.6	74 15.8	95 20.3	68 14.6	77 16.5	39 8.4	25 5.4	5 1.1	25 5.4	26 5.6									
65歳以上のいる世帯	446 100.0	286 64.1	195 43.7	121 27.1	34 7.6	55 12.3	19 4.3	34 7.6	13 2.9	1 0.2	36 8.1	31 7.0									
女性のいる世帯	652 100.0	454 69.6	303 46.5	132 20.2	96 14.7	85 13.0	76 11.7	53 8.1	26 4.0	5 0.8	40 6.1	39 6.0									
65歳以上の世帯	196 100.0	123 62.8	80 40.8	56 28.6	2 1.0	19 9.7	-	16 8.2	1 0.5	-	16 8.2	15 7.7									

Ⅲ 調査結果（全項目）

上位項目についての主な意見は以下の通り。

〔すでに生活基盤ができているから〕

- ・両親や親戚など近くにおり、過ごしやすい環境に身を置いているため。（10～20代・男性）
- ・子供の学校・習い事・友人関係ができているため。（30代・男性）
- ・仕事があるか不安。（40代・男性）
- ・子どもたちは自立し、今いる場所に家を建てて生活の基盤ができているし、大熊町の家は解体済。（50代・女性）
- ・老後の生活を考えると、色々な選択肢が選べる現在の場所の方が良い。（60代・男性）

〔避難先の方が、生活利便性が高いから〕

- ・子供を育てるに当たり利便性が充実している。（30代・男性）
- ・大熊より買物に不便がないため。（30代・女性）
- ・今の方が利便性がよいのであえて悪いところで生活するという考えはない。（50代・男性）
- ・年々、年老いて、日常の買物や医療が近くですませることができることが大切だから。（60代・男性）
- ・高齢のため道路、鉄道、バス等のインフラや生活環境全般において現避難先の方が安心できる。（70代以上・男性）

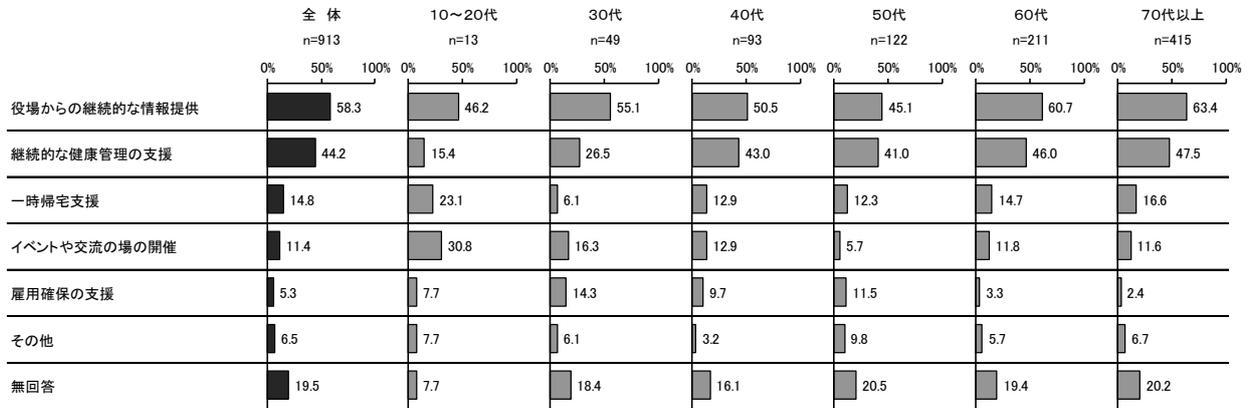
〔医療環境に不安があるから〕

- ・いざという時に不安。よく、いわきの医療センターにドクターヘリが飛んでくるのを見かける。（30代・女性）
- ・今住んでいる所にはたくさん病院があるから。（40代・女性）
- ・持病があり定期的に受診できる病院が必要。ペットも居るので動物病院（夜間対応）も必要。（50代・女性）
- ・現在身体の不具合による通院治療中であり、帰町した場合は治療に専任できない為。（60代・男性）
- ・震災後健康状態が悪くなり、医療機関が近くにないと不安です。（70代以上・男性）

3-5-16 帰町しない場合に今後の生活において必要な支援

【問13で「4. 戻らないと決めている」と回答した方にうかがいます。】
 問19-3 今後の生活においてどのような支援を求めますか。（〇はいくつでも）

<図表3-5-16-1 帰町しない場合に今後の生活において必要な支援（年齢別）>



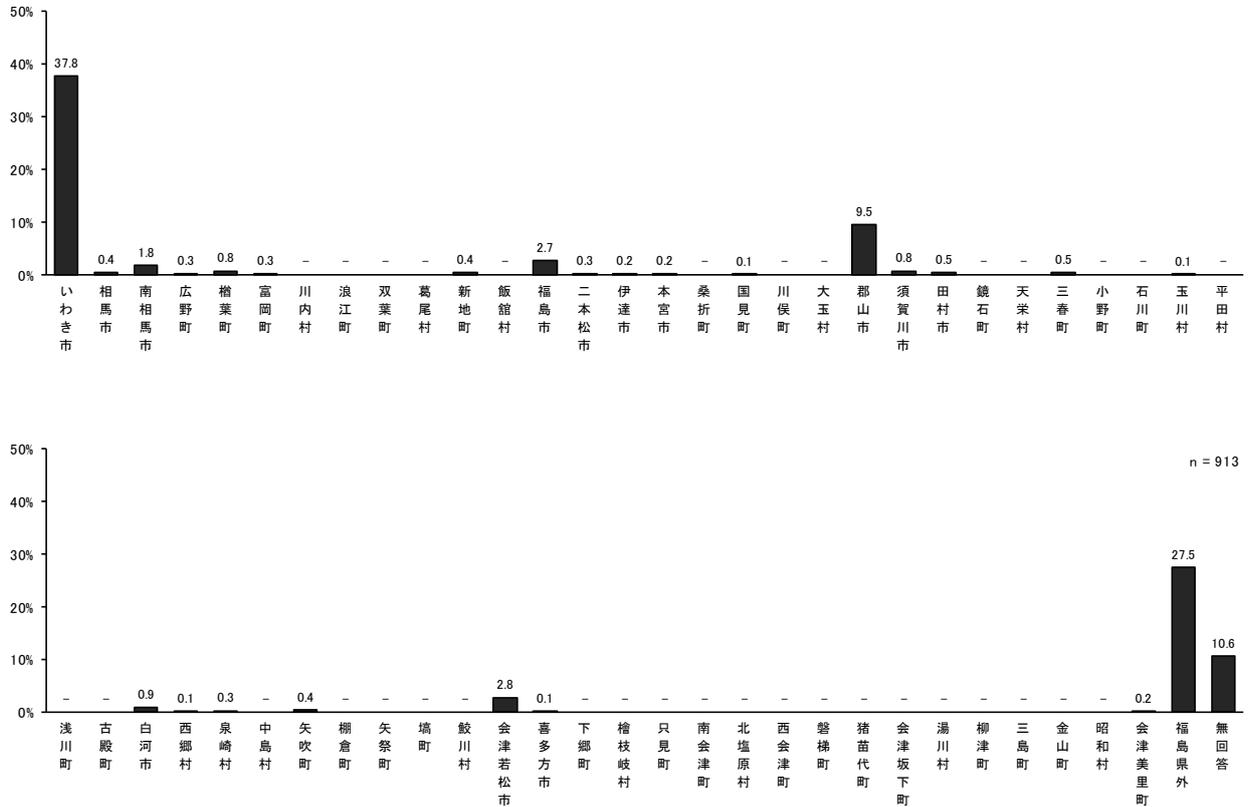
<図表3-5-16-2 帰町しない場合に今後の生活において必要な支援（現在の世帯構成別）>

	調査数	役場からの継続的な情報提供	継続的な健康管理の支援	一時帰宅支援	イベントや交流の場の開催	雇用確保の支援	その他	無回答
全体	913	532	404	135	104	48	59	178
	100.0	58.3	44.2	14.8	11.4	5.3	6.5	19.5
単身世帯:計	213	112	85	27	14	9	22	46
	100.0	52.6	39.9	12.7	6.6	4.2	10.3	21.6
15歳以上18歳未満 (中学生を除く)	66	33	22	10	1	5	8	13
	100.0	50.0	33.3	15.2	1.5	7.6	12.1	19.7
65歳以上	147	79	63	17	13	4	14	33
	100.0	53.7	42.9	11.6	8.8	2.7	9.5	22.4
女性	128	73	56	15	7	5	12	26
	100.0	57.0	43.8	11.7	5.5	3.9	9.4	20.3
2人以上の世帯:計	668	407	307	103	88	39	37	116
	100.0	60.9	46.0	15.4	13.2	5.8	5.5	17.4
未就学児(小学校入学前)のいる世帯	47	32	17	5	9	6	1	2
	100.0	68.1	36.2	10.6	19.1	12.8	2.1	4.3
小学生のいる世帯	66	40	29	9	14	11	3	9
	100.0	60.6	43.9	13.6	21.2	16.7	4.5	13.6
中学生のいる世帯	62	36	27	8	11	7	2	7
	100.0	58.1	43.5	12.9	17.7	11.3	3.2	11.3
15歳以上18歳未満 (中学生を除く)のいる世帯	56	29	28	9	7	4	4	8
	100.0	51.8	50.0	16.1	12.5	7.1	7.1	14.3
18歳以上65歳未満のいる世帯	467	272	205	73	60	37	26	81
	100.0	58.2	43.9	15.6	12.8	7.9	5.6	17.3
65歳以上のいる世帯	448	294	218	78	60	13	24	80
	100.0	65.9	48.9	17.5	13.5	2.9	5.4	17.9
女性のいる世帯	652	398	300	101	87	39	37	112
	100.0	61.0	46.0	15.5	13.3	6.0	5.7	17.2
65歳以上の世帯	196	132	98	30	28	2	11	35
	100.0	67.3	50.0	15.3	14.3	1.0	5.6	17.9

3-5-17 帰町しない場合に居住を検討する自治体

【問13で「4. 戻らないと決めている」と回答した方にうかがいます。】
 問19-4 今後の居住を検討している（既に居住している場合を含む）自治体はどの自治体になるかを教えてください。（〇は1つ）

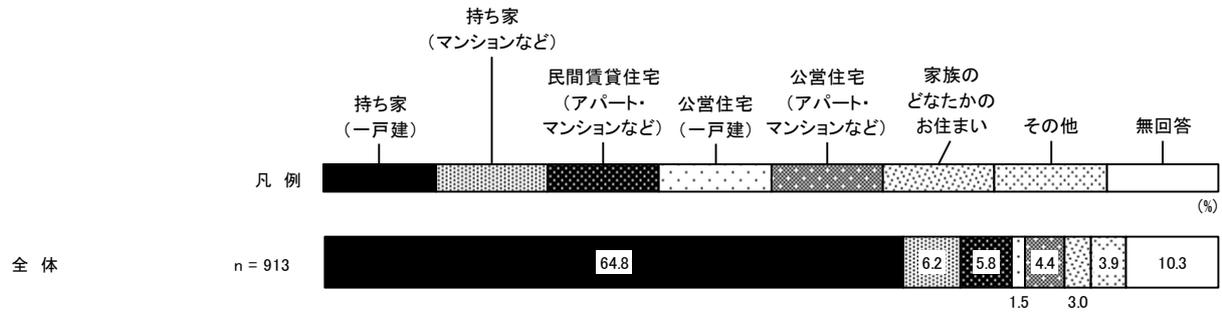
<図表3-5-17 帰町しない場合に居住を検討する自治体>



3-5-18 帰町しない場合に今後の住まいとして希望する住居形態

【問13で「4. 戻らないと決めている」と回答した方にかがいます。】
 問19-5 今後のお住まいとして希望する（既に居住している場合を含む）住宅は、どのような形態ですか。
 （〇は1つ）

<図表3-5-18 帰町しない場合に今後の住まいとして希望する住居形態>



〔その他の内訳〕

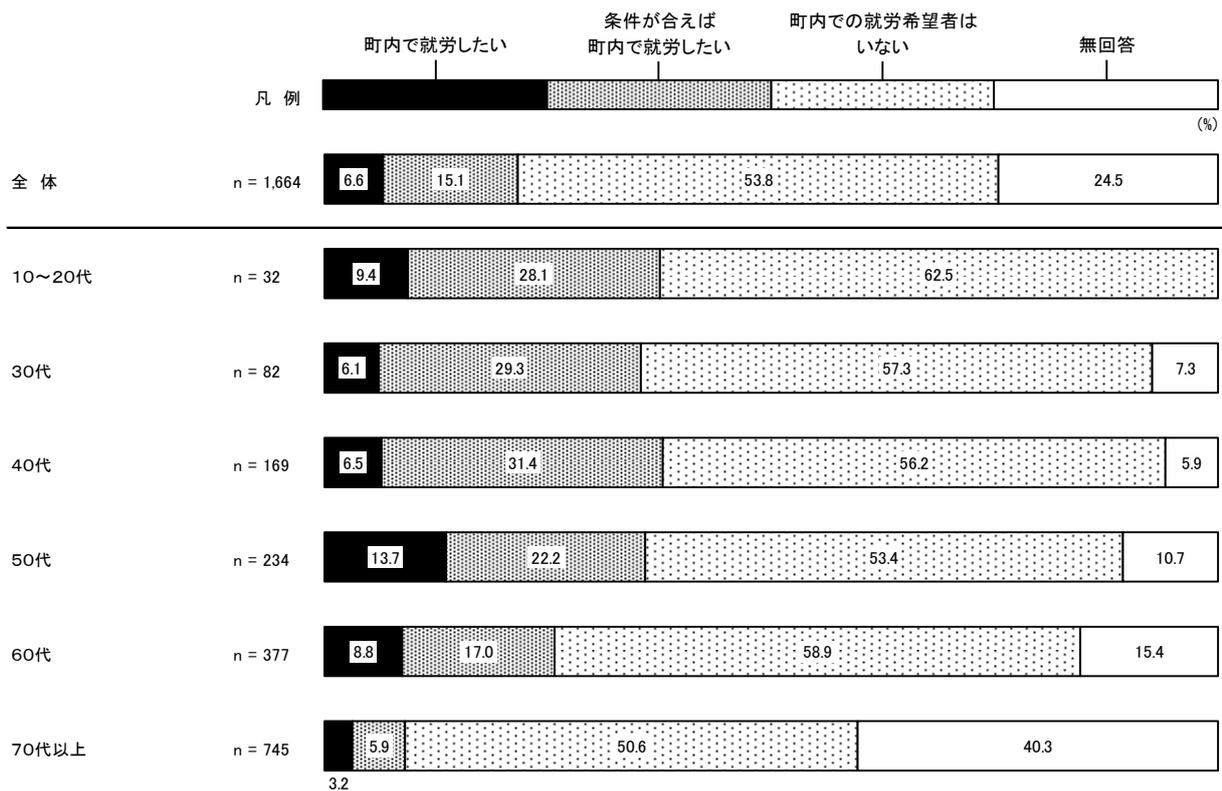
民間賃貸住宅（一戸建）	0.8%
給与住宅（社宅など）	0.4%
親戚・知人宅	0.3%
その他	2.4%

3-6 大熊町内での就労意向

3-6-1 大熊町内で働く場が整備された場合の家族の就労意向

問20 町では町内への企業誘致を進めています。町内で働く場が整備された際、あなたを含めたご家族で就労を希望する方はいらっしゃいますか。（〇は1つ）
町内で就労したい方は、就労を希望する人数を性別ごとにご回答ください。

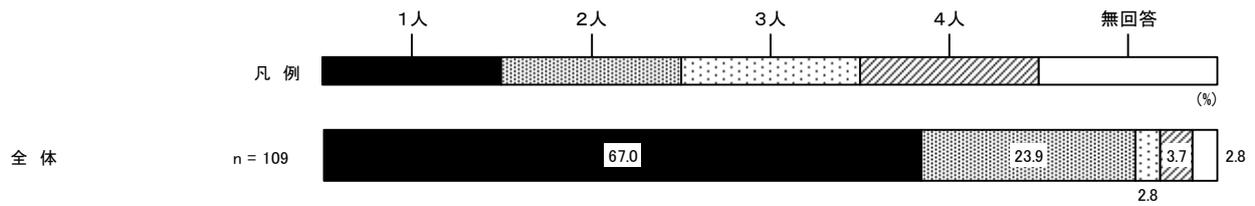
<図表3-6-1-1 大熊町内で働く場が整備された場合の家族の就労意向（年齢別）>



<図表3-6-1-2 大熊町内で働く場が整備された場合の家族の就労意向(現在の世帯構成別)>

	調査数	町内で就労したい	条件が合えば町内で就労したい	町内での就労希望者はいない	無回答
全体	1664 100.0	109 6.6	252 15.1	895 53.8	408 24.5
単身世帯:計	390 100.0	21 5.4	55 14.1	194 49.7	120 30.8
15歳以上65歳未満 (中学生を除く)	145 100.0	17 11.7	38 26.2	79 54.5	11 7.6
65歳以上	245 100.0	4 1.6	17 6.9	115 46.9	109 44.5
女性	199 100.0	10 5.0	19 9.5	91 45.7	79 39.7
2人以上の世帯:計	1222 100.0	86 7.0	192 15.7	681 55.7	263 21.5
未就学児(小学校入学前)の いる世帯	77 100.0	7 9.1	22 28.6	40 51.9	8 10.4
小学生のいる世帯	110 100.0	8 7.3	31 28.2	61 55.5	10 9.1
中学生のいる世帯	88 100.0	9 10.2	15 17.0	56 63.6	8 9.1
15歳以上18歳未満 (中学生を除く)のいる世帯	87 100.0	7 8.0	19 21.8	50 57.5	11 12.6
18歳以上65歳未満の いる世帯	830 100.0	72 8.7	173 20.8	451 54.3	134 16.1
65歳以上のいる世帯	829 100.0	45 5.4	88 10.6	470 56.7	226 27.3
女性のいる世帯	1185 100.0	82 6.9	185 15.6	664 56.0	254 21.4
65歳以上だけの世帯	382 100.0	14 3.7	18 4.7	222 58.1	128 33.5

<図表3-6-1-3 大熊町内で就労を希望する人数>

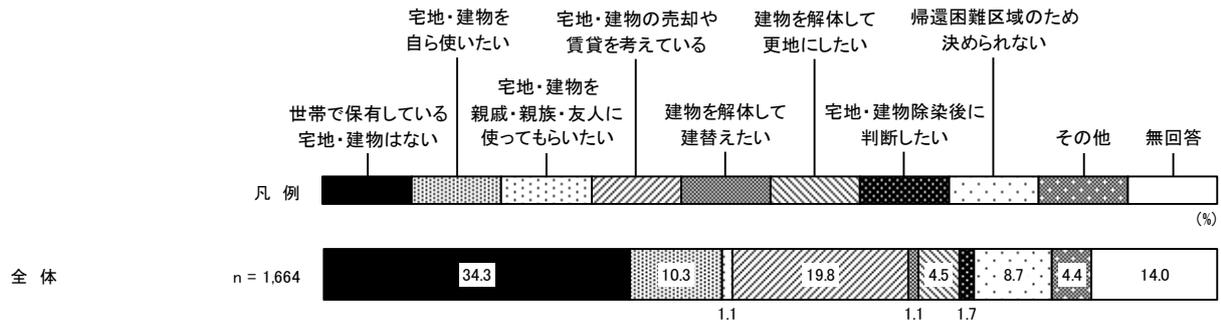


3-7 不動産の取り扱い意向

3-7-1 大熊町内に保有している宅地・建物の利用意向

問21-1 町内に保有している宅地・建物の利用意向についてうかがいます。
現時点でのご意向に関して、もっとも近いものはどれですか。（〇は1つ）
（複数所有している場合は自宅についてお答えください）

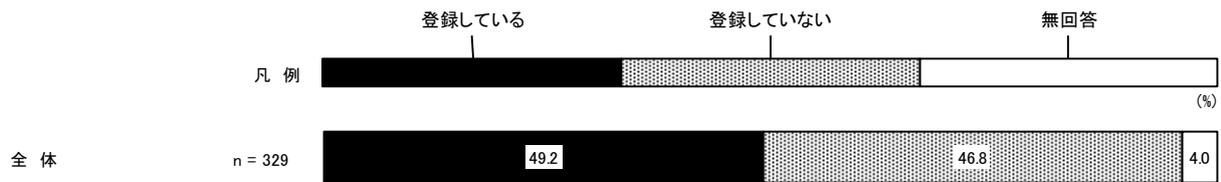
<図表3-7-1 大熊町内に保有している宅地・建物の利用意向>



3-7-2 不動産利活用事業への登録

【問21-1で「4. 宅地・建物の売却や賃貸を考えている」と回答した方にうかがいます。】
問21-2 現在おおくままちづくり公社では不動産利活用事業を行っています。あなたはこの事業に登録されていますか。（〇は1つ）

<図表3-7-2 不動産利活用事業への登録>

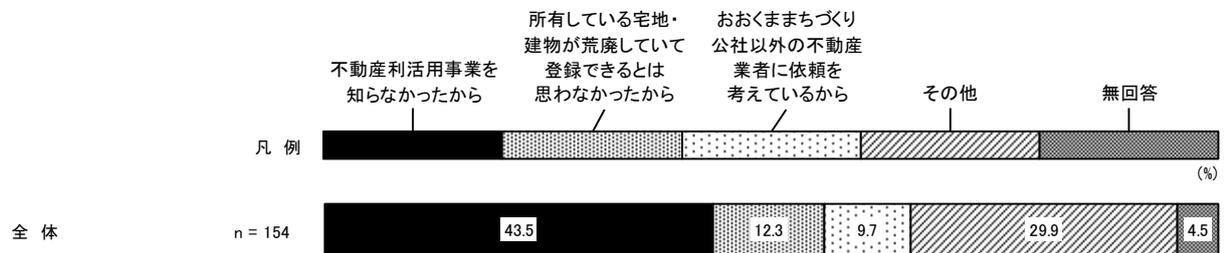


3-7-3 不動産利活用事業に登録していない理由

【問21-2で「2. 登録していない」と回答した方にうかがいます。】

問21-3 おおくままちづくり公社の不動産利活用事業に登録されていない理由を教えてください。（〇は1つ）

<図表3-7-3 不動産利活用事業に登録していない理由>

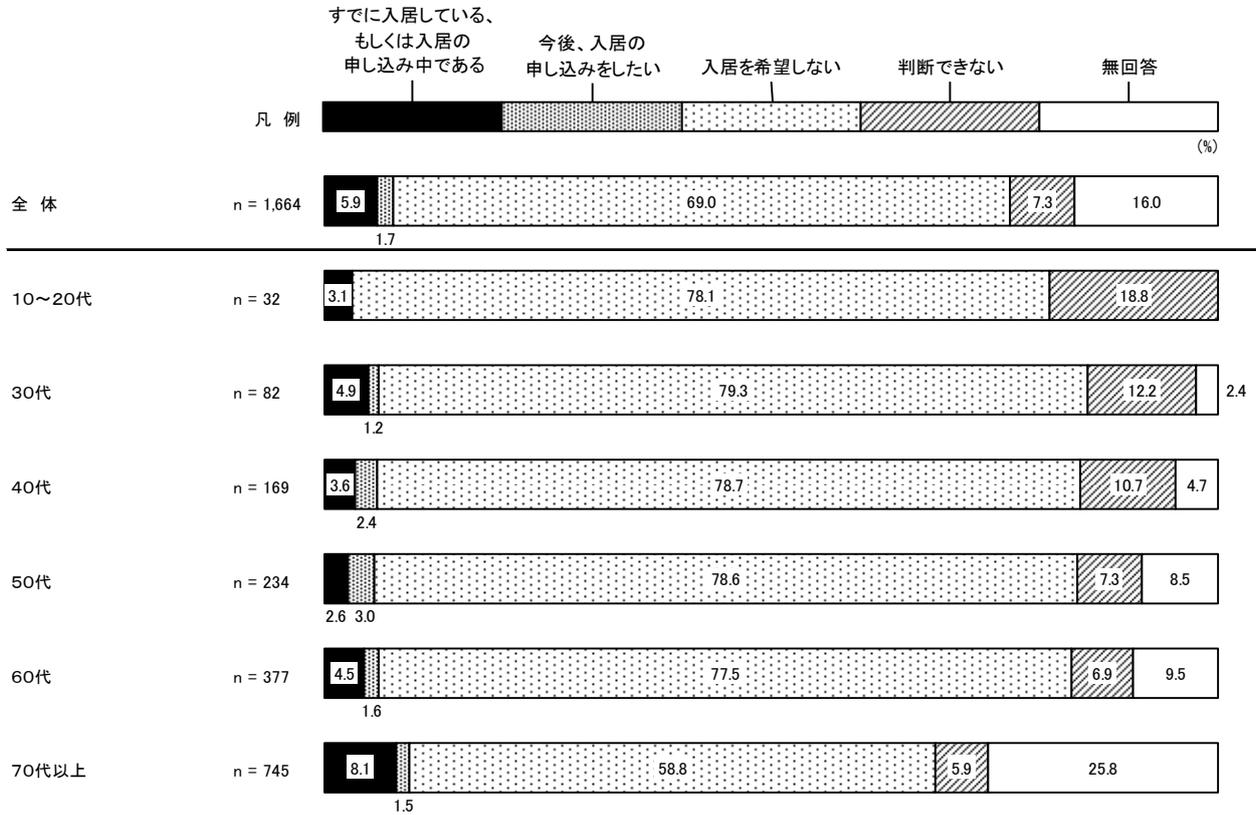


3-8 復興公営住宅

3-8-1 福島県営の復興公営住宅への入居意向

問22-1 福島県営の復興公営住宅（大熊町外）への入居意向について教えてください。（〇は1つ）

<図表3-8-1-1 福島県営の復興公営住宅への入居意向（年齢別）>



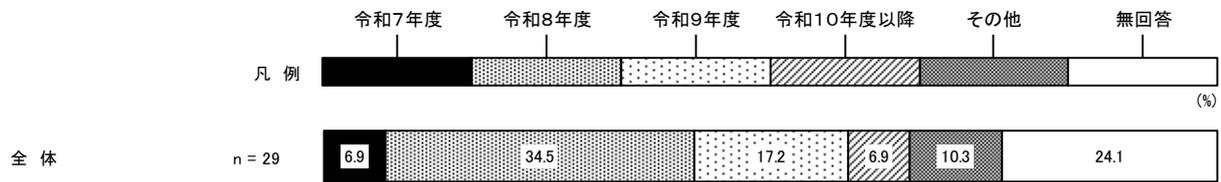
<図表3-8-1-2 福島県営の復興公営住宅への入居意向（現在の世帯構成別）>

	調査数	すでに入居の申し込み中である、もしくは	今後、入居の申し込みをしたい	入居を希望しない	判断できない	無回答
全体	1664 100.0	99 5.9	29 1.7	1148 69.0	122 7.3	266 16.0
単身世帯：計	390 100.0	50 12.8	9 2.3	231 59.2	32 8.2	68 17.4
15歳以上65歳未満 （中学生を除く）	145 100.0	9 6.2	6 4.1	101 69.7	24 16.6	5 3.4
65歳以上	245 100.0	41 16.7	3 1.2	130 53.1	8 3.3	63 25.7
女性	199 100.0	27 13.6	2 1.0	109 54.8	15 7.5	46 23.1
2人以上の世帯：計	1222 100.0	43 3.5	18 1.5	893 73.1	86 7.0	182 14.9
未就学児（小学校入学前）の いる世帯	77 100.0	2 2.6	1 1.3	62 80.5	7 9.1	5 6.5
小学生のいる世帯	110 100.0	1 0.9	1 0.9	93 84.5	7 6.4	8 7.3
中学生のいる世帯	88 100.0	-	3 3.4	77 87.5	5 5.7	3 3.4
15歳以上18歳未満 （中学生を除く）のいる世帯	87 100.0	2 2.3	1 1.1	68 78.2	8 9.2	8 9.2
18歳以上65歳未満の いる世帯	830 100.0	24 2.9	14 1.7	626 75.4	62 7.5	104 12.5
65歳以上のいる世帯	829 100.0	34 4.1	9 1.1	572 69.0	51 6.2	163 19.7
女性のいる世帯	1185 100.0	39 3.3	16 1.4	872 73.6	84 7.1	174 14.7
65歳以上だけの世帯	382 100.0	17 4.5	4 1.0	260 68.1	24 6.3	77 20.2

3-8-2 福島県営の復興公営住宅への入居を希望する時期

【問22-1で「2. 今後、入居の申し込みをしたい」と回答した方にうかがいます。】
 問22-2 入居を希望する時期について教えてください。（〇は1つ）

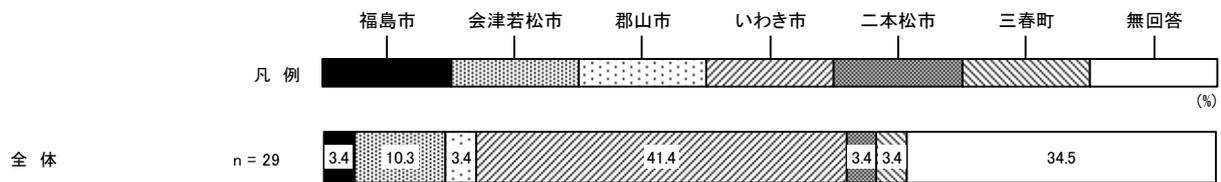
<図表3-8-2 福島県営の復興公営住宅への入居を希望する時期>



3-8-3 福島県営の復興公営住宅への入居を希望する市町村

【問22-1で「2. 今後、入居の申込みをしたい」と回答した方にうかがいます。】
 問22-3 入居を希望する市町村について教えてください。（〇は1つ）

<図表3-8-3 福島県営の復興公営住宅への入居を希望する市町村>



〔内訳〕

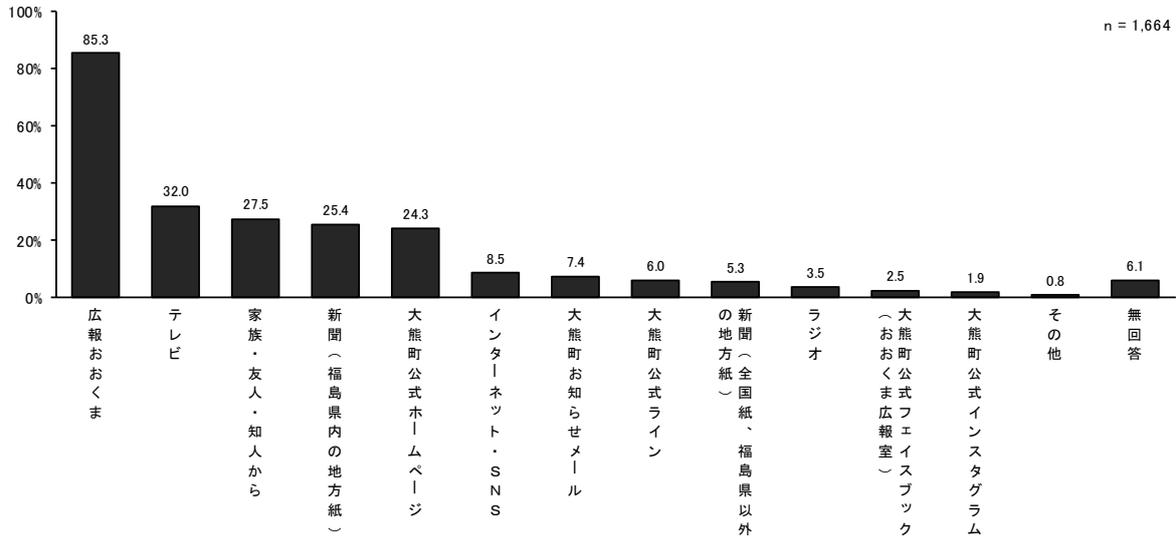
- 白河市 —
- 田村市 —
- 南相馬市 —
- 川俣町 —
- 広野町 —

3-9 情報入手

3-9-1 大熊町に関する情報の入手経路

問23-1 大熊町に関する情報を、どこでお知りになりますか。（〇はいくつでも）

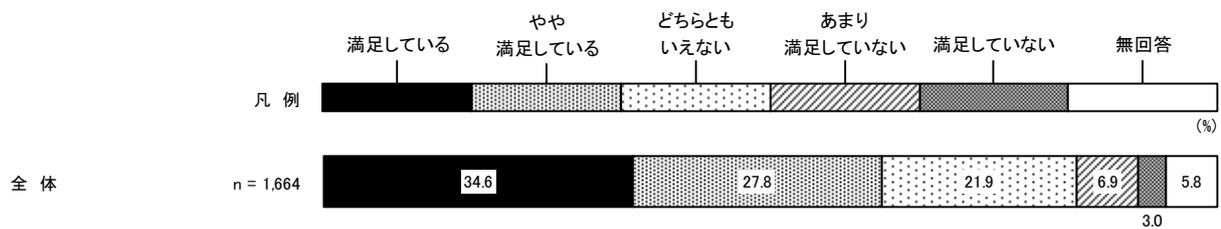
<図表3-9-1 大熊町に関する情報の入手経路>



3-9-2 大熊町役場からの情報提供の満足度

問23-2 大熊町役場からの情報提供にどの程度満足していますか。（〇は1つ）

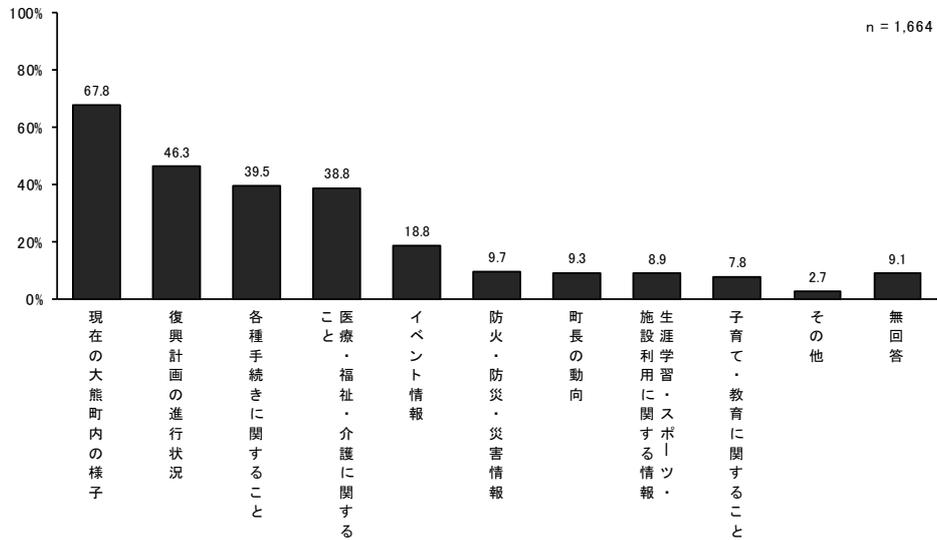
<図表3-9-2 大熊町役場からの情報提供の満足度>



3-9-3 関心のある情報

問23-3 大熊町からの情報で強い関心があるものは何ですか。（〇はいくつでも）

<図表3-9-3 関心のある情報>

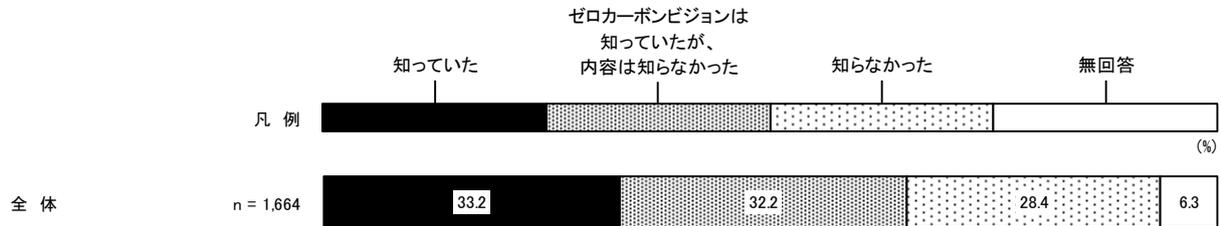


3-10 持続可能なまちづくりへの取り組み

3-10-1 「大熊町ゼロカーボンビジョン」の認知度

問24-1 「大熊町ゼロカーボンビジョン」をご存じでしたか。（〇は1つ）

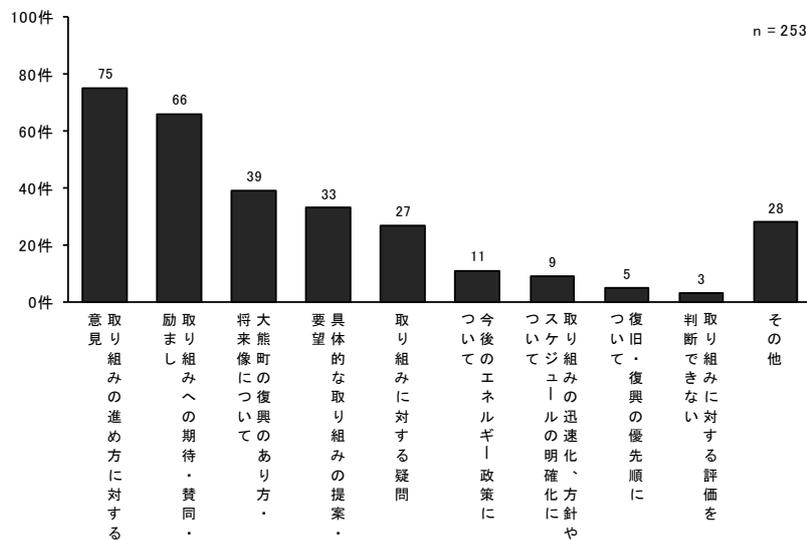
<図表3-10-1 「大熊町ゼロカーボンビジョン」の認知度>



3-10-2 持続可能なまちづくりへの取り組みへの意見

問24-2 大熊町の目指している持続可能なまちづくりへの取り組みについて、ご意見などをご自由にお書きください。

<図表3-10-2 持続可能なまちづくりへの取り組みへの意見>



III 調査結果（全項目）

上位項目についての主な意見は以下のとおり。

[取り組みの進め方に対する意見]

- 持続可能なまちづくりへの取り組みを産業に昇華させてほしい。浜通りのチャレンジングなソリューションを積極採用し、大熊町でしかできない取り組みにしてほしい。他の市町村のロールモデルとなる様な取り組みにしてほしい。町民が参加できるワークショップの場を設けてほしい。一緒に取り組みたい。
（30代・男性）
- 「地域の再生可能エネを活用した持続可能なまちづくりの取り組み」と「私たちの子ども、孫たちが誇りをもって語れる町」がイコールになるのが不思議。その町づくりをすると、「本当はどんないいことがあるのか?」「本当は何を手にしたいのか?」「本当に見たり感じたい世界はどんなもの?」か、よくわからない。だから、ゼロカーボン＝「エコだよ、どうせ原発にエネルギー量は勝てないでしょ?」位にしか思えない。もっと「本質」を出してくれないと!!（40代・女性）
- 高い意識の目標ですばらしいと思いますが、途中で終わらない仕組み作りが重要!失礼ながら町長でも選挙で変わってしまう。中立かつ優秀その上、人間として芯のある人物を任命し、ふさわしい報酬も用意すべき。
（50代・男性）
- 太陽光発電が持続可能かどうかは、改めて廃棄まで考慮した上で検討してほしい。さもないと、原発と同様ごみ処理問題が発生するものと思います。（60代・男性）
- 現在CO2の削減がどのくらいできているのか分からない。省エネのために具体的に何をしているのか。効果はあるのか。再エネにより環境破壊にならないように考えてほしい。（70代以上・女性）

[取り組みへの期待・賛同・励まし]

- 大熊町の目指す持続可能なまちづくりの取り組みは、一人一人の行動や意識することによって、さらによりよいものになっていくと思いき、私もいずれ引越すかもしれないから、できることから始めて大熊町をより、よりよいものにしていくべきだと思いました。（10～20代・女性）
- 少しずつ少しずつ人が暮らしていく為に住みやすくなっていくところを実感できこれから楽しみです。
（40代・女性）
- 良い取り組みだと思う。町民の意識付けも併せて行くと良いと思う（小さな事から）。（50代・男性）
- 二酸化炭素の削減、再生エネルギー事業の活用等について積極的に取り組まれており、今後も更に水素エネルギー等の活用も進めて頂きたい。（60代・男性）
- 素晴らしい意義のある取り組みであると思います。これからの世代により良い環境を残してゆくことが我々先人の役割だと思います。自分達に出来ることを一つでも協力したいです。（70代以上・女性）

[大熊町の復興のあり方・将来像について]

- エネルギー面での取り組みも大切だが、将来を見すえて町の歳入面でも原発に頼らない町づくりを目指していくべき。（10～20代・男性）
- 若者が戻ってくる町作りをお願いします。（40代・男性）
- 仕事場が増え、子供達も増えるとよい。（50代・女性）
- 目指す人口に見合う施設等の整備（将来維持管理費が負担とならないよう計画）。（60代・男性）
- 新しい大熊町と旧大熊町の調和。古きを知り新しきを知る。故きを温めて新しきを知る。
（70代以上・女性）

3-11 意見・要望

問25 国や福島県、大熊町への要望、復興に対するあなたの展望やお気持ちなどをご自由にお書きください。

国や自治体への要望、復興に対する展望やお気持ちなどについて、396世帯から回答があった。ここでは、記入された回答を下記項目に分類し、代表的なものを抜粋して掲載する。

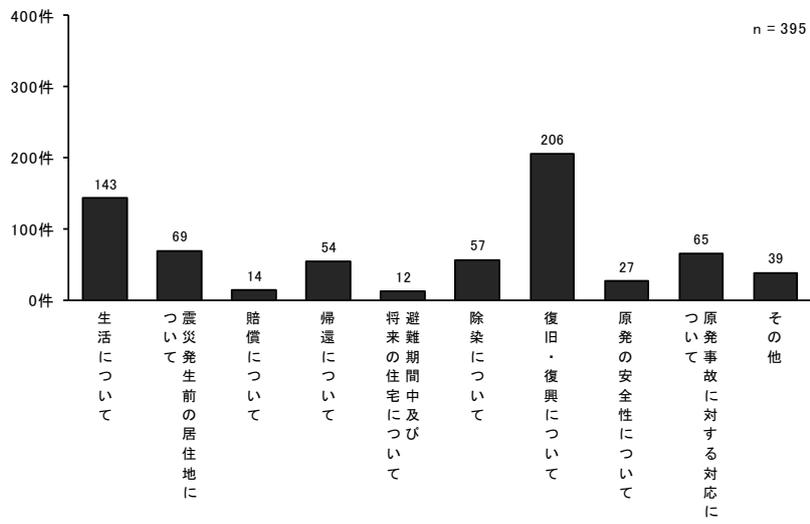
<p>●生活について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難生活の長期化への不安 ・元の生活が取り戻せるかどうかの不安 ・元の生活に戻ることについてのあきらめ ・元の生活、安定した生活の回復 ・現在の生活について ・現在の生活の人間関係・コミュニティについて ・現在の生活の経済的な不安について ・現在の生活の健康に関する不安について ・現在の生活の仕事・学業に関する不安について ・現在の生活全般の不安について ・将来の生活に関する考えについて ・将来の生活の経済的な不安について ・将来の生活の健康に関する不安について ・将来の生活全般の不安について ・生活（再建）支援について ・その他 	<p>●除染について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・除染作業の実施箇所等について ・除染作業の早期・迅速・的確な実施について ・除染作業スケジュールの明確化について ・除染産廃物の処理について ・その他
<p>●震災発生前の居住地について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・帰還困難区域への立入りについて ・帰還困難区域等の設定について ・所有する住まい・土地の買取りについて ・自宅の現状（被害状況）について ・自宅の再建・改築・解体について ・元の住居や土地等の管理・処分について ・元の住居や土地に対する税について ・所有する墓地の維持・管理・移転について ・その他 	<p>●復旧・復興について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・復旧・復興の遅れ、長期化について ・復旧・復興のスケジュールについて ・復旧・復興の進め方（地域の開発、再編、その他）について ・町村合併について ・ライフライン・インフラの整備について ・社会福祉施設の整備について ・医療施設の復興・充実について ・学校の復興・充実について ・商業の復興・充実について ・住民の参加・自助努力について ・早期の原状回復・復興実現について ・その他
<p>●賠償について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・賠償内容・方法について ・賠償の取り組みの迅速化、方針やスケジュールの明確化について ・所有する住まい・土地に対する賠償全般について ・その他 	<p>●原発の安全性について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・廃炉作業の迅速な実施について ・廃炉作業全般について ・その他
<p>●帰還について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・帰還への不安 ・帰還可能時期の明確化について ・帰還したい ・帰還しない ・現時点では帰還の判断ができない ・帰還に関する施策について ・帰還を望まない人への対応について ・その他 	<p>●原発事故に対する対応について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行政や東電の対応について ・対応の長期化、遅れについて ・情報の開示・発信について ・中長期的スケジュールについて ・その他
<p>●避難期間中及び将来の住宅について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・復興公営住宅への入居について ・復興公営住宅に係る経済的な負担について ・復興公営住宅の早期・迅速な建設について ・居住場所の確保について ・借り上げ住宅について ・その他 	<p>●その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後のエネルギー政策について ・行政に対する謝意、励まし ・その他

※掲載する文章は原文を基本とするが、固有名詞が含まれている場合や長文の場合などは、一部省略している。

※一世帯の回答の内容が、複数のテーマにわたる場合は、それぞれの項目へ分類している。

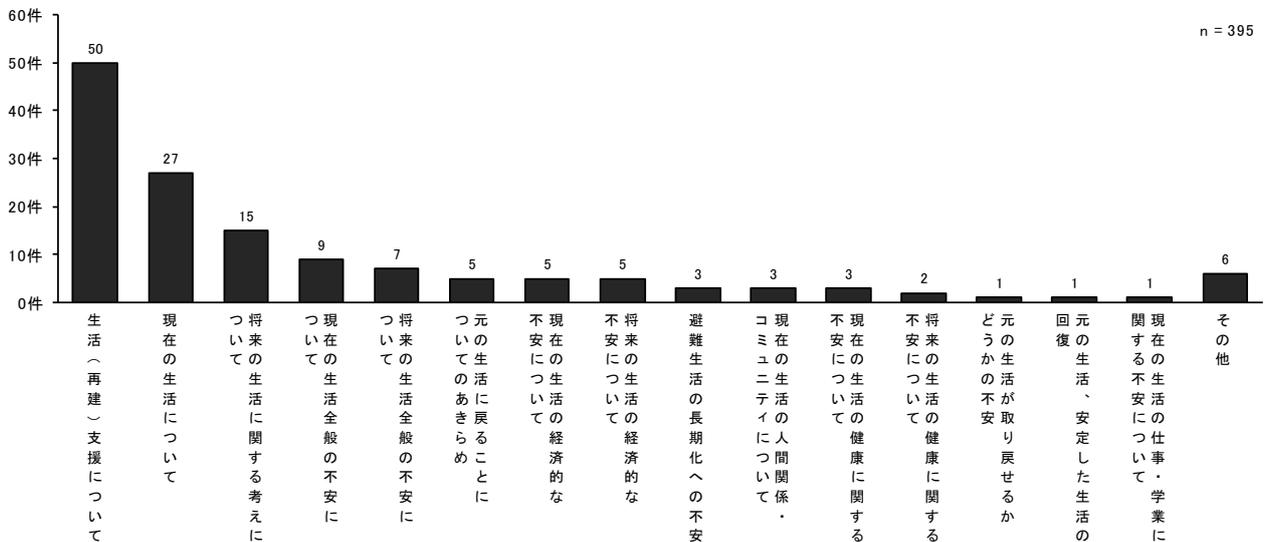
3-11-1 意見に係る記入内容の分類結果

＜図表3-11-1 意見に係る記入内容の分類結果＞



3-11-2 生活について

＜図表3-11-2 生活についての意見＞



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

【生活（再建）支援について】

- もう少し1人1人に対して支援してほしいです。家の家長の方には支援金などが入るみたいですが、家族が多くみんなで分けるとほんの少力で、1人か2人家族の人とくらべると不公平だと思います。（30代・女性）
- 町に戻った人には居住を含め、支援が手厚い。県外に居住することになったのは、いたしかたなかった。復興に時間が必要で、子供の学校、生活自立のため、自助努力を自ら成し遂げている。そういう人への支援は目に見えず、情報も全く入らず、一体どうなっているのでしょうか。町へ税金を納めているのに、無意味な感じがします。（50代・女性）
- ふるさと帰還通行カードの継続運用と国民健康保険一部負担金等免除の継続を要望します。（60代・男性）

【現在の生活について】

- 帰還可能な区域になるまで時間がかかったため、別の場所で生活の基盤ができています。町を子供たちにも見せたくて大熊町に行っていたが、行っても子どもが楽しめる場所がないため、行く機会が減っています。また行きたくなる町になってほしいです。（30代・女性）
- どんどん変化する町の様子。人も入れ替わり、知っている人がいないかと思って健康診断に行き、一緒に同世代をきて来たなつかしい人に出会うと、なんだかほっと安堵するが、高齢になっていく自分が取り残される不安と寂しい気持ちにもなっていく。我が家の跡地の前に立っても、そこだけが何も変わらず時間が止まってしまっていて、悲しく思う。（60代・女性）
- 時々大熊町に行きます。駅前周辺商業施設で食事をとる時もあります。ホっとする場所ができて良かったです。家は帰還困難区域で、動物も怖くてなかなか立ち入る勇気がありません。そのあたりの対策もよろしくをお願いします。（60代・女性）

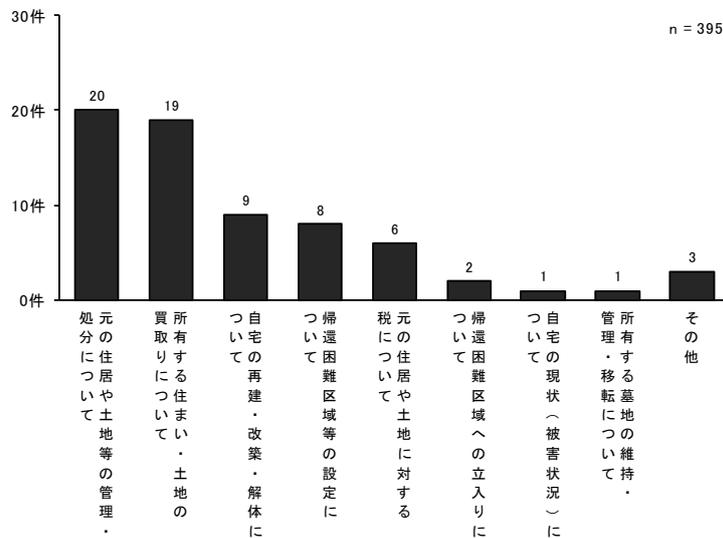
Ⅲ 調査結果（全項目）

【将来の生活に関する考えについて】

- 私は、大熊町で産まれて、大熊町への思いがやはり強く、自分自身の準備、そして、町の状態がこれからどうなっていくのか、一人で帰ることも考えているし、パートナーを連れて、一緒に帰って、私の産まれた場所を知ってほしいと思います。力になれることは少ないかもしれないけど、私は大熊町が大好きなので、これからの復興に期待して、応援しています。（10～20代・女性）
- 家も人も通った学校も生まれ育った約40数年を失った気持ちは誰にも理解されないが、福島や故郷への愛着は強く、老後は福島の山や海を眺めながら暮らしたいと思っている。安心して過ごせる美しい場所を創ってほしい。（50代・女性）
- 事故から14年が経過し、家族5人のうち4人が高齢となり、うち3人が施設に入所している状態で、身動きはとれない。大熊町の役に立ちたい思いがないわけではないが、現実的ではない。かと言って住民票をうつすにはすべての書類などを書き直す必要があり、なかなか決断ができない。引き続き、社会福祉などの分野で役場にお世話になるしかないかな、と思っている。（70代以上・男性）

3-11-3 震災発生前の居住地について

<図表3-11-3 震災発生前の居住地についての意見>



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

【元の住居や土地等の管理・処分について】

- ・家は、解体していただくとして、土地の処分をどう進めるかは、先が見えない。管理もむずかしくなっていくでしょうし、これが復興のじゃまになってくるのが心配。（60代・男性）
- ・宅地等の草刈り、庭木の枝払いをした処分について、町内に住んでいないため対応できない。年1回でもよいので処分の支援をしてほしい。（70代以上・男性）
- ・現地に居住していないと農地の管理は出来ないの、町で考えてほしいと思います。（70代以上・女性）

【所有する住まい・土地の買取りについて】

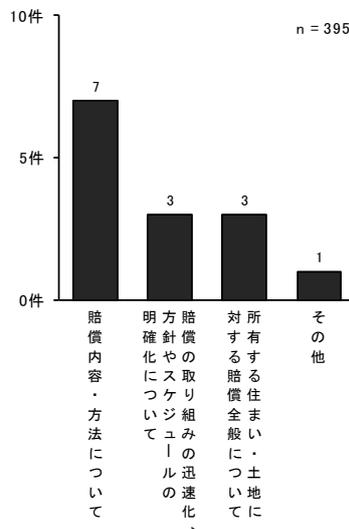
- ・現在所有の土地や建物の売却に対して、何ら情報がない。とても買い手があるとも思えないし、価値もない。このまま、土地を保有するつもりもない。調査がある度に同じことを記載しているし、町の説明会などでも要望しているにも関わらず、全く、なんの進展も検討もなされていないように感じる。大熊まちづくり公社っていったい何をやっているのか全く不明。ただ登録しているだけ。町、県、国どこでもいいから買い取ってほしい。仮に固定資産税が発生しても到底払う気などなれない。正直、14年間放置されている問題。（50代・男性）
- ・大熊町に戻ることはないの、所有している土地を町や国などで買い上げてもらい、有効利用してもらえれば良いと考えています。（60代・男性）
- ・ふるさとを離れて15年近くになるので、大熊町に戻っても気力も体力も無くなっていると思います。今後農地や山林の管理に困るので県や町で買い取ってくれるなり、または維持管理してもらいたいです。（70代以上・男性）

【自宅の再建・改築・解体について】

- ・早く帰りたいです。避難指示を解除してほしい。自宅を早く解体したい。（40代・女性）
- ・自宅の解体が、申請から3年経過しているのにまだ実施されていません。早く解体してください。（50代・男性）
- ・町内の家は半壊状態。除染済のため公費解体はできないとのこと。解体費用を融資してほしい。（60代・男性）

3-11-4 賠償について

＜図表3-11-4 賠償についての意見＞



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

【賠償内容・方法について】

- ・私は、一番被害のあった所に住んでいました。当時生きていられたのは、本当に運が良かったと思っています。国は私みたいな人生狂わされた人に対して、最後まで賠償や生活の面倒をしっかりとみてほしいです！（40代・男性）
- ・東京電力さんも大変だと思いますが、原発事故にあったすべての人は、県内、県外での生活で、いまでも大変な日々を送っていると思います。これからも、精神面等の賠償などの補償をしてもらいたい。（50代・男性）
- ・賠償に問題があり、県と町には目を光らせてほしい。真摯に対応するとか、被災者に寄り添いとか色々言ってますけど、現在の賠償自体、経年劣化がひどい。（70代以上・男性）

【賠償の取り組みの迅速化、方針やスケジュールの明確化について】

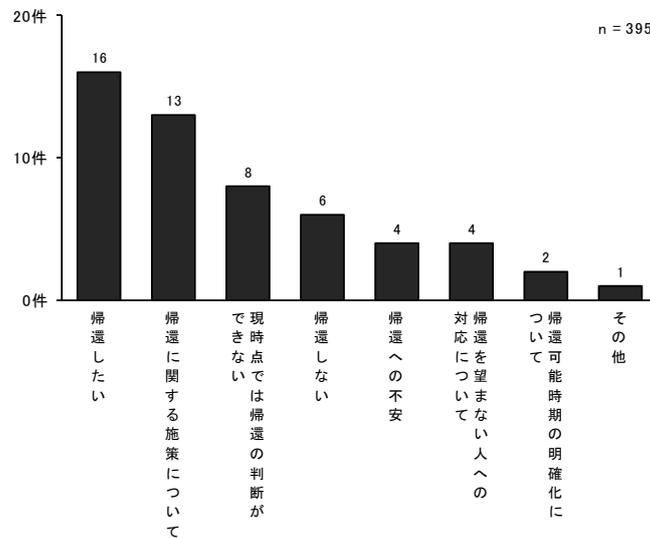
- ・東電から賠償金が入らず生活に困る。（40代・女性）
- ・中間貯蔵施設による帰還困難区域の住人に対して、今後どの様に対応していくのか。支援継続を続けて頂きたいと思います。（50代・女性）
- ・現在自宅のある場所は特定復興再生拠点区域になっているが、戻るには、資金等いろいろと必要なので、補助金など、早く決定してもらいたい。（60代・男性）

【所有する住まい・土地に対する賠償全般について】

- ・元の家にもどりたいけどリフォームする予算が無いので補助金を交付してほしい。すべて東電のおかげで生活が変わってしまった。
- ・大熊町で最後まで取り残された地区への補償。大川原地区は最初に同一補償を町で実施したので、今度は大熊町で最後まで取り残された地区に補償してもらいたい。10年以上遅れていて何も出来ない。大川原地区と同様のタイミングであればこれほど家のいたみ、いたずらによる被害はなかった。（60代・男性）
- ・東電の賠償金の査定金額に納得してない。（70代以上・男性）

3-11-5 帰還について

＜図表3-11-5 帰還についての意見＞



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

【帰還したい】

- 早く帰りたい。年をとって働けなくなってしまう。家を直して住みたいのに帰れないから直すことも片付けることもできない。早く帰りたい。早くしないと死んでしまう。ただ穏やかに暮らしていきたいだけ。（50代・男性）
- 帰るか帰れないか、今はわからないが、帰りたいという思いが、支えになっていると感じる。（60代・女性）
- 大熊町から避難して約15年になり、帰りたい気持ちはつのが、年齢を考えるとむずかしい所もある。近所に帰っている人もいたので、戻る事も考えている。ただし、年金生活ではこれから家を建てるのは無理かと思っている。（70代以上・男性）

【帰還に関する施策について】

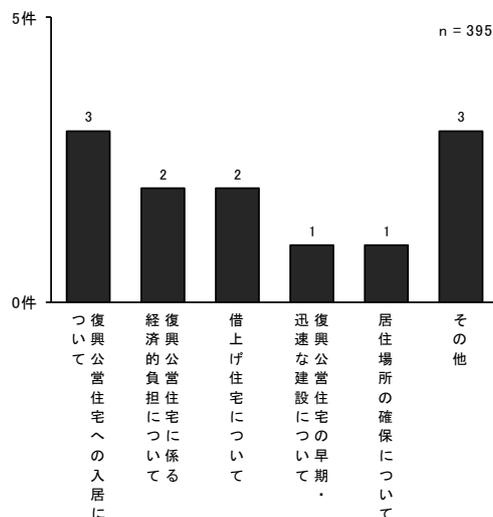
- 町造りに力が入っている現在だが、避難している人々の希望や将来を見据えた人の復興像に対して力不足と思われる。帰還ありきの政策が避難者を取り残している事に早く気づくべき。（50代・男性）
- まだまだ年寄りには不便な地域であり、交通、医療、防犯上で不安が多い。その対策が優先で、その先に帰還検討があると思うが。あと、移住者には不安が見えていない様に感じる。被災の経験がないからなのか。移住メリットだけでなく、デメリットも伝えているのか？（60代・男性）
- なぜ帰還が進まないか、国、県、町は総括していない。各避難先で生活基準の質を下げないために住宅を求め生活しているだけ…。不必要な箱物を造り復興がアピールされ、帰還者は普通の生活を望んでいるのに願いは叶わず。帰還者が必要な商業（スーパーマーケット）、医療施設が一番遅い。（70代以上・男性）

【現時点では帰還の判断ができない】

- 自宅の場所は線量が高いため解除となる見通しが立っていない。町内でもかなり格差があり複雑な気持ちだ。帰りたいとは思っているがいつまで待てばいいのか。（50代・男性）
- 避難先で10年以上生活しているので、自分の土地もなくなった大熊町に戻るかどうかの判断はできない。（60代・男性）
- 帰りたい思いはあっても、高齢となると決断できない。持ち家を持つ前だったらと思う。（70代以上・女性）

3-11-6 避難期間中及び将来の住宅について

<図表3-11-6 避難期間中及び将来の住宅についての意見>



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

【復興公営住宅への入居について】

- 復興住宅の空きが多くなっているため、地域住民への開放も検討してほしい（空家宅はもったいないし、収入が減る）。（60代・男性）
- 近所の復興住宅で空室が目立っています。避難住民ばかりでなく、復興住宅の所在する市町村の困っている住民なども利用できるよう、柔軟な運用を望みます（避難先の方々には大変お世話になっているから）。（60代・男性）

【復興公営住宅に係る経済的負担について】

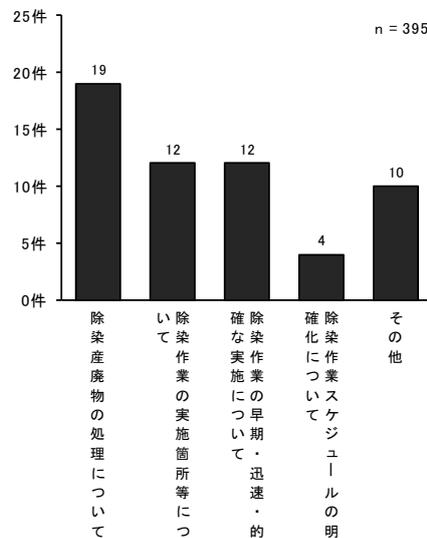
- 以前、復興住宅に入居していましたが、民間の住宅の方がかなり安いのはなぜ？（50代・男性）
- 災害復興住宅が少なく、抽選に当たらない。申し込み費用ばかりかかる。少額小為替を使用する意味がわからない。手数料が高すぎる。（60代・男性）

【借上げ住宅について】

- 借上住宅の期間を延長すべきでは！（50代・男性）
- 借上住宅の無償提供をすべきと考えます。（60代・男性）

3-11-7 除染について

＜図表3-11-7 除染についての意見＞



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

【除染産廃物の処理について】

- 中間貯蔵にある復興再生土を早く県外に移動させて、町保管量を減少させてほしい。1Fと中間貯蔵があるだけで、町に暗いイメージ、悪影響、住みづらい感じをあたえてしまう。（50代・男性）
- 今年8月、国は、中間貯蔵施設の最終処分に向けたロードマップを策定した。土壌の再利用等を進めつつ、2035年を目途に最終処分場の仕様を固め、候補地を選定するとしている。町民として地権者として、しっかり注視していきたい。（50代・男性）
- 汚染土は、動かさない方がいいのでは。お金もかかるし、他県まで汚すのは良くない。（70代以上・女性）

【除染作業の早期・迅速・的確な実施について】

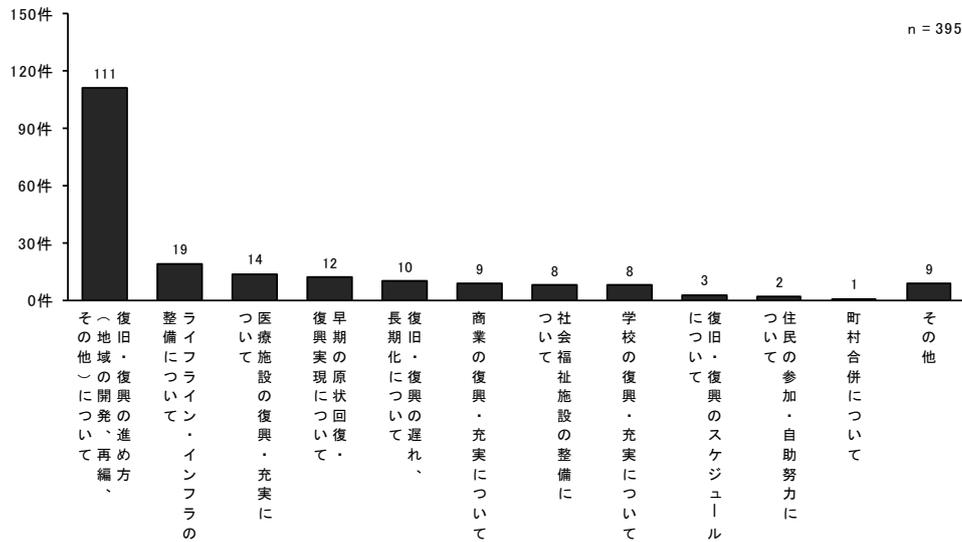
- 除染が遅すぎる。私の宅地は帰還困難区域で、再生復興拠点に影響があるということで除染したが、すぐ隣の土地（復興拠点到隣接する土地）は未だに除染されていない。（60代・男性）
- 全てにおいての早急の除染（山林含む）。（70代以上・男性）

【除染産廃物の処理について】

- 戻ることを希望している方の住宅周辺の除染だけではなく、全域を除染すべきだと考える。（50代・男性）
- 放射能の線量が高いから木を伐採してほしい。田、畑、草、除染してほしい。放射能の線量が高いので続けてください。（70代以上・男性）
- 山林の除染。国道6号以東海岸までの区域はどうなるのか？（70代以上・男性）

3-11-8 復旧・復興について

<図表3-11-8 復旧・復興についての意見>



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

【復旧・復興の進め方（地域の開発、再編、その他）について】

- 町の中心を駅前にするのか？大川原にするのか？一本化することでコンパクトシティを目指し、より一層の効率化を実現すべき。（10～20代・男性）
- 廃炉の問題はあるが、生活するための健康上の問題は低いと考える。もともと豊かな自然と教育に力を入れていて子育て環境が良いところが魅力的な街だったので、生活、教育、福祉の環境整備を進めて行けば、以前の街以上の発展を見込めると考えます。（40代・男性）
- 震災から14年半以上の経過にて、加齢による心身面の不安・体力の減退、メンタル的なストレス・意欲の低下によりマイナス（ネガティブ思考）に捉えがちであり、「成るようにしか成らない」復興進捗の現実を受け入れてます。震災後のまま放置された家屋田畑の風景と対象的な、復興途上の物理的には社会生活インフラ基盤整備された町土の変容と復興を受入れつつも、どこか心から満たれる町土の復興へ前進されることに期待します。（60代・男性）

【ライフライン・インフラの整備について】

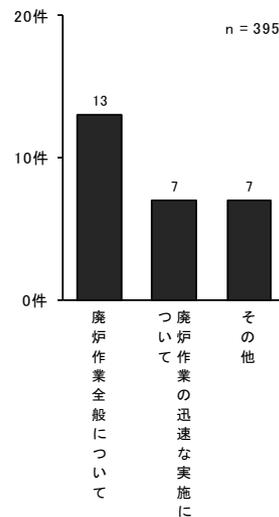
- 久しぶりに大熊町に行ったのだが、復興拠点外の道路の雑草が目について残念だと思った。除染などの問題があると思うが、綺麗なまちであってほしいと感じた。（10～20代・女性）
- 元の町に戻るのが復興じゃないんでしょうか？ラウンドアバウト？都会じゃないんだからやる必要ありますか？ムダ使いです。外灯を増して、町を明るくしないんですか？復興って、何でも新しい物を取り入れるじゃないと思います。（40代・無回答）
- 商業施設、医療施設の充実。大野駅の利便性の向上。大野駅の列車本数ですが、昼の時間帯は最大で2時間～3時間ほど空白の時間帯があります。列車を利用したいと思っても、利用するのが難しい状況です。「いわき～広野」の折り返しの列車が数本あり、このうちのいくつかを、原ノ町駅まで延長運転してもらえると利便性が向上します。（60代・男性）

【医療施設の復興・充実にについて】

- 福島県様へ。帰還人口の状況、医師やスタッフの確保など、課題は多いこと理解いたします。しかしながら、県立病院の再開は当地域の復興のカギです。今後の復興はスピードが重要と考えます。どうか積極的なご対応をお願い申し上げます。（40代・男性）
- 病院の早期復旧を行なってほしい。（60代・男性）
- 総合病院・介護サービス・福祉施設を要望します。（70代以上・男性）

3-11-9 原発の安全性について

＜図表3-11-9 原発の安全性についての意見＞



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

【廃炉作業全般について】

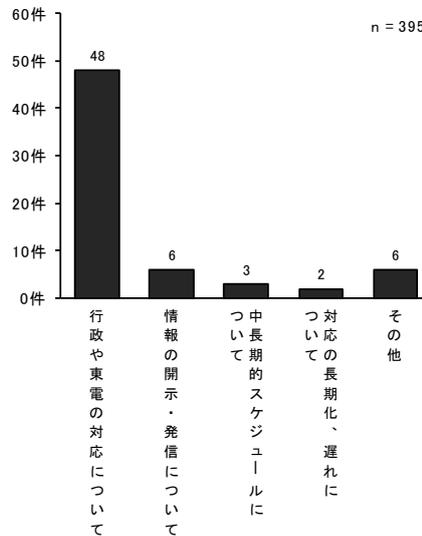
- 廃炉が進展していった先に、いつの日か大熊町の復活もあるかと思えます。（50代・男性）
- 福島第一原発の燃料デブリ取り出しが上手くできるか不安である。放射性物質の拡散や一般区域の汚染拡大が心配である。（60代・男性）
- 廃炉問題や除染土の処理については、法律を順守し、決定通り実施してほしい。（70代以上・男性）

【廃炉作業の迅速な実施について】

- 現在、富岡町で住んでるが、2Fも廃炉決定しているのだから、即工程表を出して取り組んでほしい。（50代・男性）
- 現在置かれている廃炉事業を早期に終了させて頂きたい。子供達が将来夢と希望が持てるような社会の構築を国、県、町等に祈願致します。（60代・男性）
- 大熊町全体の除染。山林から海岸、河川、ため池除染、中間貯蔵施設、原子炉の撤去のスピード化をお願いしたい。（70代以上・男性）

3-11-10 原発事故に対する対応について

<図表3-11-10 原発事故に対する対応についての意見>



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

【行政や東電の対応について】

- 人が戻ることを前提に乱開発＝税の無駄使いはやめるべき。自然とゼロカーボンを両立するような美しい福島を目指すべき。東電の廃炉が進むように県・町として後押しすべき。（40代・男性）
- 国は東電を厳しく指導し廃炉事業を遂行して頂きたい。工程表は絵描いた餅ではない。（60代・男性）
- 中間貯蔵施設の汚染土壌、その他諸々、国が責任もって処理すべきである。（70代以上・女性）

【情報の開示・発信について】

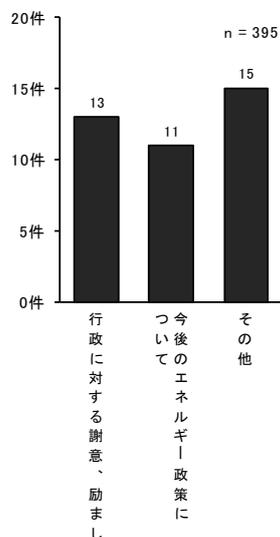
- 放射線の測定記録は、最も低い数値を掲載しているのではないかと不信感があります。また、文字盤が後ろを向いている測定器を見ると、線量が高すぎて見せられないのか？と疑ってしまいます。そもそも事故が起きてから設置するのは間違っていると思います。原発を建設した直後に、設置するべきだと思います。書物や学者から「大丈夫」と話があっても、専門用語で説明されて全く理解できず、安心感もありません。事故以前からの測定記録さえあれば、それだけで「事故前が〇〇〇だったから大丈夫だ」と安心できるし、理解できます。他県にある原発周辺には、今からでも測定器の設置を検討してほしいです。（40代・女性）
- 復興に対する明確なロードマップのアナウンス、特に中間貯蔵施設、発電所の廃炉、汚染エリアの除染（解除）等についての情報発信が少ない為、町への愛着が薄れて来ている。更に年齢的にも高くなって来ていることから、スピード感を上げてほしい。（60代・男性）
- 復興に対する取り組みは十分に伝わるが、原子力災害を受けるとかくも長い年月、影響が続くことの情報発信も重要なことと考える。（70代以上・男性）

〔中長期的スケジュールについて〕

- 廃炉は40年では終わらないことは明白です。もっと長期的な観点からの復興が必要ではないでしょうか。復興のための費用・経費も、もう少し削減しないと子どもたちの将来的な負担も大きくなります。もう少し、自然な復興を望みます。（60代・男性）
- 大熊町の復興計画は、デブリ取り出しを完了し、その後の廃炉作業が完遂することを前提に計画されていると考える。しかし、デブリ取り出し、廃炉が技術的に不可能または多大な時間や経費が発生し、事実上困難と考えられる場合には、計画の根本前提がくずれると思うので、復興計画を見直す必要がある。（70代以上・男性）
- 今後の廃炉計画が頓挫する事無く、ゆっくりでも確実に進む様監視する事。除染土の広域利用が国民に理解されるのか？国の動きも悪い気がする。電力供給量に応じて配分する位の荒療治も現政権で打ち出しても良いと思う。国民の理解を求める等キレイな話ではない。（70代以上・男性）

3-11-11 その他

＜図表3-11-11 その他についての意見＞



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

【行政に対する謝意、励まし】

- 15年間お疲れ様です。ずっと戻っていませんが、私の故郷なのでどんな形でもずっと大熊町があり続けてくれたら嬉しいです。（10～20代・女性）
- いつか生まれ育った大熊町に安心して戻って、元の生活に戻れるまで、出来る限り待ちたい。もしかしたら私はその頃には、親も居なくなっているかもしれないし、子供も大人になって一緒に帰れないかもしれない。最近はその事を考えるようになった。きっと震災後、ご老人はこんな事ばかり考えていたんだと思うとすごく悲しく思う事が増えました。すごく大変で時間のかかる問題ですが、元の大熊町になるまで、国、福島県、大熊町には頑張ってもらいたいです。住民票も移さず、ずっと待っています。どうか復興完了まで寄り添っていただけますよう今後もよろしくお願い致します。（40代・女性）
- 種々の生活支援、減免制度には、感謝しています。（70代以上・男性）

【今後のエネルギー政策について】

- メガソーラ依存にはならないでほしい。将来の災害、トラブルにつながる気がする。（60代・男性）
- 大熊町には新しい取り組みをしていただきたい。最先端教育、最先端医療、最先端エネルギー開発など…（70代以上・男性）
- 大きな事故とその後の復興過程を経験した福島県や大熊町だからこそ原子力エネルギーの利用、廃炉、高レベル廃棄物処理等の研究開発拠点として発展してほしい。（70代以上・男性）

IV 參考資料

4-1 使用調査票 令和7年度 大熊町住民意向調査

記入上の注意

● 調査をお願いする方

震災発生時、大熊町に住民登録されていた世帯（避難後の転出者を含む）が対象です。世帯内でお話合いの上、ご回答は、**世帯の代表者の方**をお願いいたします。
現在、世帯が何か所かに分かれて避難されている場合には、**それぞれの場所に調査票を送付しておりますので、本調査票が送付されたお住まいの代表者の方**に、ご回答をお願いいたします。

● ご回答方法

- ・ご回答は、あてはまる番号を選び、その番号に○をつけてください。
- ・「その他」に○をされた場合は、() 内に具体的な内容もご記入ください。
□の中に具体的な内容の記入をお願いしている間には、具体的な内容（地名、数など）をご記入ください。

● WEBでのご回答

- ・以下に記載のURL又はQRコードにパソコン、スマートフォン等でアクセスいただくことにより、オンラインで回答いただくことができます。

URL : https://src3.webcas.net/form/pub/src5/r7_ikou_tyousa_04

- ・ご回答の際は、下記調査IDでログインしてください。

調査ID :



● 個人情報について

- ・回答はすべて統計的な処理を行い、個人の特定につながるような内容が公表されることはありません。

● ご提出方法

- ・ご記入済みの調査票は、**11月18日（火）まで**に、同封の返信用封筒に入れ、郵便ポストにご投函ください（切手は不要です）。

【お問い合わせ先】

復興庁
「住民意向調査」
問い合わせセンター

調査の趣旨、記入方法について

フリーダイヤル 0120-990-917

[設置期間：11月5日（水）～11月18日（火） 平日10時～17時]

土・日・祝を除く

福島県

〒960-8670 福島県福島市杉妻町2番16号
避難地域復興局 避難地域復興課
電話 024-521-8436

大熊町

〒979-1306 福島県双葉郡大熊町大字大川原字南平1717番
大熊町役場 企画調整課
電話 0240-23-7584

【すべての方にかがいます。】

問 4-1 震災発生当時のお住まいが、現在以下の各区域のどこに該当するかを教えてください。(○は1つ)

1. 中屋敷・大川原地区(平成31年4月10日避難指示解除)
2. 特定復興再生拠点区域(令和4年6月30日避難指示解除)
3. 特定帰還居住区域(令和5年9月29日認定、令和6年2月2日区域追加)
4. 中間貯蔵施設区域
5. 「1」「2」「3」「4」以外の区域
6. わからない

【すべての方にかがいます。】

問 4-2 震災発生当時にお住まいだった行政区を教えてください。(○は1つ)

- | | | | |
|---------|----------|---------|------------------------------|
| 1. 中屋敷 | 7. 大野1 | 13. 熊3 | 19. 夫沢1 |
| 2. 野上1 | 8. 大野2 | 14. 町 | 20. 夫沢2 |
| 3. 野上2 | 9. 大川原1 | 15. 熊川 | 21. 夫沢3 |
| 4. 下野上1 | 10. 大川原2 | 16. 野馬形 | 22. その他(わからない場合は住所を記載してください) |
| 5. 下野上2 | 11. 熊1 | 17. 小入野 | |
| 6. 下野上3 | 12. 熊2 | 18. 大和久 | |

【すべての方にかがいます。】

問 5 震災発生当時にお住まいだった住宅は、どのような住居形態でしたか。(○は1つ)

- | | |
|---------------------|--------------------|
| 1. 持ち家(一戸建) | 7. 家族のどなたかのお住まい・実家 |
| 2. 持ち家(集合住宅) | 8. 親戚・知人宅 |
| 3. 民間賃貸住宅(一戸建) | 9. その他 |
| 4. 民間賃貸住宅(集合住宅) | 具体的に: |
| 5. 公営住宅 | |
| 6. 給与住宅(社宅、公務員宿舎など) | |

【すべての方にかがいます。】

問 6 震災発生当時の世帯構成についてうかがいます。震災発生時に、あなたを含めて一緒に住んでいた方の人数を教えてください。あなた自身を含めて、当時の年齢・学齢にあてはまる人数を、性別ごとにご回答ください。(性別ごとに人数で回答)

ア) 未就学児 (小学校入学前)	男性	人	エ) 15歳以上18歳未満 (中学生を除く)	男性	人
	女性	人		女性	人
	無回答	人		無回答	人
イ) 小学生	男性	人	オ) 18歳以上65歳未満	男性	人
	女性	人		女性	人
	無回答	人		無回答	人
ウ) 中学生	男性	人	カ) 65歳以上の方	男性	人
	女性	人		女性	人
	無回答	人		無回答	人

現在の状況について教えてください。

【すべての方にうかがいます。】

問7 現在住民票をどちらにしているか教えてください。(○は1つ)

1. 大熊町内

2. 大熊町外

【すべての方にうかがいます。】

問8 現在お住まいの自治体を教えてください。(○は1つ)

【浜通り】

1. 大熊町
2. いわき市
3. 相馬市
4. 南相馬市
5. 広野町
6. 檜葉町
7. 富岡町
8. 川内村
9. 浪江町
10. 双葉町
11. 葛尾村
12. 新地町
13. 飯館村

【中通り(県中)】

22. 郡山市
23. 須賀川市
24. 田村市
25. 鏡石町
26. 天栄村
27. 三春町
28. 小野町
29. 石川町
30. 玉川村
31. 平田村
32. 浅川町
33. 古殿町

【会津】

43. 会津若松市
44. 喜多方市
45. 下郷町
46. 檜枝岐村
47. 只見町
48. 南会津町
49. 北塩原村
50. 西会津町
51. 磐梯町
52. 猪苗代町
53. 会津坂下町
54. 湯川村
55. 柳津町
56. 三島町
57. 金山町
58. 昭和村
59. 会津美里町

【中通り(県北)】

14. 福島市
15. 二本松市
16. 伊達市
17. 本宮市
18. 桑折町
19. 国見町
20. 川俣町
21. 大玉村

【中通り(県南)】

34. 白河市
35. 西郷村
36. 泉崎村
37. 中島村
38. 矢吹町
39. 棚倉町
40. 矢祭町
41. 塙町
42. 鮫川村

【福島県外】

60. 福島県外(具体的にご記入ください)

(都・道・府・県)

(市・町・村・区)

【すべての方にうかがいます。】

問 9 現在お住まいになっている住宅は、どのような住居形態ですか。(○は1つ)

1. 借上住宅(民間住宅・公営住宅などの借り上げ型。無償)
2. 大熊町営の災害公営住宅・再生賃貸住宅(大熊町内。有償)
3. 福島県営(本宮市営、桑折町営、大玉村営を含む)の復興公営住宅(大熊町外・有償)
4. その他の公営住宅(「2」と「3」は除く。有償)
5. 民間賃貸住宅(有償)
6. 給与住宅(社宅、公務員宿舎など)
7. 持ち家(ご本人またはご家族所有)
8. 親戚・知人宅
9. その他(具体的に: _____)

【すべての方にうかがいます。】

問 10 現在の世帯構成についてうかがいます。現在、あなたを含めて一緒に住んでいる方の人数を教えてください。あなた自身を含めて、現在の年齢・学齢にあてはまる人数を、性別ごとにご回答ください。(性別ごとに人数で回答)

ア) 未就学児 (小学校入学前)	男性	人	エ) 15歳以上18歳未満 (中学生を除く)	男性	人
	女性	人		女性	人
	無回答	人		無回答	人
イ) 小学生	男性	人	オ) 18歳以上65歳未満	男性	人
	女性	人		女性	人
	無回答	人		無回答	人
ウ) 中学生	男性	人	カ) 65歳以上の方	男性	人
	女性	人		女性	人
	無回答	人		無回答	人

この1年（令和6年10月～令和7年11月）の大熊町内の活動について教えてください。

【すべての方にうかがいます。】

問 11 町内の施設、サービス等で利用したものがあれば教えてください。（○はいくつでも）

【町施設】

1. 大熊町役場 本庁舎
2. 大熊町診療所
3. 住民福祉センター
4. 保健センター
5. 移住定住支援センター
6. 大熊インキュベーションセンター
7. 学び舎 ゆめの森

【交流ゾーン】

8. 商業施設 おおくまーと
9. 交流施設 linkる大熊
10. 宿泊温泉施設 ほっと大熊
11. 大熊郵便局

【大野駅西交流エリア】

12. 産業交流施設 CREVA おおくま
13. 大野駅西商業施設 クマ SUN テラス

【公共交通】

14. JR常磐線 大野駅
15. 生活循環バス
16. 新常磐交通バス(富岡駅～浪江FH2R線)
17. デマンドタクシー

【その他】

18. JA福島さくら 大熊ガソリンスタンド
19. KUMA・PRE(令和6年12月7日閉館)

20. その他（具体的に：

21. 利用したものはない

【すべての方にうかがいます。】

問 12 参加した町内開催のイベントがあれば教えてください。（○はいくつでも）

【令和6年】

1. 11月 2日 ふるさとまつり
2. 11月 7日 町制施行70周年記念式典、記念講演、演劇公演
3. 11月16日 秋の坂下ダムウォーキング
4. 11月30日 Thanks イベント「KUMA・PRE R6→(クマプレアールログ)」
5. 12月15日 おおくま駅伝2024

【令和7年】

6. 1月12日 里がえりもちつき大会2025
7. 1月12日 二十歳の成人式
8. 2月 2日 おおくま球技大会
9. 3月 8日 帰忘郷お披露目会
10. 3月15日 おおくま学園祭2025、ゼロカーボンフェスティバル
11. 4月 5日 春のおおくまちなかウォーキング
12. 5月25日 相馬野馬追凱旋行列
13. 6月 7日 スポーツフェスティバル
14. 8月30日 なつ祭りinおおくま
15. 9月13日 敬老会
16. 11月1日 ふるさとまつり

【上記以外】

17. その他（具体的に：

18. 参加したものはない

将来に関するご意向についてお聞かせください。

大熊町は平成31年4月に大川原・中屋敷地区の避難指示が解除、令和4年6月に特定復興再生拠点の避難指示が解除されました。現在、町の総面積78.73km²のうち38.67km²（総面積の49.1%）の避難指示が解除されています。震災前の人口は11,505人でしたが、令和7年5月31日現在の町内居住者は1,491人（うち帰還者320人）です。昨年5月31日時点より、町内居住者が205人（うち帰還者51人）増えています。

令和5年4月、大川原地区に開校した認定こども園・義務教育学校の「学び舎ゆめの森」には、85人が在籍（令和7年5月1日現在）し、通学しています。

特定復興再生拠点では、大野地区、原地区に再生賃貸住宅が整備され、令和6年4月より入居を開始しています。令和7年3月には大野駅西地区に産業交流施設、商業施設がグランドオープンし、令和9年度には原地区に整備する公設民営の商業施設にスーパーマーケットが開業予定です。休止中の県立大野病院は、現在の場所で後継となる県立医科大学付属病院に建て替え、令和11年度以降に開業する方針が福島県から示されています。

特定復興再生拠点区域外について、国は令和3年8月に「2020年代（令和11年まで）をかけて、帰還意向のある住民が帰還できるよう、避難指示解除の取組を進めて行く」方針を示しました。令和5年9月29日付で、大熊町特定帰還居住区域復興再生計画が認定（令和6年2月2日に区域追加し、変更認定）され、同区域では除染・家屋解体や道路・上下水道等のインフラ復旧等を一体的に進め、避難指示解除に向けた取組を進めています。将来的には、町内全域の避難指示解除を目指しています。

【すべての方にうかがいます。】

問 13 今後、大熊町への帰町について、現時点でどのようにお考えですか。（○は1つ）

- | | |
|--------------------------|---------------------------|
| 1. すでに大熊町で生活している | } ⇒ <u>問 14-1(7 ページ)へ</u> |
| 2. 戻りたいと考えている(将来的な希望も含む) | |
| 3. まだ判断がつかない | ⇒ <u>問 16-1(9 ページ)へ</u> |
| 4. 戻らないと決めている | ⇒ <u>問 18-1(12 ページ)へ</u> |

問 14-1 からは、問 13 で「1. すでに大熊町で生活している」
「2. 戻りたいと考えている（将来的な希望も含む）」と回答した方にうかがいます。

問 14-1 大熊町内に戻ることを考えた理由は、どのようなことですか。（○はいくつでも）

- | | |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> 1. 自宅周辺の除染・避難指示解除が期待できること 2. 放射線量が低減されたこと 3. 水道水等、生活用水の安全性が確認されたこと 4. 商店・飲食店が開業したこと 5. 自宅や公営住宅等が整備されたこと 6. 鉄道・生活循環バスなど公共交通機関が運行していること 7. 役場機能が再開したこと | <ul style="list-style-type: none"> 8. 認定こども園・義務教育学校が開校したこと 9. 診療所が開所したこと 10. 高齢者グループホームが開所したこと 11. 県立大野病院の後継となる病院の再開時期が示されたこと 12. スーパーマーケットの開業時期が示されたこと 13. 働く場・雇用機会があること 14. 気持ちが安らぐこと 15. 家族・友人・知人が町内に居住していること 16. その他 } 具体的に: |
|--|---|

問 14-2 大熊町内での今後の生活において必要だと感じていることについて教えてください。（○はいくつでも）

- | | |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> 1. 継続的な健康管理など、放射線に対する不安解消への取り組み 2. フォローアップ除染(再除染)の実施 3. 商業施設の再開・充実 4. 公営住宅・居住環境の整備 5. 鉄道・バスなどの公共交通機関の充実 6. 見守り活動の継続 7. 防犯体制の強化 8. 有害鳥獣対策の強化 | <ul style="list-style-type: none"> 9. 保育・教育環境の充実 10. 運動施設の整備 11. 医療機関(診療科)の充実 12. 介護・福祉施設の充実 13. 雇用の場の創出 14. 町内コミュニティ活動(行政区などの活動も含む)の機会 15. 生涯学習の環境 16. その他 } 具体的に: |
|--|---|

問 14-3 問 14-2 で選択した「必要だと感じていること」のうち、特に必要と考えることについて、選択肢番号の欄に番号をご記入いただき、具体的なお考えや今後の期待、要望などがあればご自由にお書きください。（最大3つまで）

問 14-2 の 選択肢番号	具体的なお考えや今後の期待、要望

問 14 で「1. すでに大熊町で生活している」と回答した方は、問 20(15 ページ)へ

問 14 で「2. 戻りたいと考えている(将来的な希望も含む)」を選んだ方は、問 15-1(8 ページ)へ

問 15-1 からは、問 13 で
「2. 戻りたいと考えている（将来的な希望も含む）」と回答した方にうかがいます。

問 15-1 今後大熊町へ何年以内に戻りたいと考えていますか。（○は1つ）

- | | |
|----------------------|---------------|
| 1. 1年以内(令和8年・2026年) | 4. しばらく様子をみたい |
| 2. 3年以内(令和10年・2028年) | 5. その他 |
| 3. 5年以内(令和12年・2030年) | （具体的に： |

問 15-2 大熊町へ戻る場合に、家族の全員か一部かについて教えてください。（○は1つ）

- | | |
|-------------------|----------------------------|
| 1. 家族全員での帰町を考えている | } ⇒ <u>問 15-3</u> へ |
| 2. 家族一部での帰町を考えている | |
| 3. 現在検討しているところ | } ⇒ <u>問 16-1(9 ページ)</u> へ |
| 4. まだわからない | |

【問 15-2 で「1. 家族全員での帰町を考えている」「2. 家族一部での帰町を考えている」と回答した方にうかがいます。】

問 15-3 帰町した場合にどのような家族構成になると考えていますか。あなた自身を含めて**現在の年齢・学齢**にあてはまる人数を、性別ごとにご回答ください。（性別ごとに人数で回答）

ア) 未就学児 (小学校入学前)	男性	人	エ) 15歳以上18歳未満 (中学生を除く)	男性	人
	女性	人		女性	人
	無回答	人		無回答	人
イ) 小学生	男性	人	オ) 18歳以上65歳未満	男性	人
	女性	人		女性	人
	無回答	人		無回答	人
ウ) 中学生	男性	人	カ) 65歳以上の方	男性	人
	女性	人		女性	人
	無回答	人		無回答	人

問 16-1 からは、問 13 で「2. 戻りたいと考えている
(将来的な希望も含む)」「3. まだ判断がつかない」と回答した方にうかがいます。

問 16-1 大熊町に戻る場合に、今後の生活において特に必要・充実させるべきと考える施設を教えてください。(〇はいくつでも)

- | | |
|------------|-------------|
| 1. 医療施設 | 5. 商業施設 |
| 2. 介護・福祉施設 | 6. 金融機関・ATM |
| 3. 保育・教育施設 | 7. その他 |
| 4. 運動施設 | 〔具体的に:〕 |

問 16-2 大熊町に戻る場合に、今後の生活において特に必要と考えるサービスを教えてください。(〇はいくつでも)

- | | |
|----------------------|------------------|
| 1. 住宅の修繕・建て替えの相談サービス | 7. 食事宅配サービス |
| 2. 雇用確保・就業支援の相談サービス | 8. 公共交通サービス |
| 3. 安否確認・見守りサービス | 9. 通信環境改善の相談サービス |
| 4. 健康相談・生活相談サービス | 10. 教育環境の充実・サービス |
| 5. 健康増進・介護予防サービス | 11. その他 |
| 6. 移動販売サービス | 〔具体的に:〕 |

問 16-3 大熊町に戻る場合のお住まいは、どのような形態を希望されますか。(〇は1つ)

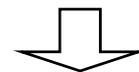
- | | |
|-----------------------------|--------------------|
| 1. 元の持ち家(自宅)(建て替える場合を含む) | 8. 給与住宅(社宅など) |
| 2. 自宅とは別の場所に新たに一戸建の持ち家を建てたい | 9. 家族のどなたかのお住まい・実家 |
| 3. 自宅とは別の場所に分譲集合住宅を購入したい | 10. 親戚・知人宅 |
| 4. 民間賃貸住宅(一戸建) | 11. その他 |
| 5. 民間賃貸住宅(集合住宅) | 〔具体的に:〕 |
| 6. 公営住宅(一戸建) | |
| 7. 公営住宅(集合住宅) | 12. 現時点では判断できない |

問 16-4 大川原地区内の「復興拠点」や、JR大野駅周辺や下野上地区を中心とした「特定復興再生拠点区域」への居住に関する意向について、もっとも近いものはどれですか。(〇は1つ)

1. 大川原地区内の復興拠点に居住したい
2. 特定復興再生拠点区域に居住したい
3. 大川原地区内の復興拠点や特定復興再生拠点区域には居住しない
4. 判断ができない ⇒ 問 16-5(10 ページ)へ



問 16-4 で「1」から「3」のいずれかを選び、
問 13 で「2. 戻りたいと考えている
(将来的な希望も含む)」を選んだ方は
問 20(15 ページ)へ



問 16-4 で「1」から「3」のいずれかを選び、
問 13 で「3. まだ判断がつかない」を選んだ方は
問 17-1(11 ページ)へ

【問 16-4 で「4. 判断ができない」と回答した方にうかがいます。】

問 16-5 大川原地区内の「復興拠点」や、JR大野駅周辺や下野上地区を中心とした「特定復興再生拠点区域」への居住について、現時点で判断ができない理由はどのようなことですか。(〇はいくつでも)

1. 周辺環境がわからないから
2. 病院、道路、公共交通などの社会基盤(インフラ)がどの程度整備されるかわからないから
3. 生活関連施設がどの程度整備されるかわからないから
4. 生活の拠点にできるかわからないから
5. どのような人が住むかわからなく不安だから
6. 自身の生活の見通しがたっていないから
7. 帰還困難区域の自宅近辺の避難指示解除・復興の見通しによってはそちらに居住したいから
8. その他(具体的に: _____)

→ 問13で「2. 戻りたいと考えている(将来的な希望も含む)」を選んだ方は、問20(15 ページ)へ

→ 問13で「3. まだ判断がつかない」を選んだ方は、問17-1(11 ページ)へ

問 17-1 からは、問 13 で「3. まだ判断がつかない」と回答した方にうかがいます。

問 17-1 大熊町へ戻ることを判断するために必要なことを教えてください。(○はいくつでも)

1. 帰還困難区域の避難指示解除となる時期の目安に関する情報
2. 病院、道路、公共交通などの社会基盤(インフラ)の復旧時期の目途
3. どの程度の住民が戻るかの状況
4. 放射線量の低減の目途、除染成果の状況
5. 中間貯蔵施設の情報
6. 原子力発電所の安全性に関する情報(事故収束や廃炉の状況)
7. 放射線の人体への影響に関する情報
8. 働く場の確保の目途
9. 賠償額の確定
10. 住宅確保への支援に関する情報
11. 認定こども園、義務教育学校に関する情報
12. 小売店、飲食店等の営業情報
13. その他(具体的に: _____)

問 17-2 問 17-1 で選択した「必要なこと」のうち、特に必要と考えることについて選択肢番号の欄に番号をご記入いただき、具体的なお考えや今後の期待、要望などがあればご自由にお書きください。(最大3つまで)

問 17-1 の 選択肢番号	具体的なお考えや今後の期待、要望

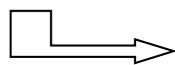
問 18-1 からは、問 13 で「3. まだ判断がつかない」
「4. 戻らないと決めている」と回答した方にうかがいます。

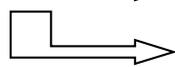
問 18-1 大熊町との“つながり”を保ちたいと思いますか。(○は1つ)

- | | |
|---------|-----------|
| 1. そう思う | 2. そう思わない |
|---------|-----------|

問 18-2 今後、大熊町にどのぐらいの頻度で訪れたいと思いますか。(○は1つ)

- | | |
|---------------|--------------------|
| 1. 1週間に1回以上 | 5. 1年に1回程度 |
| 2. 1か月に1回程度 | 6. 2～3年に1回程度 |
| 3. 2～3か月に1回程度 | 7. 訪れるつもりはない |
| 4. 半年に1回程度 | 8. 訪れたいが訪れることができない |

 問 13 で「3. まだ判断がつかない」を選んだ方は、問 20(15 ページ)へ

 問 13 で「4. 戻らないと決めている」を選んだ方は、問 19-1(13 ページ)へ

問 19-1 からは、問 13 で
「4. 戻らないと決めている」と回答した方にうかがいます。

問 19-1 現時点で戻らないと決めている理由はどのようなことですか。(○はいくつでも)

【帰町的前提・健康に関わるもの】

1. 放射線量が低減せず不安だから
2. 原子力発電所の安全性に不安があるから
3. 水道水などの生活用水の安全性に不安があるから
4. 中間貯蔵施設が整備されているから
5. 原子力発電所の廃炉作業が行われているから

【町内の復旧状況に関わるもの】

6. 特定復興再生拠点区域外であり解除の見通しが立っていないから
7. 大熊町に戻っても仕事がなさそうだから
8. 大熊町での事業の再開が難しいから
9. 営農再開に不安があるから
10. 家が住める状況ではないから
11. 大熊町外への移動交通が不便だから
12. 道路、鉄道等の交通インフラに不安があるから
13. 医療環境に不安があるから
14. 介護・福祉サービスに不安があるから
15. 教育環境に不安があるから
16. 生活に必要な商業施設などが不足しているから

【今後の生活に関わるもの】

17. 高齢者・要介護者のいる世帯なので生活が不安だから
18. 子供の遊び場(屋内・屋外)が無いから
19. 他の住民も戻りそうにないから
20. 津波被害を受ける可能性があるから
21. 帰町までに時間がかかるから
22. 避難先で仕事を見つけているから
23. 今の環境で子どもの教育を継続させたいから
24. 避難先の方が、生活利便性が高いから
25. すでに生活基盤ができているから
26. その他

（具体的に：

問 19-2 問 19-1 で選択した「戻らない理由」のうち、特に重要と考えることについて選択肢番号の欄に番号をご記入いただき、具体的なお考えや今後の要望などがあればご自由にお書きください。(最大3つまで)

問 19-1 の 選択肢番号	具体的なお考えや今後の要望

問 19-3 今後の生活においてどのような支援を求めますか。(○はいくつでも)

1. 継続的な健康管理の支援
2. 雇用確保の支援
3. 役場からの継続的な情報提供
4. イベントや交流の場の開催

5. 一時帰宅支援

6. その他

（具体的に：

問 19-4 今後の居住を検討している(既に居住している場合を含む)自治体はどの自治体になるかを教えてください。(○は1つ)

【浜通り】

1. いわき市
2. 相馬市
3. 南相馬市
4. 広野町
5. 檜葉町
6. 富岡町
7. 川内村
8. 浪江町
9. 双葉町
10. 葛尾村
11. 新地町
12. 飯館村

【中通り(県中)】

21. 郡山市
22. 須賀川市
23. 田村市
24. 鏡石町
25. 天栄村
26. 三春町
27. 小野町
28. 石川町
29. 玉川村
30. 平田村
31. 浅川町
32. 古殿町

【会津】

42. 会津若松市
43. 喜多方市
44. 下郷町
45. 檜枝岐村
46. 只見町
47. 南会津町
48. 北塩原村
49. 西会津町
50. 磐梯町
51. 猪苗代町
52. 会津坂下町
53. 湯川村
54. 柳津町
55. 三島町
56. 金山町
57. 昭和村
58. 会津美里町

【中通り(県北)】

13. 福島市
14. 二本松市
15. 伊達市
16. 本宮市
17. 桑折町
18. 国見町
19. 川俣町
20. 大玉村

【中通り(県南)】

33. 白河市
34. 西郷村
35. 泉崎村
36. 中島村
37. 矢吹町
38. 棚倉町
39. 矢祭町
40. 塙町
41. 鮫川村

【福島県外】

59. 福島県外(具体的にご記入ください)

(都・道・府・県)

(市・町・村・区)

問 19-5 今後のお住まいとして希望する(既に居住している場合を含む)住宅は、どのような形態ですか。(○は1つ)

- | | |
|-------------------------|-----------------|
| 1. 持ち家(一戸建) | 7. 給与住宅(社宅など) |
| 2. 持ち家(マンションなど) | 8. 家族のどなたかのお住まい |
| 3. 民間賃貸住宅(一戸建) | 9. 親戚・知人宅 |
| 4. 民間賃貸住宅(アパート・マンションなど) | 10. その他 |
| 5. 公営住宅(一戸建) | 具体的には: |
| 6. 公営住宅(アパート・マンションなど) | |

大熊町内での就労意向についてお聞かせください。

【すべての方にうかがいます。】

問 20 町では町内への企業誘致を進めています。町内で働く場が整備された際、あなたを含めたご家族で就労を希望する方はいらっしゃいますか。(○は1つ)
町内で就労したい方は、就労を希望する人数を性別ごとにご回答ください。

1. 町内で就労したい
⇒〔就労を希望する方の人数： 男性 人 / 女性 人 / 無回答 人 〕
2. 条件が合えば町内で就労したい
3. 町内での就労希望者はいない

不動産（土地・家屋）の取り扱い意向についてお聞かせください。

【すべての方にうかがいます。】

問 21-1 町内に保有している宅地・建物の利用意向についてうかがいます。
現時点でのご意向に関して、もっとも近いものはどれですか。(○は1つ)
(複数所有している場合は自宅についてお答えください)

1. 世帯で保有している宅地・建物はな
2. 宅地・建物を自ら使いたい
3. 宅地・建物を親戚・親族・友人に使って
4. 宅地・建物の売却や賃貸を考えている ⇒ 問 21-2 へ
5. 建物を解体して建替えたい
6. 建物を解体して更地にしたい
7. 宅地・建物除染後に判断したい
8. 帰還困難区域のため決められない
9. その他(具体的に: _____)

↳ 問 21-1 で「4」以外を選んだ方は、問 22-1(17 ページ)へ

【問 21-1 で「4. 宅地・建物の売却や賃貸を考えている」と回答した方にうかがいます。】

問 21-2 現在おおくままちづくり公社では不動産利活用事業を行っています。あなたはこの事業に登録されていますか。(○は1つ)

1. 登録している ⇒ 問 22-1(17 ページ)へ
2. 登録していない ⇒ 問 21-3 へ

◆不動産利活用事業とは◆

町がおおくままちづくり公社に委託している事業で、不動産の売買や賃貸を希望する町民に土地や建物の情報を登録いただき、利用希望者とのマッチングを行い、町内不動産の利活用につなげることを目的としています。

問い合わせ先 : 一般社団法人 おおくままちづくり公社
電話番号 : 0240-23-7101
受付 : 平日 9時～17時45分

【問 21-2 で「2. 登録していない」と回答した方にうかがいます。】

問 21-3 おおくままちづくり公社の不動産利活用事業に登録されていない理由を教えてください。(○は1つ)

1. 不動産利活用事業を知らなかったから
2. 所有している宅地・建物が荒廃していて登録できるとは思わなかったから
3. おおくままちづくり公社以外の不動産業者に依頼を考えているから
4. その他(具体的に: _____)

復興公営住宅についてお聞かせください。

◆復興公営住宅とは◆

将来の帰町に向け、仮設住宅等から安定的な居住・生活環境に移っていただくためなど、原子力災害により避難の継続を余儀なくされている方々の居住の安定を確保するために、福島県が主体となり整備している公営住宅。

※大熊町が整備した町内の災害公営住宅とは異なりますのでご注意ください。

【すべての方にうかがいます。】

問 22-1 福島県営の復興公営住宅（大熊町外）への入居意向について教えてください。（○は1つ）

- | | |
|---|-------------------------|
| 1. すでに入居している、もしくは入居の申し込み中である | 3. 入居を希望しない |
| 2. 今後、入居の申し込みをしたい
⇒ 問 22-2 へ | 4. 判断できない [判断できない理由:] |

→ [問 22-1](#) で「2」以外を選んだ方は、[問 23-1](#)（18 ページ）へ

【問 22-1 で「2. 今後、入居の申し込みをしたい」と回答した方にうかがいます。】

問 22-2 入居を希望する時期について教えてください。（○は1つ）

- | | | |
|----------|-------------|------------------|
| 1. 令和7年度 | 3. 令和9年度 | 5. その他 [具体的に:] |
| 2. 令和8年度 | 4. 令和10年度以降 | |

【問 22-1 で「2. 今後、入居の申し込みをしたい」と回答した方にうかがいます。】

問 22-3 入居を希望する市町村について教えてください。（○は1つ）

- | | | |
|----------|---------|---------|
| 1. 福島市 | 5. 白河市 | 9. 川俣町 |
| 2. 会津若松市 | 6. 二本松市 | 10. 三春町 |
| 3. 郡山市 | 7. 田村市 | 11. 広野町 |
| 4. いわき市 | 8. 南相馬市 | |

※この質問への回答により、入居申し込み等に影響があるものではありません

◆ [福島県の整備する復興公営住宅に関するお問い合わせはこちらへ](#) ◆

[福島県 生活拠点課 TEL : 024-521-8306](#)

大熊町からの情報入手についてお聞かせください。

【すべての方にうかがいます。】

問 23-1 大熊町に関する情報を、どこでお知りになりますか。(○はいくつでも)

- | | |
|------------------------------|-----------------|
| 1. 広報おおくま | 9. テレビ |
| 2. 大熊町お知らせメール | 10. ラジオ |
| 3. 大熊町公式ホームページ | 11. インターネット・SNS |
| 4. 大熊町公式ライン | 12. 家族・友人・知人から |
| 5. 大熊町公式フェイスブック
(おおくま広報室) | 13. その他 |
| 6. 大熊町公式インスタグラム | 【具体的に: |
| 7. 新聞(福島県内の地方紙) | 】 |
| 8. 新聞(全国紙、福島県以外の地方紙) | |

【すべての方にうかがいます。】

問 23-2 大熊町役場からの情報提供にどの程度満足していますか。(○は1つ)

- | | |
|--------------|---------------|
| 1. 満足している | 4. あまり満足していない |
| 2. やや満足している | 5. 満足していない |
| 3. どちらともいえない | |

【すべての方にうかがいます。】

問 23-3 大熊町からの情報で強い関心があるものは何ですか。(○はいくつでも)

- | | |
|----------------|-------------------------|
| 1. 現在の大熊町内の様子 | 7. 医療・福祉・介護に関すること |
| 2. 復興計画の進行状況 | 8. 子育て・教育に関すること |
| 3. 各種手続きに関すること | 9. 生涯学習・スポーツ・施設利用に関する情報 |
| 4. イベント情報 | 10. その他 |
| 5. 町長の動向 | 【具体的に: |
| 6. 防火・防災・災害情報 | 】 |

大熊町の持続可能なまちづくりへの取り組みについてお聞かせください。

大熊町は令和3年2月、ゼロカーボンビジョンを策定しました。

これは、二酸化炭素の排出を大幅に削減し、2040年には実質ゼロ、2050年にはマイナス達成とすることを目指すものです。

大熊町は、原発事故を経験した町だからこそ、原発や化石エネルギーに頼らず、地域の再生可能エネルギーを活用した持続可能なまちづくりに取り組み、私たちの子ども、孫たちが誇りをもって語れる町を目指します。

大熊町は「徹底した省エネの取り組み」、「再生可能エネルギーの地産地消」の先導的エリアとして、下野上スマートコミュニティの整備を行う等、ゼロカーボンの達成に向けた取り組みを推進しています。

※ 大熊町ゼロカーボンビジョンに関すること
(大熊町ホームページ内)



【すべての方にうかがいます。】

問 24-1 「大熊町ゼロカーボンビジョン」をご存じでしたか。(○は1つ)

1. 知っていた
2. ゼロカーボンビジョンは知っていたが、内容は知らなかった
3. 知らなかった

【すべての方にうかがいます。】

問 24-2 大熊町の目指している持続可能なまちづくりへの取り組みについて、ご意見などをご自由にお書きください。

国や福島県、大熊町へのご意見などについてお聞かせください。

【すべての方にうかがいます。】

問 25 国や福島県、大熊町への要望、復興に対するあなたの展望やお気持ちなどをご自由にお書きください。

以上でご回答いただく内容は終わりです。
ご協力いただきまして、誠にありがとうございました。

同封の返信用封筒にご記入済み調査票を入れて、
11月18日(火)までに郵便ポストに投函してください(切手は不要です)。

**大熊町 住民意向調査
報告書**

令和8年3月

復興庁 福島県 大熊町

調査機関:株式会社サーベイリサーチセンター

